

桐生市
地域福祉に関する
アンケート調査報告書

令和元年 7 月

桐生市

目 次

第1章 調査概要	1
1. 目的	3
2. 調査項目	3
3. 調査設計	3
4. 回収状況	3
5. 調査結果を見る上での注意事項	4
第2章 調査回答者の属性	5
1. 基本属性	7
第3章 調査結果	9
1. 地域とのかかわりについて	11
(1) 近所付き合いの程度	11
(2) 近所付き合いへの考え	13
(3) 近所付き合いとしてできると思うこと	15
(4) 近所付き合いとしてしてほしいこと	17
(5) 参加している地域活動	19
2. 困りごとや悩みごとについて	21
(1) 日常生活で不安を感じる困りごとや悩みごと	21
(2) 福祉に関する困りごとや悩みごとに対する情報入手先	23
(3) 困りごとがあった際の相談先	25
3. 福祉サービスについて	27
(1) 民生委員・児童委員の認知度	27
(2) 桐生市社会福祉協議会の認知度	29
(3) 支部社会福祉協議会の活動の認知度	31
(4) 支部社会福祉協議会の活動を推進するために必要なこと	33
(5) 地域包括支援センターの認知度	35
(6) 福祉サービス利用経験の有無	37
(7) 福祉サービスの利用にあたって困ったこと	39
4. ボランティア・市民活動について	41
(1) ボランティア・市民活動経験の有無	41
(2) 参加したボランティア・市民活動の内容	44
(3) ボランティア・市民活動に参加したきっかけ	46
(4) ボランティア・市民活動に参加したことがない理由	48
5. 保健医療等の情報について	50
(1) 避難行動要支援者制度（登録名簿）の認知度	50
(2) 災害時の避難や対応について不安に思うこと	52

(3) 関係づくりのために効果的な地域活動	54
(4) 虐待、家庭内暴力を見たり、聞いたりした経験の有無	56
(5) 虐待、家庭内暴力を見たり、聞いたりした際の対応	58
6. これからの地域福祉について	60
(1) 地域福祉への関心度	60
(2) 地域福祉を推進していくために重要なこと	64
(3) 現在の「地域福祉」の取り組みに対する充実度	68
7. 自由回答	71

第4章 調査票	79
---------	----

第 1 章 調査概要

1. 目的

本市の地域福祉をめぐる現状や市民意識の状況を把握し、次期計画の基礎資料とするものである。

2. 調査項目

- (1) 地域とのかかわりについて (問7～問11)
- (2) 困りごとや悩みごとについて (問12～問14)
- (3) 福祉サービスについて (問15～問21)
- (4) ボランティア・市民活動について (問22～問24)
- (5) 安心・安全な暮らしについて (問25～問29)
- (6) これからの地域福祉について (問30～問32)
- (7) 自由回答 (問33)

3. 調査設計

- (1) 調査地域……桐生市全域
- (2) 調査対象……桐生市在住の満18歳以上の個人
- (3) 標本数……2,000人
- (4) 抽出方法……桐生市住民基本台帳に基づく無作為抽出法
- (5) 調査方法……郵送配布・郵送回収
- (6) 調査期間……2019年4月26日（金）～2019年5月15日（水）

4. 回収状況

- (1) 標本数 2,000人
- (2) 有効回収数 889人
- (3) 有効回収率 44.5%
- (4) 年代別回収率

	18-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-74歳	75歳以上	無回答	計
抽出数	216	199	325	311	172	353	424		2,000
回答数	51	56	108	150	86	206	229	3	889
回答率	23.6%	28.1%	33.2%	48.2%	50.0%	58.4%	54.0%		44.5%

5. 調査結果を見る上での注意事項

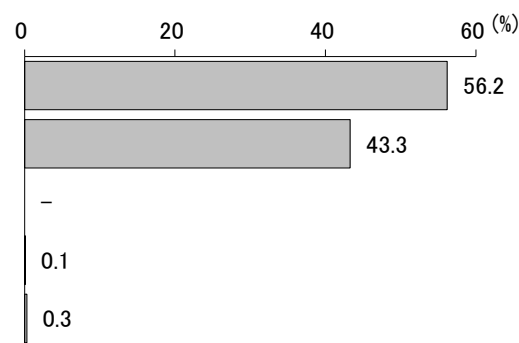
- (1) 集計は小数第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答率を合計しても100.0%にならない場合がある。
- (2) n (Number of Casesの略) は比率算出の基数であり、100.0%が何人の回答者数に相当するかを示している。
- (3) クロス集計を行う場合、属性等によっては基数nが少ない場合がある。nが少ない場合、1人の回答がその属性全体の結果に大きく影響するため、定量的には適切な分析をすることが難しい。このため本報告書では分析軸の項目のうちnが30未満と少ない場合、本文中ではふれていない。
- (4) 本文やグラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (5) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数nとして算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- (6) クロス結果の帯グラフについて、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、表側のカテゴリーの件数の合計が全体の件数と一致しないことがある。

第2章 調査回答者の属性

1. 基本属性

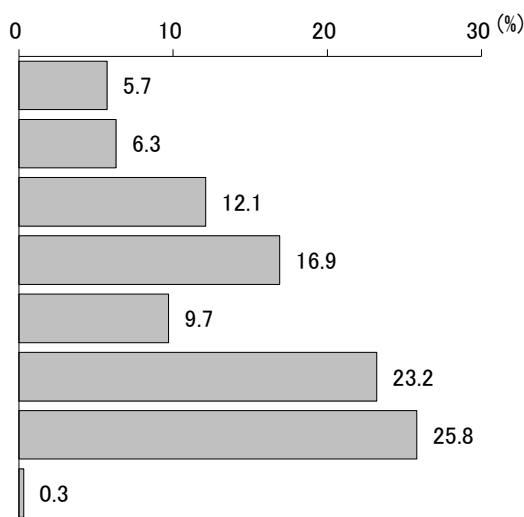
【性別（問1）】

	基数	構成比
女性	500	56.2%
男性	385	43.3%
その他	-	-
無回答	1	0.1%
無回答	3	0.3%



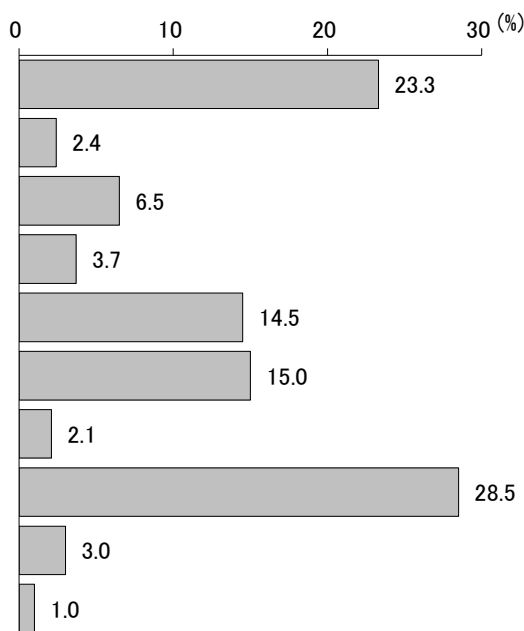
【年齢（問2）】

	基数	構成比
18～29歳	51	5.7%
30～39歳	56	6.3%
40～49歳	108	12.1%
50～59歳	150	16.9%
60～64歳	86	9.7%
65～74歳	206	23.2%
75歳以上	229	25.8%
無回答	3	0.3%



【職業（問3）】

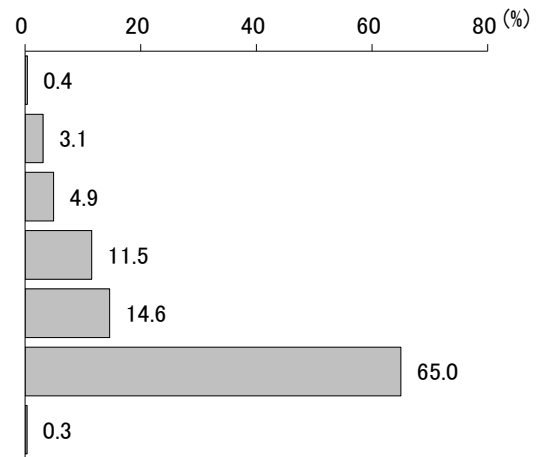
	基数	構成比
会社員・団体職員	207	23.3%
公務員	21	2.4%
会社経営・自営業主	58	6.5%
家族従業者	33	3.7%
パート・アルバイト	129	14.5%
家事専業	133	15.0%
学生	19	2.1%
無職(家事専業・学生を除く)	253	28.5%
その他	27	3.0%
無回答	9	1.0%



第2章 調査回答者の属性

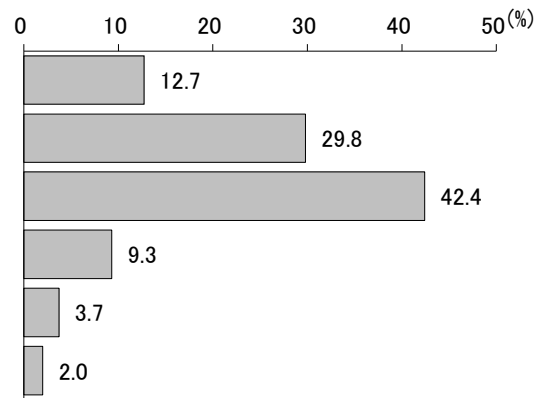
【居住年数（問4）】

	基数	構成比
1年未満	4	0.4%
1～5年未満	28	3.1%
5～10年未満	44	4.9%
10～20年未満	102	11.5%
20～30年未満	130	14.6%
30年以上	578	65.0%
無回答	3	0.3%



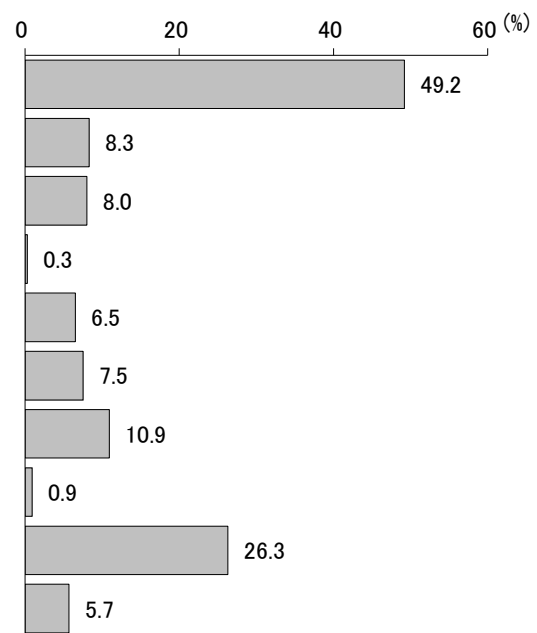
【家族構成（問5）】

	基数	構成比
ひとり暮らし	113	12.7%
あなたと配偶者	265	29.8%
2世代家族	377	42.4%
3世代家族	83	9.3%
その他	33	3.7%
無回答	18	2.0%



【同居家族（問6）】

	基数	構成比
65歳以上の方	437	49.2%
介護を必要とする方	74	8.3%
障がいのある方	71	8.0%
妊産婦	3	0.3%
乳幼児(小学校入学前の子ども)	58	6.5%
小学生	67	7.5%
中学生・高校生	97	10.9%
外国人	8	0.9%
1～8（上記）に該当する方は、 いずれもない	234	26.3%
無回答	51	5.7%

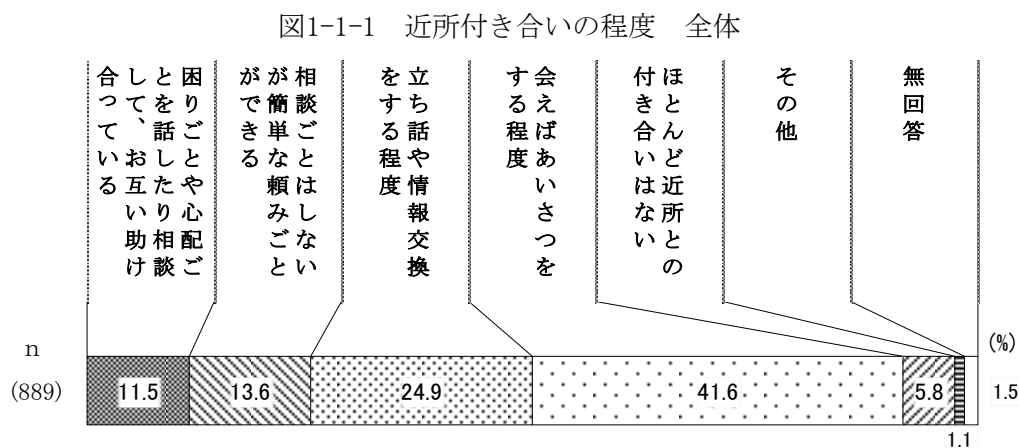


第 3 章 調査結果

1. 地域とのかかわりについて

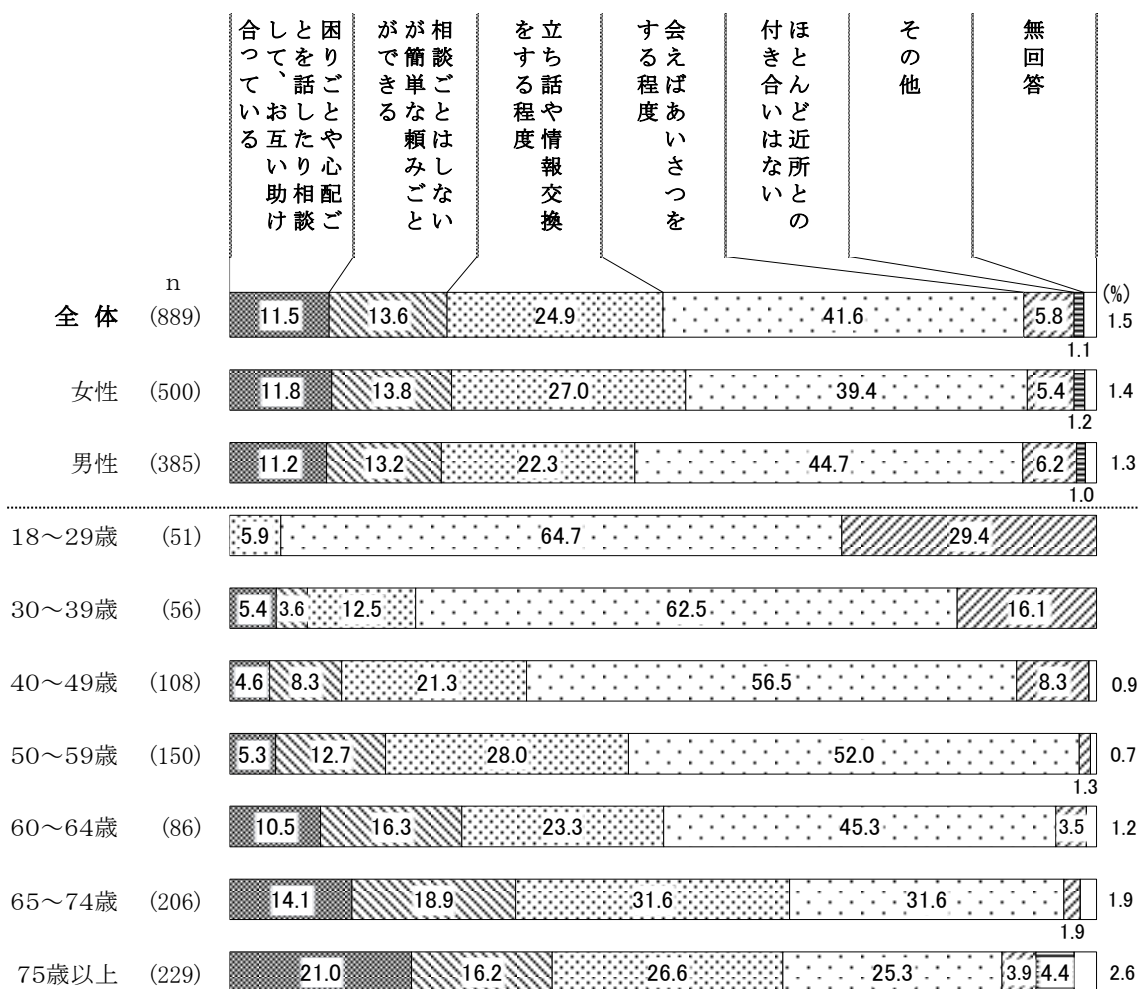
(1) 近所付き合いの程度

問7 あなたは、日頃、近所の方との関係は以下のどれに最も近いですか。【1つに○】



近所付き合いの程度について聞いたところ、「会えばあいさつをする程度」が41.6%と最も高かった。以下、「立ち話や情報交換をする程度」(24.9%)、「相談ごとはしないが簡単な頼みごとができる」(13.6%)、「困りごとや心配ごとを話したり相談して、お互い助け合っている」(11.5%)の順になっている。(図1-1-1)

図1-1-2 近所付き合いの程度 性・年代別



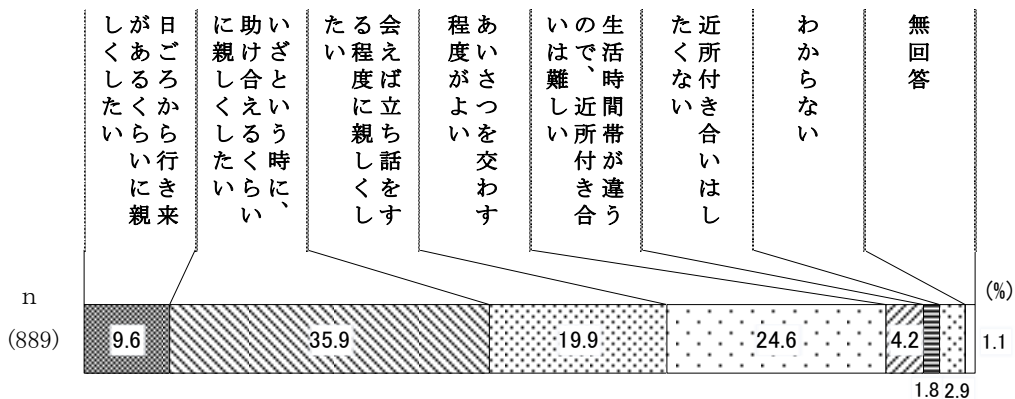
性別で見ると、「会えばあいさつをする程度」については男性（44.7%）が女性（39.4%）より5.3ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「会えばあいさつをする程度」については18～29歳（64.7%）、30～39歳（62.5%）、40～49歳（56.5%）、50～59歳（52.0%）が全体に比べて高く、年代が上がるにつれて割合は低くなる傾向にある。また、「ほとんど近所との付き合いはない」については18～29歳（29.4%）、30～39歳（16.1%）が高くなっている。（図1-1-2）

(2) 近所付き合いへの考え

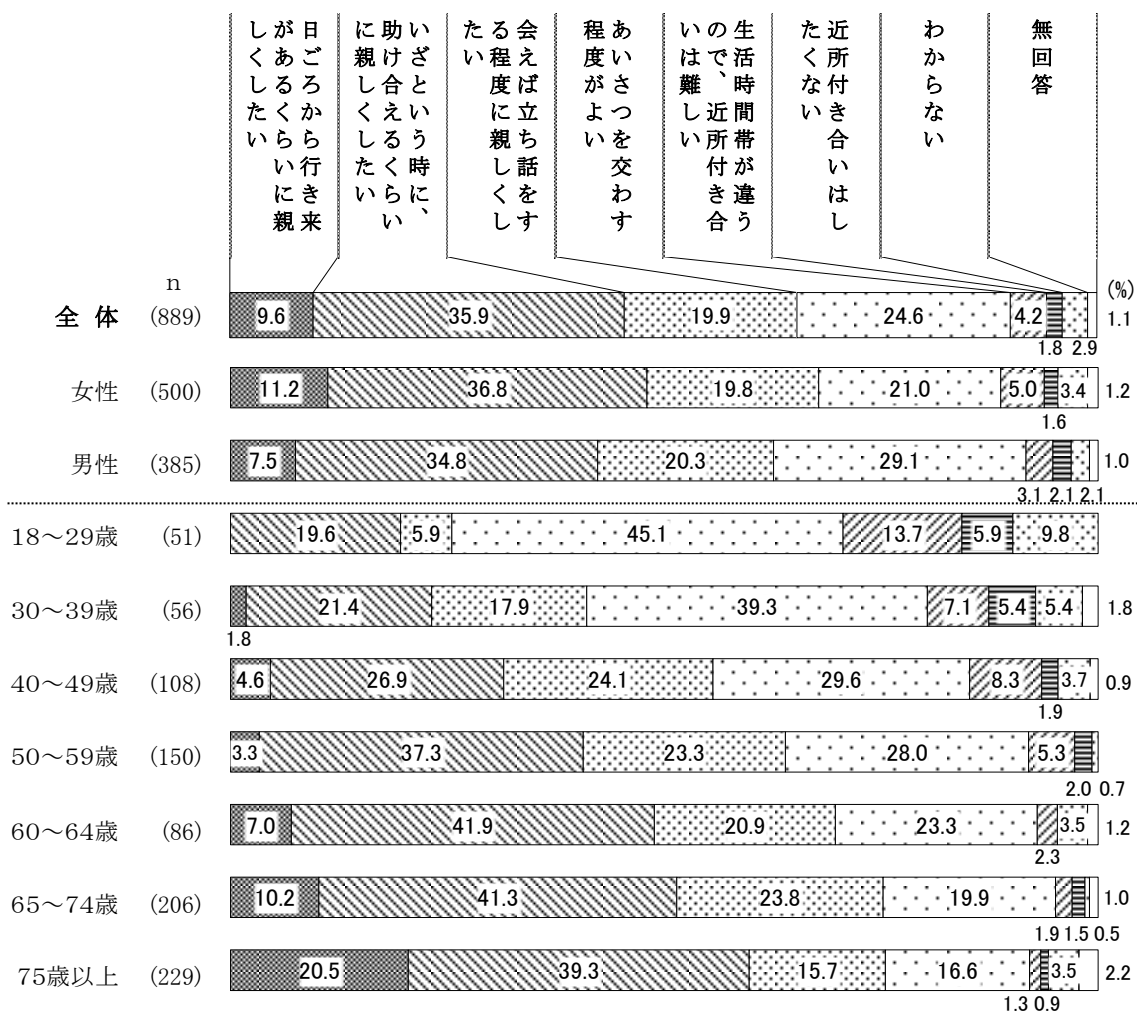
問8 今後、ご近所との付き合いについて、どのように感じていますか。【1つに〇】

図1-2-1 近所付き合いへの考え 全体



近所付き合いへの考えについて聞いたところ、「いざという時に、助け合えるくらいに親しくしたい」が35.9%と最も高かった。以下、「あいさつを交わす程度がよい」(24.6%)、「会えば立ち話をする程度に親しくしたい」(19.9%)、「日ごろから行き来があるくらいに親しくしたい」(9.6%)の順になっている。(図1-2-1)

図1-2-2 近所付き合いへの考え 性・年代別



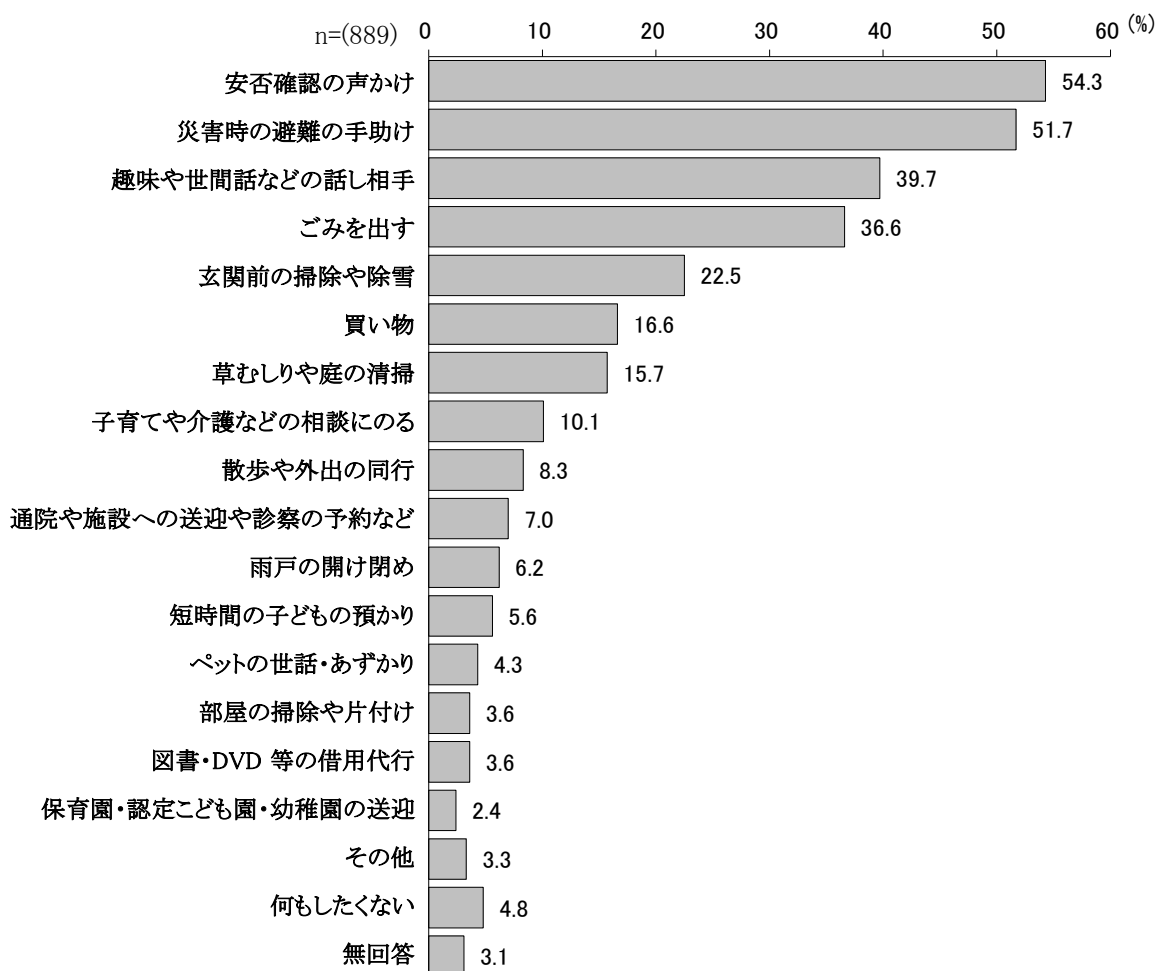
性別でみると、「あいさつを交わす程度がよい」については男性（29.1%）が女性（21.0%）より8.1ポイント高くなっている。

年代別でみると、「あいさつを交わす程度がよい」については18～29歳（45.1%）、30～39歳（39.3%）が全体に比べて高く、年代が上がるにつれて割合は低くなる傾向にある。また、「日ごろから行き来があるくらいに親しくしたい」については75歳以上（20.5%）が高くなっている。（図1-2-2）

(3) 近所付き合いとしてできると思うこと

問9 あなたは、となり近所の助け合いとして、何ができると思いますか。
【あてはまるものすべてに○】

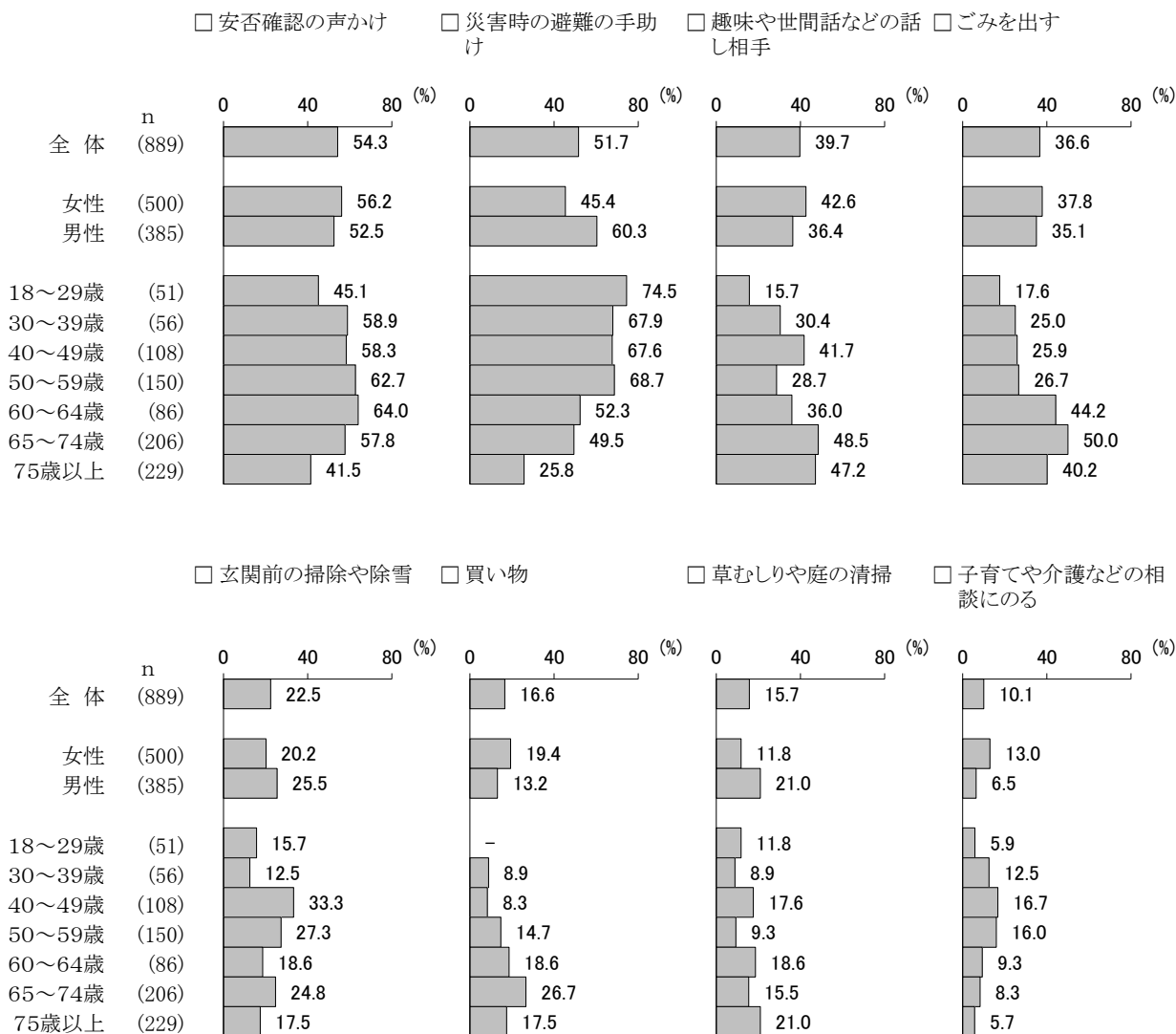
図1-3-1 近所付き合いとしてできると思うこと 全体



近所付き合いとしてできると思うことについて聞いたところ、「安否確認の声かけ」(54.3%)と「災害時の避難の手助け」(51.7%)が特に高かった。以下、「趣味や世間話などの話し相手」(39.7%)、「ごみを出す」(36.6%)の順になっている。(図1-3-1)

第3章 調査結果

図1-3-2 近所付き合いとしてできると思うこと 性・年代別（上位8項目）

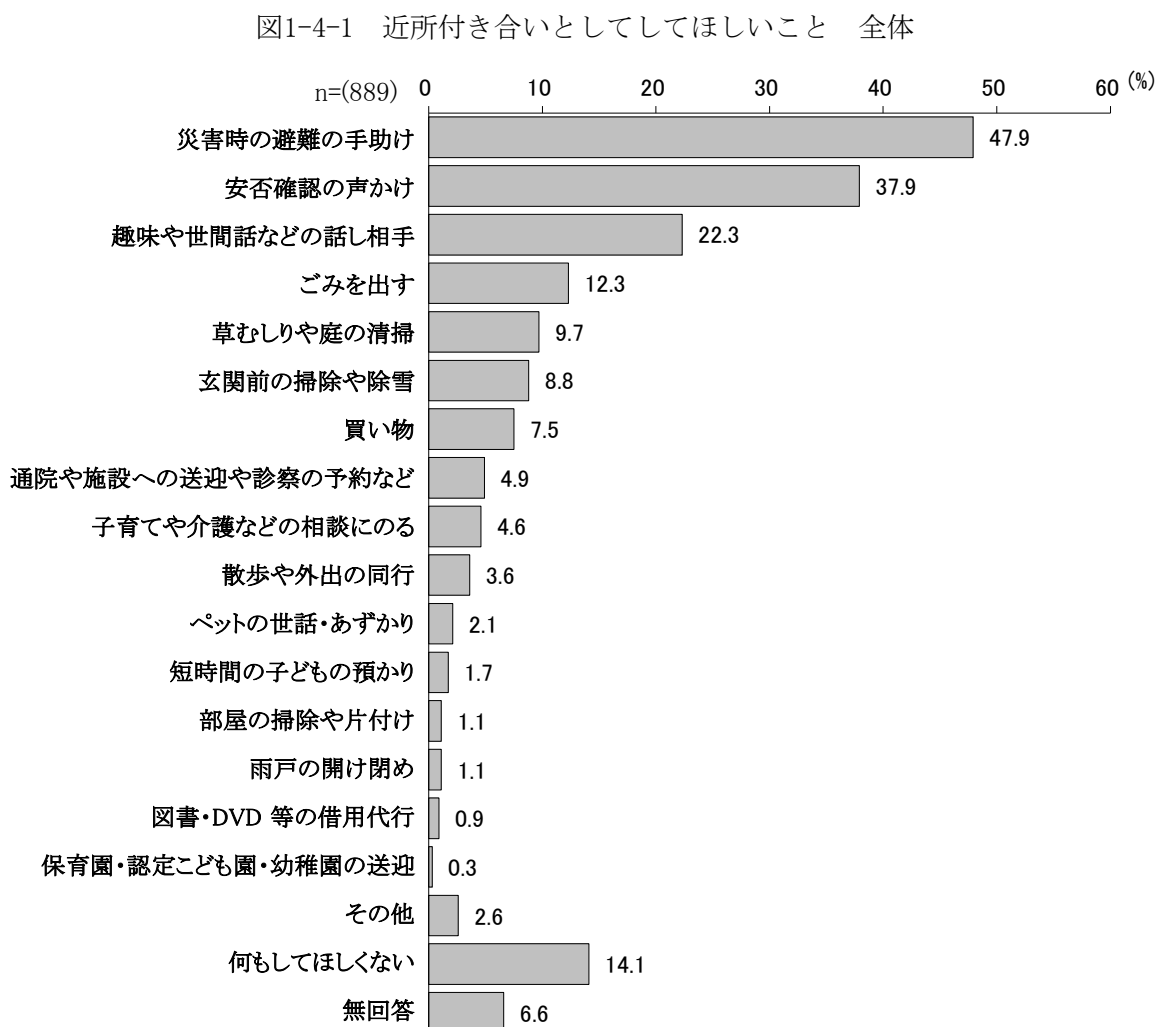


性別でみると、「災害時の避難の手助け」については男性（60.3%）が女性（45.4%）より14.9ポイント、「草むしりや庭の清掃」については男性（21.0%）が女性（11.8%）より9.2ポイント、「玄関前の掃除や除雪」については男性（25.5%）が女性（20.2%）より5.3ポイント高くなっている。一方、「子育てや介護などの相談にのる」については女性（13.0%）が男性（6.5%）より6.5ポイント、「趣味や世間話などの話し相手」については女性（42.6%）が男性（36.4%）より6.2ポイント、「買い物」については女性（19.4%）が男性（13.2%）より6.2ポイント高くなっている。

年代別でみると、「災害時の避難の手助け」については18~29歳（74.5%）、30~39歳（67.9%）、40~49歳（67.6%）、50~59歳（68.7%）が全体に比べて高かった。また、「ごみを出す」については65~74歳（50.0%）、「玄関前の掃除や除雪」については40~49歳（33.3%）、「買い物」については65~74歳（26.7%）が高くなっている。（図1-3-2）

(4) 近所付き合いとしてしてほしいこと

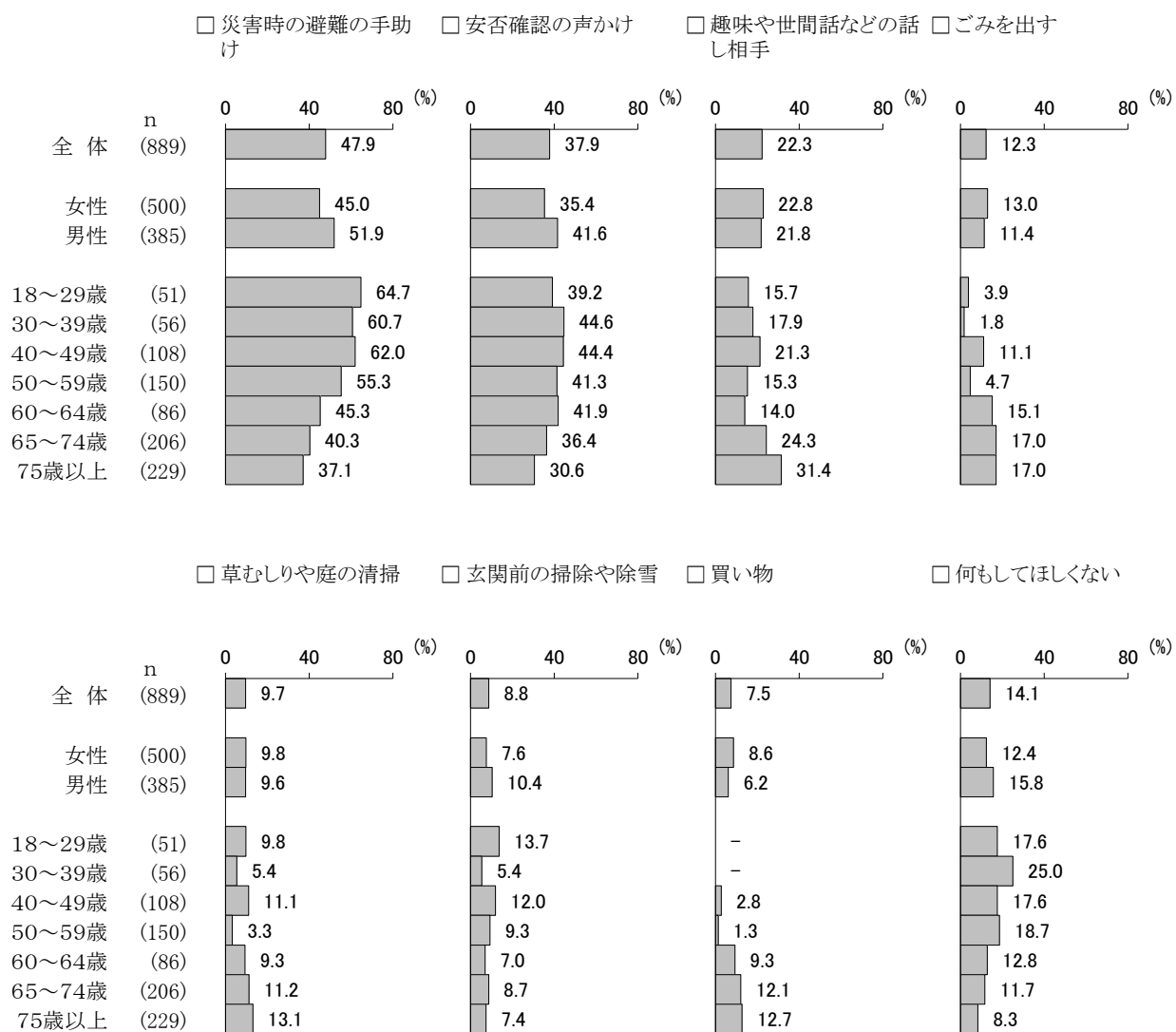
問10 あなたは、となり近所の人に手助けしてもらったら、どんなことをしてほしいですか。【あてはまるものすべてに○】



近所付き合いとしてしてほしいことについて聞いたところ、「災害時の避難の手助け」が47.9%と最も高かった。以下、「安否確認の声かけ」(37.9%)、「趣味や世間話などの話し相手」(22.3%)の順になっている。一方、「何もしてほしくない」は14.1%となっている。(図1-4-1)

第3章 調査結果

図1-4-2 近所付き合いとしてしてほしいこと 性・年代別（上位8項目）

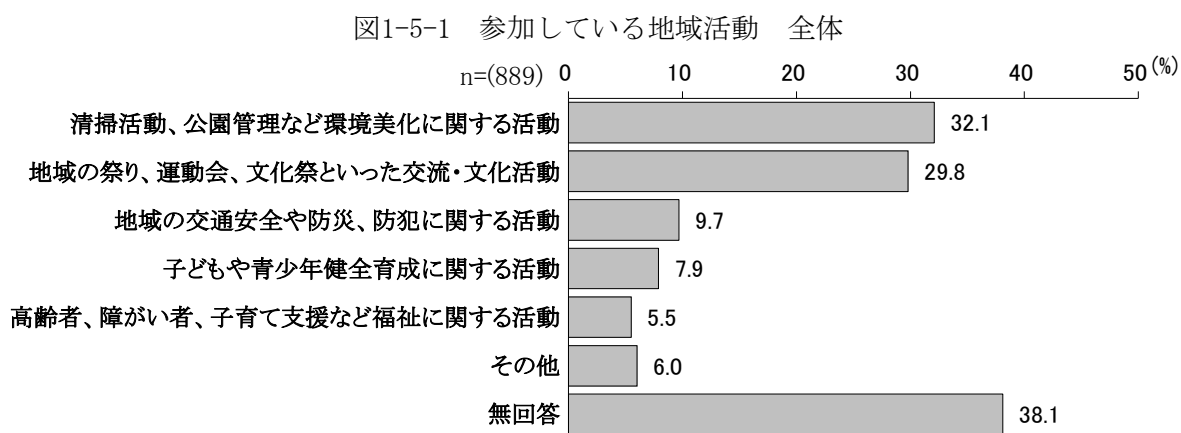


性別でみると、「災害時の避難の手助け」については男性（51.9%）が女性（45.0%）より6.9ポイント、「安否確認の声掛け」については男性（41.6%）が女性（35.4%）より6.2ポイント、高くなっている。

年代別でみると、「災害時の避難の手助け」については18～29歳（64.7%）、30～39歳（60.7%）、40～49歳（62.0%）が全体に比べて高かった。また、「何もしてほしくない」については30～39歳（25.0%）が高くなっている。（図1-4-2）

(5) 参加している地域活動

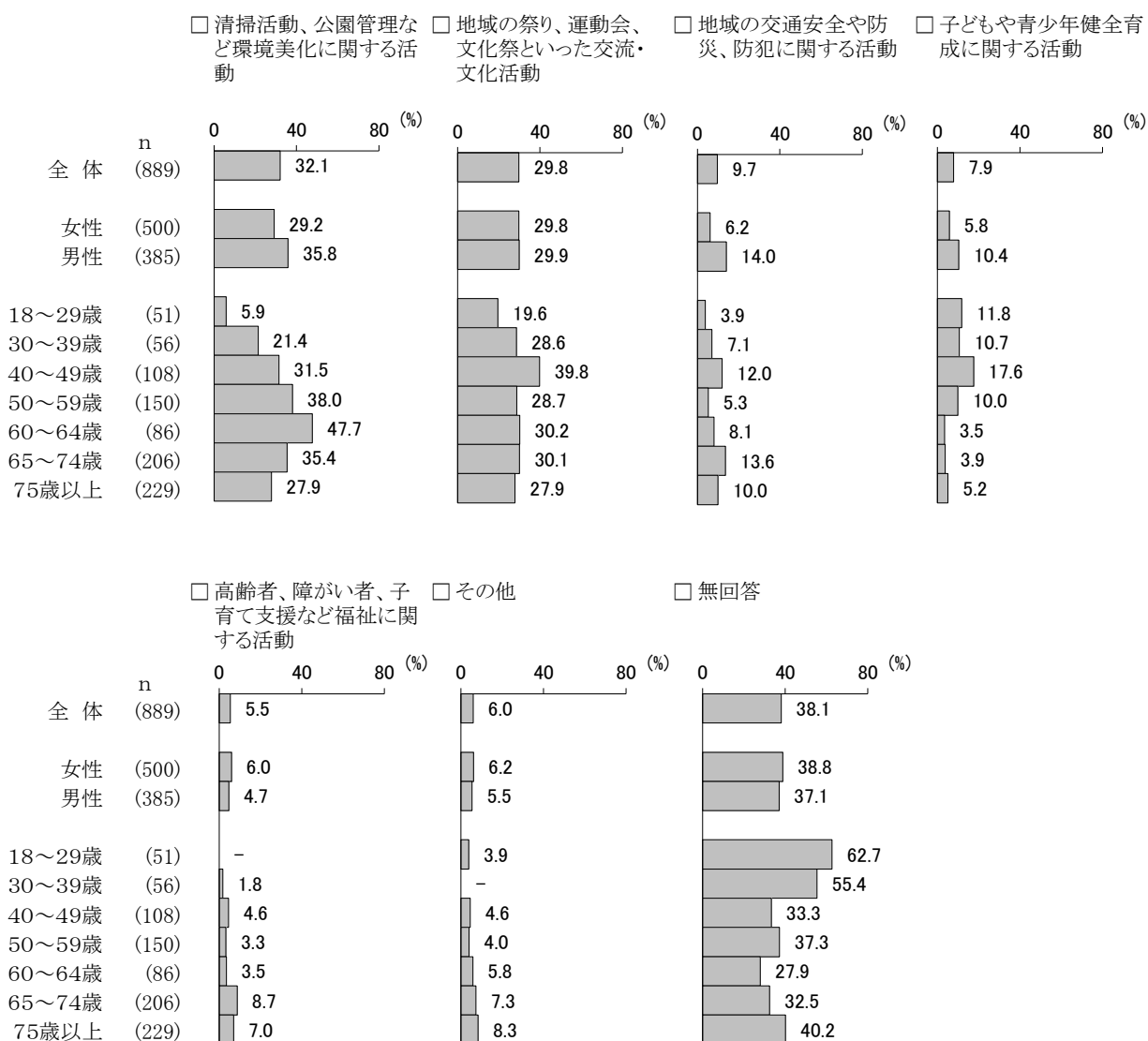
問11 あなたは、どのような地域活動に参加していますか。【あてはまるものすべてに○】



参加している地域活動について聞いたところ、「清掃活動、公園管理など環境美化に関する活動」(32.1%)、「地域の祭り、運動会、文化祭といった交流・文化活動」(29.8%)が特に高かった。一方、活動していない方を含む無回答は38.1%となっている。(図1-5-1)

第3章 調査結果

図1-5-2 参加している地域活動 性・年代別



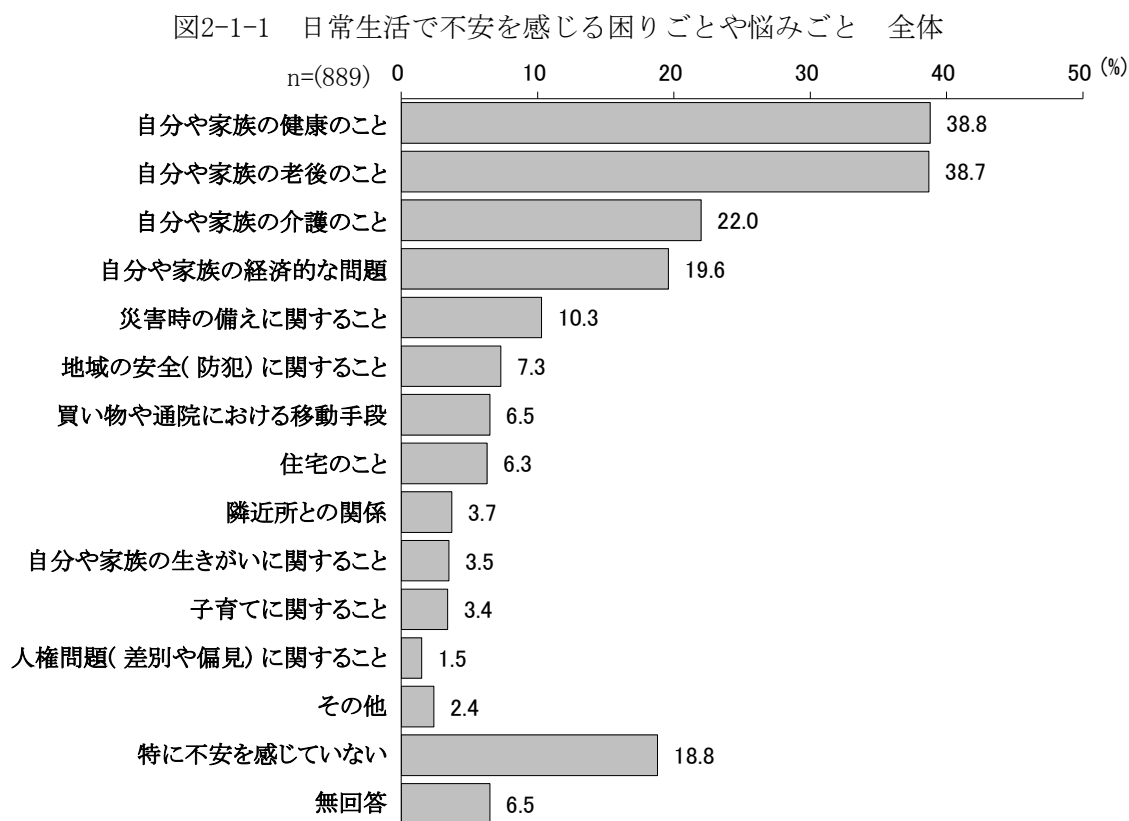
性別でみると、「地域の交通安全や防災、防犯に関する活動」については男性（14.0%）が女性（6.2%）より7.8ポイント、「清掃活動、公園管理など環境美化に関する活動」については男性（35.8%）が女性（29.2%）より6.6ポイント高くなっている。

年代別でみると、「清掃活動、公園管理など環境美化に関する活動」については60~64歳（47.7%）が全体に比べて高かった。また、「地域の祭り、運動会、文化祭といった交流・文化活動」については40~49歳（39.8%）が高くなっている。（図1-5-2）

2. 困りごとや悩みごとについて

(1) 日常生活で不安を感じる困りごとや悩みごと

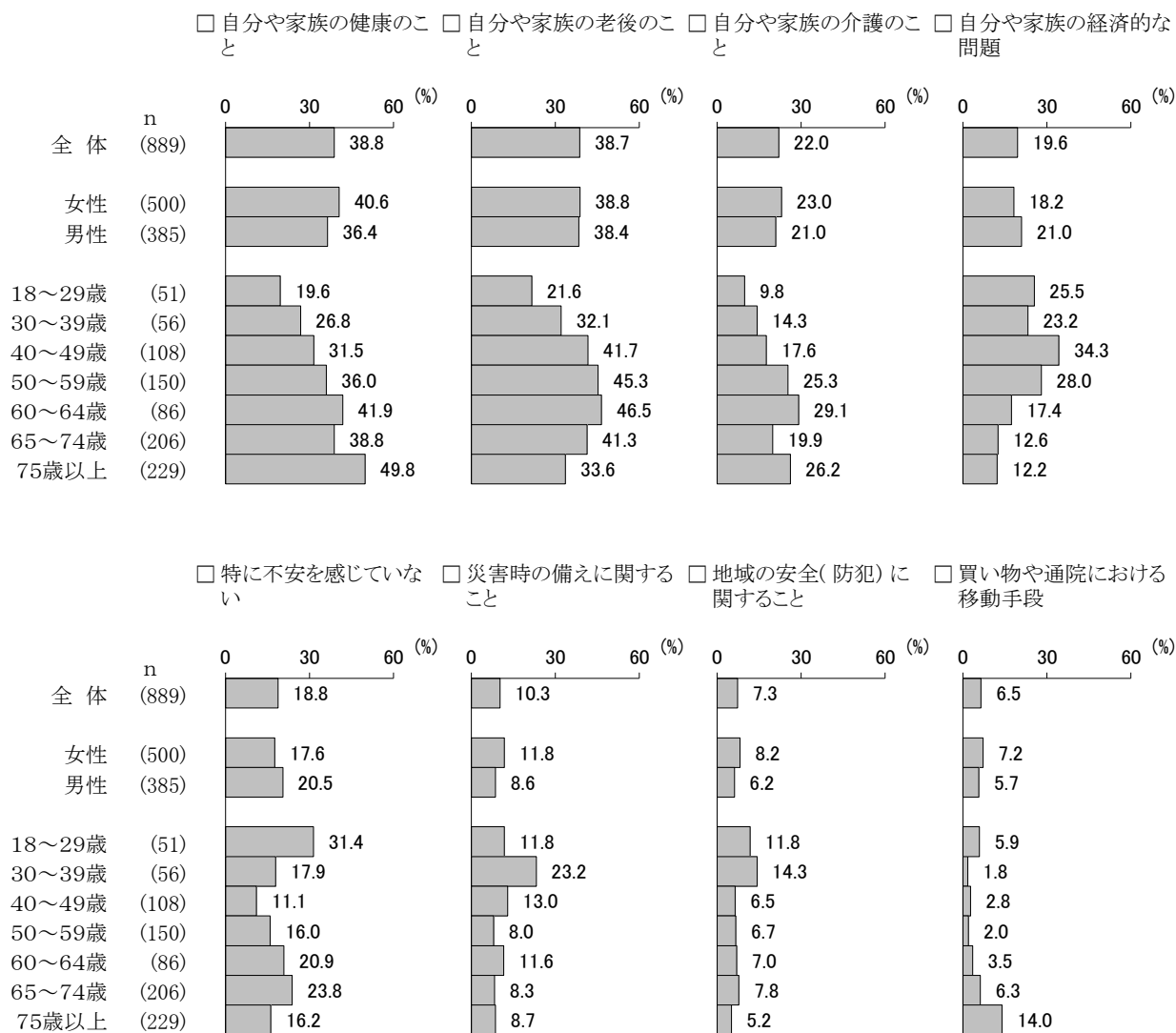
問12 あなたは現在、日常生活においてどのような困りごとや悩みごとに不安を感じていますか。【あてはまるもの3つまでに○】



日常生活で不安を感じる困りごとや悩みごとについて聞いたところ、「自分や家族の健康のこと」(38.8%)と「自分や家族の老後のこと」(38.7%)が特に高かった。以下、「自分や家族の介護のこと」(22.0%)、「自分や家族の経済的な問題」(19.6%)の順になっている。(図2-1-1)

第3章 調査結果

図2-1-2 日常生活で不安を感じる困りごとや悩みごと 性・年代別



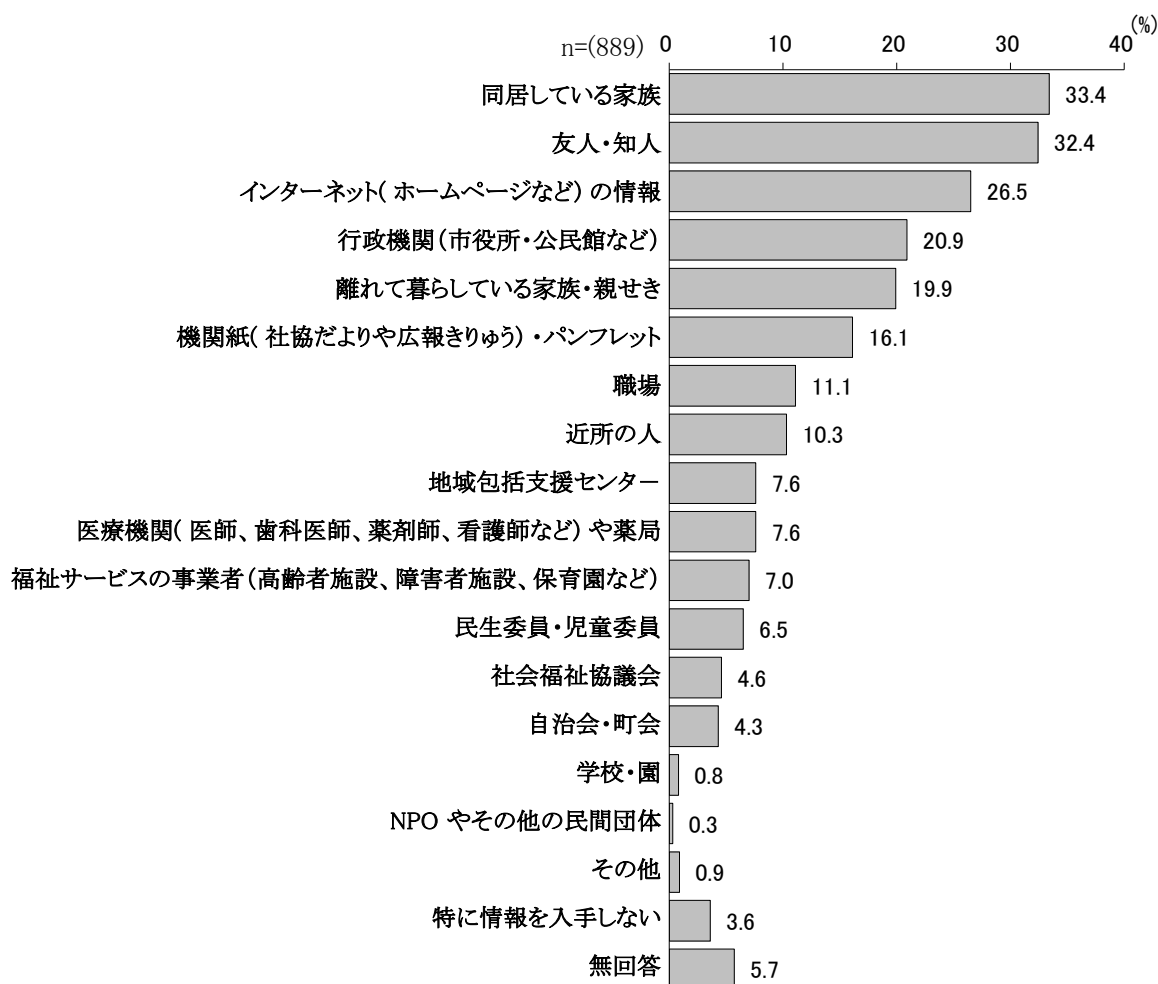
性別でみると、女性と男性の間に大きな差は見られなかった。

年代別でみると、「自分や家族の健康のこと」については75歳以上（49.8%）が全体に比べて高かった。また、「自分や家族の経済的な問題」については40～49歳（34.3%）、「特に不安を感じていない」については18～29歳（31.4%）、「災害時の備えに関すること」については30～39歳（23.2%）が高くなっている。（図2-1-2）

(2) 福祉に関する困りごとや悩みごとに対する情報入手先

問13 あなた自身は、福祉に関する困りごとや悩みごとが生じた場合、主にどこから情報を入手していますか。【あてはまるもの3つまでに○】

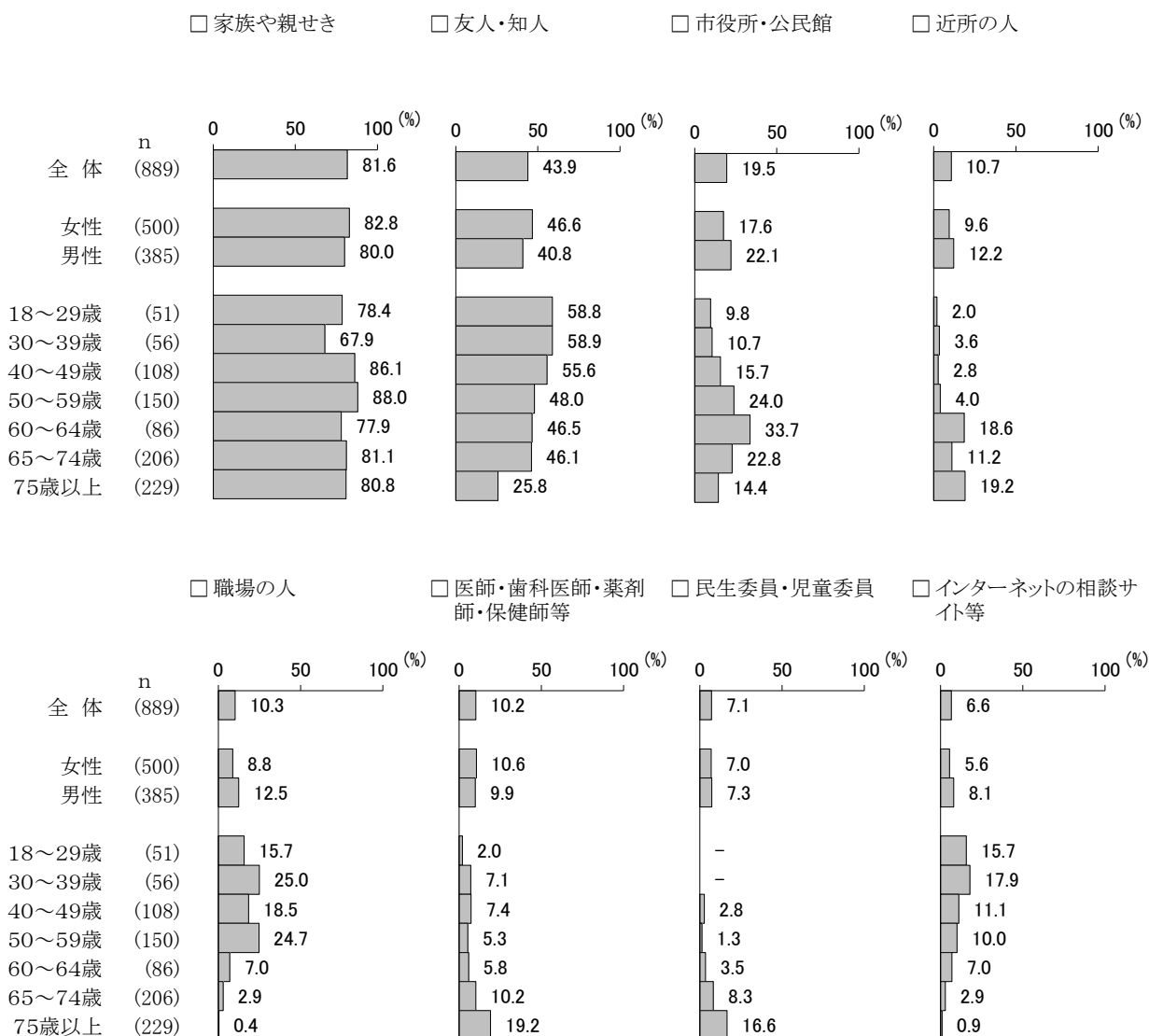
図2-2-1 福祉に関する困りごとや悩みごとに対する情報入手先 全体



福祉に関する困りごとや悩みごとに対する情報入手先について聞いたところ、「同居している家族」(33.4%)と「友人・知人」(32.4%)が特に高かった。以下、「インターネット(ホームページなど)の情報」(26.5%)、「行政機関(市役所・公民館など)」(20.9%)、「離れて暮らしている家族・親せき」(19.9%)の順になっている。(図2-2-1)

第3章 調査結果

図2-2-2 福祉に関する困りごとや悩みごとに対する情報入手先 性・年代別



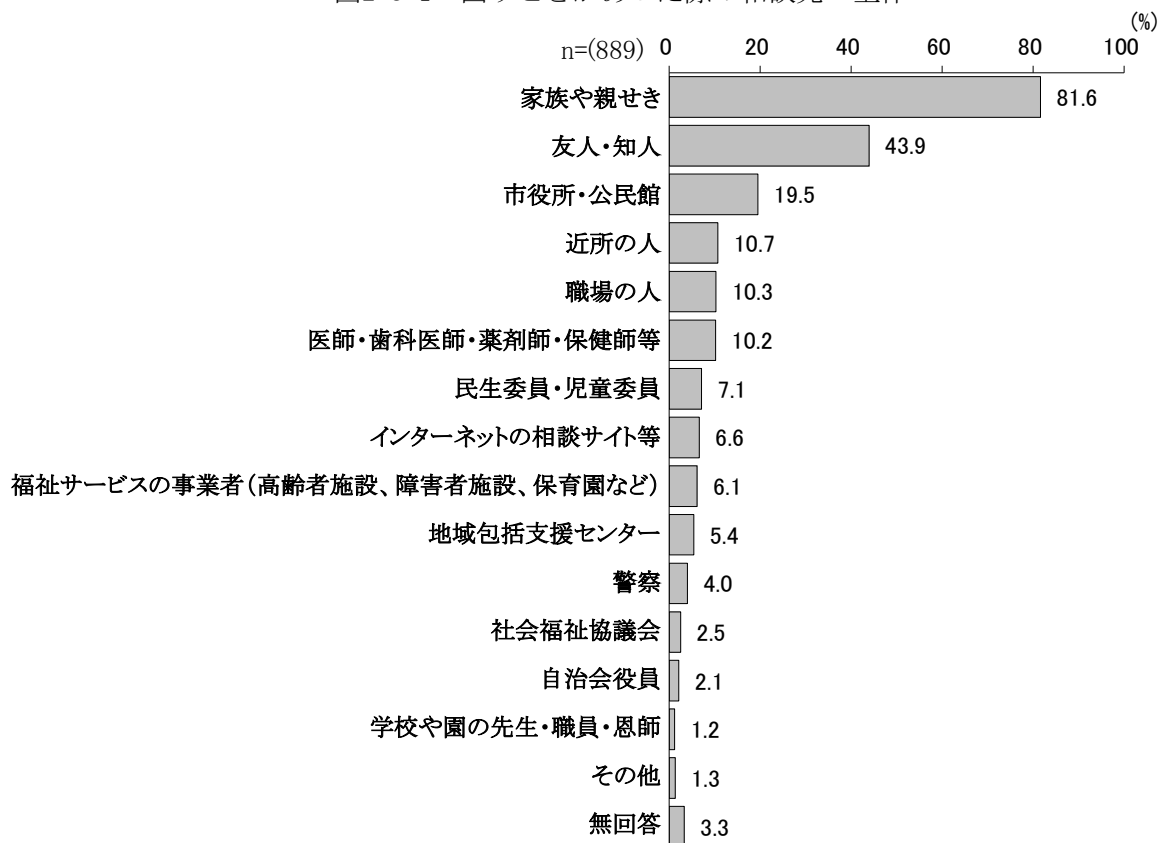
性別でみると、「友人・知人」については女性（37.0%）が男性（26.8%）より10.2ポイント高くなっている。

年代別でみると、「インターネット（ホームページなど）の情報」については18～29歳（39.2%）、30～39歳（46.4%）、40～49歳（45.4%）、50～59歳（47.3%）が全体に比べて高かった。また、「行政機関（市役所・公民館など）」については60～64歳（36.0%）、「職場」については30～39歳（23.2%）、40～49歳（26.9%）が高くなっている。（図2-2-2）

(3) 困りごとがあった際の相談先

問14 あなたはふだんの暮らしのなかで困ったことがあるときに、誰に相談したいと思いますか。【あてはまるもの3つまでに○】

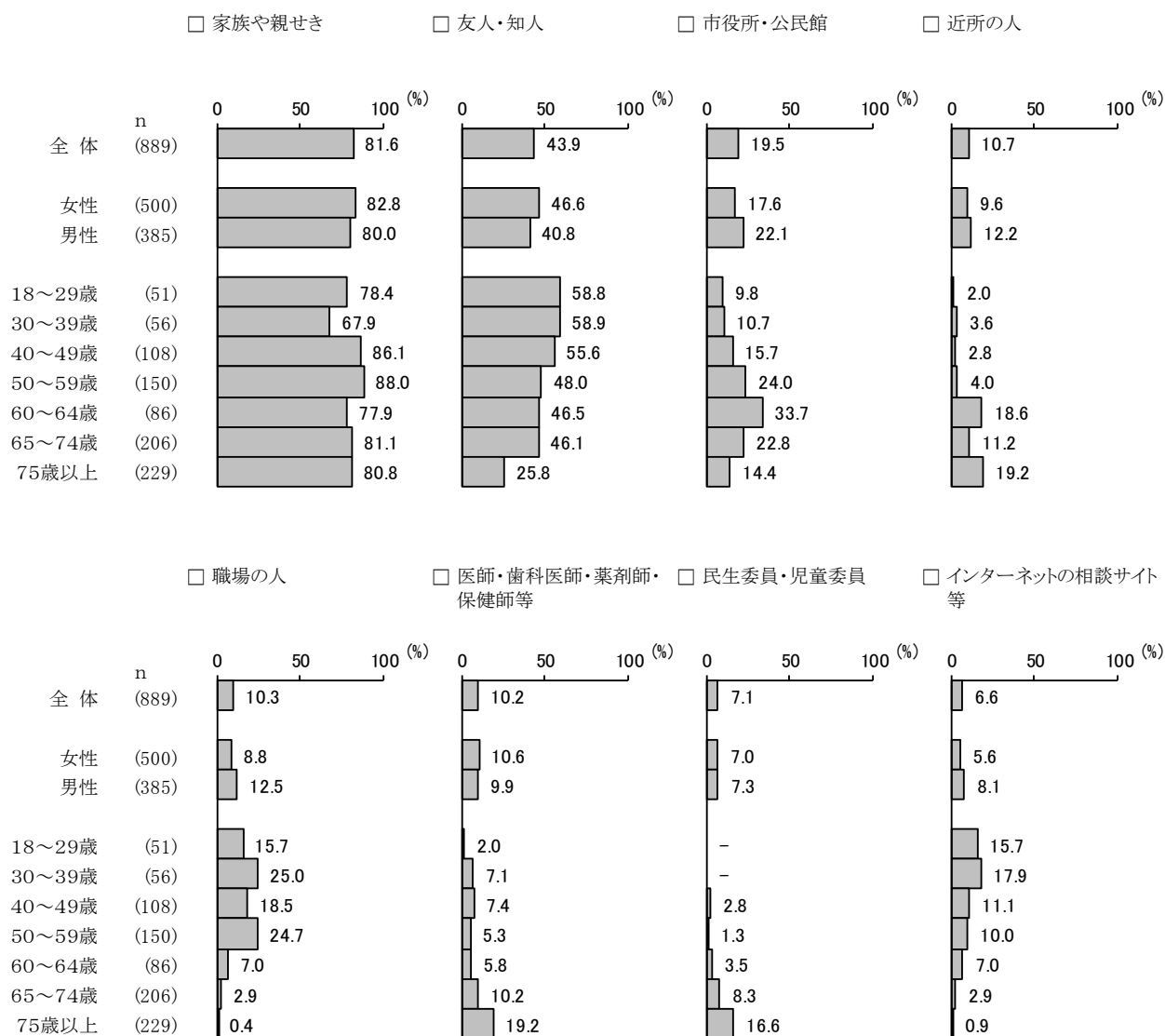
図2-3-1 困りごとがあった際の相談先 全体



困りごとがあった際の相談先について聞いたところ、「家族や親せき」が81.6%と最も高かった。以下、「友人・知人」(43.9%)、「市役所・公民館」(19.5%)、「近所の人」(10.7%)、「職場の人」(10.3%)、「医師・歯科医師・薬剤師・保健師等」(10.2%)の順になっている。(図2-3-1)

第3章 調査結果

図2-3-2 困りごとがあった際の相談先 性・年代別



性別でみると、「友人・知人」については女性（46.6%）が男性（40.8%）より5.8ポイント高くなっている。

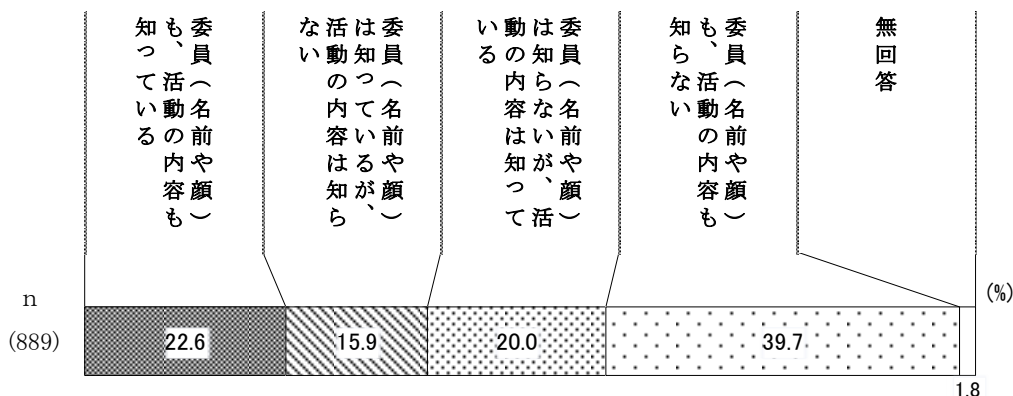
年代別でみると、「友人・知人」については、18～29歳（58.8%）、30～39歳（58.9%）、40～49歳（55.6%）が全体に比べて高かった。また、「市役所・公民館」については60～64歳（33.7%）、「職場の人」については30～39歳（25.0%）、50～59歳（24.7%）、「インターネットの相談サイト等」については30～39歳（17.9%）が高くなっている。（図2-3-2）

3. 福祉サービスについて

(1) 民生委員・児童委員の認知度

問15 あなたは、地区の民生委員・児童委員を知っていますか。【1つに○】

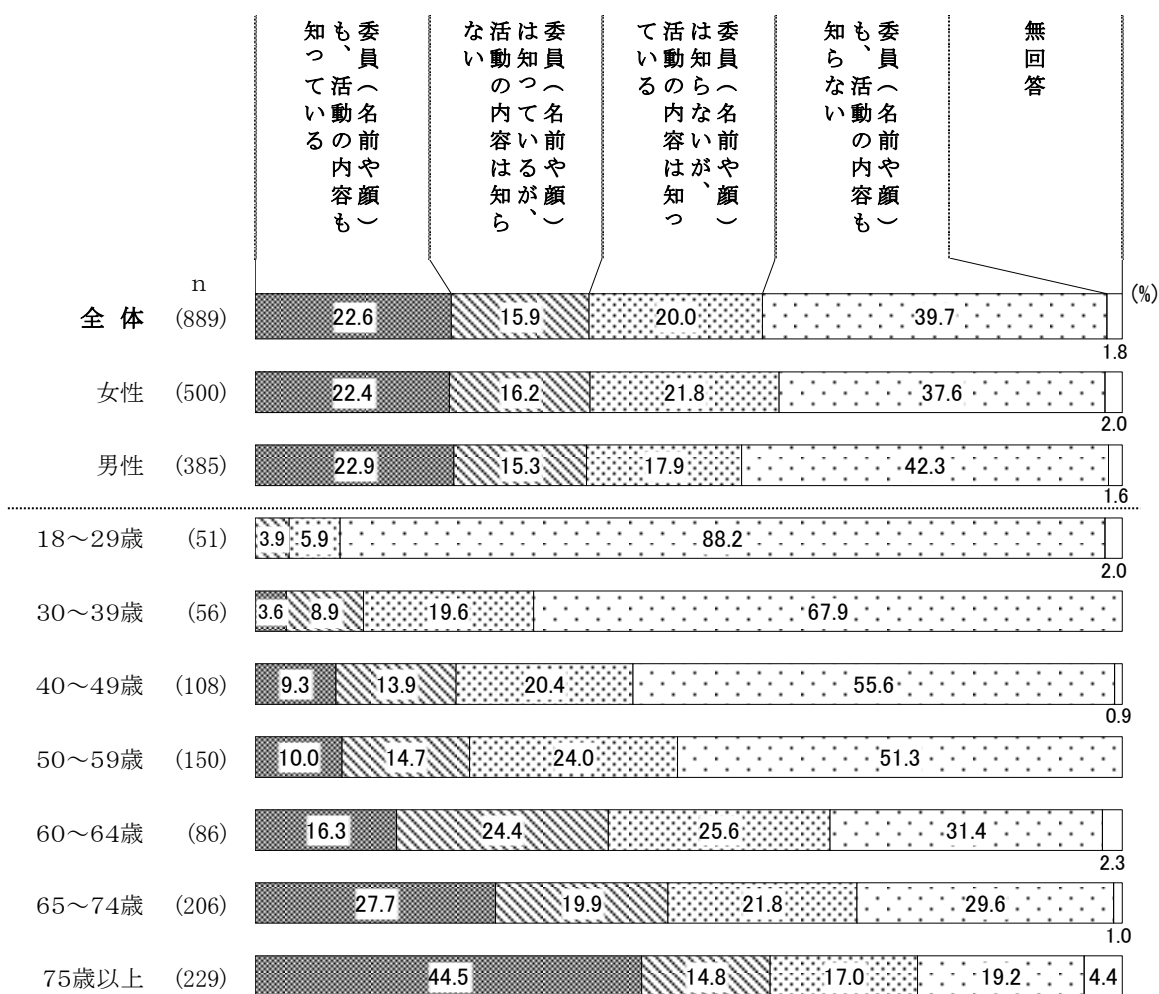
図3-1-1 民生委員・児童委員の認知度 全体



民生委員・児童委員の認知度について聞いたところ、「委員（名前や顔）も、活動の内容も知らない」が39.7%と最も高かった。以下、「委員（名前や顔）も、活動の内容も知っている」（22.6%）、「委員（名前や顔）は知らないが、活動の内容は知っている」（20.0%）、「委員（名前や顔）は知っているが、活動の内容は知らない」（15.9%）の順になっている。（図3-1-1）

第3章 調査結果

図3-1-2 民生委員・児童委員の認知度 性・年代別



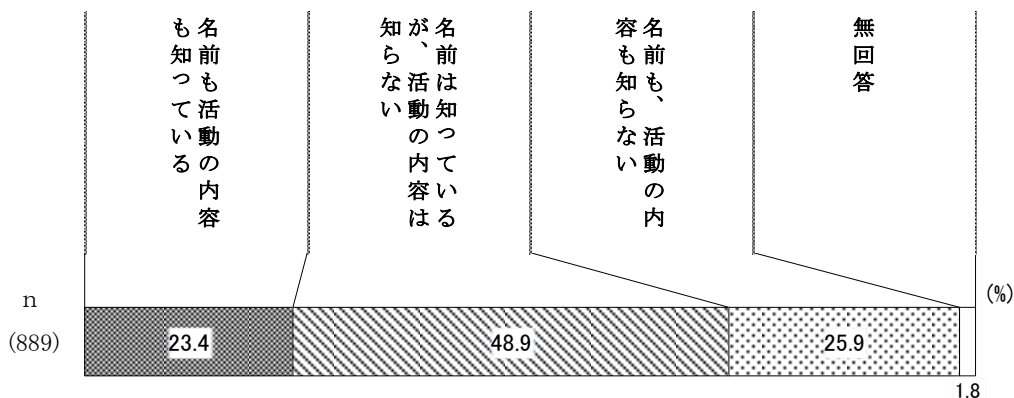
性別でみると、女性と男性の間で大きな差は見られなかった。

年代別でみると、「委員（名前や顔）も、活動の内容も知っている」については75歳以上（45.5%）が全体に比べて高かった。また、「委員（名前や顔）も、活動の内容も知らない」については18～29歳（88.2%）、30～39歳（67.9%）、40～49歳（55.6%）、50～59歳（51.3%）が高くなっている。（図3-1-2）

(2) 桐生市社会福祉協議会の認知度

問16 あなたは、「桐生市社会福祉協議会」を知っていますか。【1つに〇】

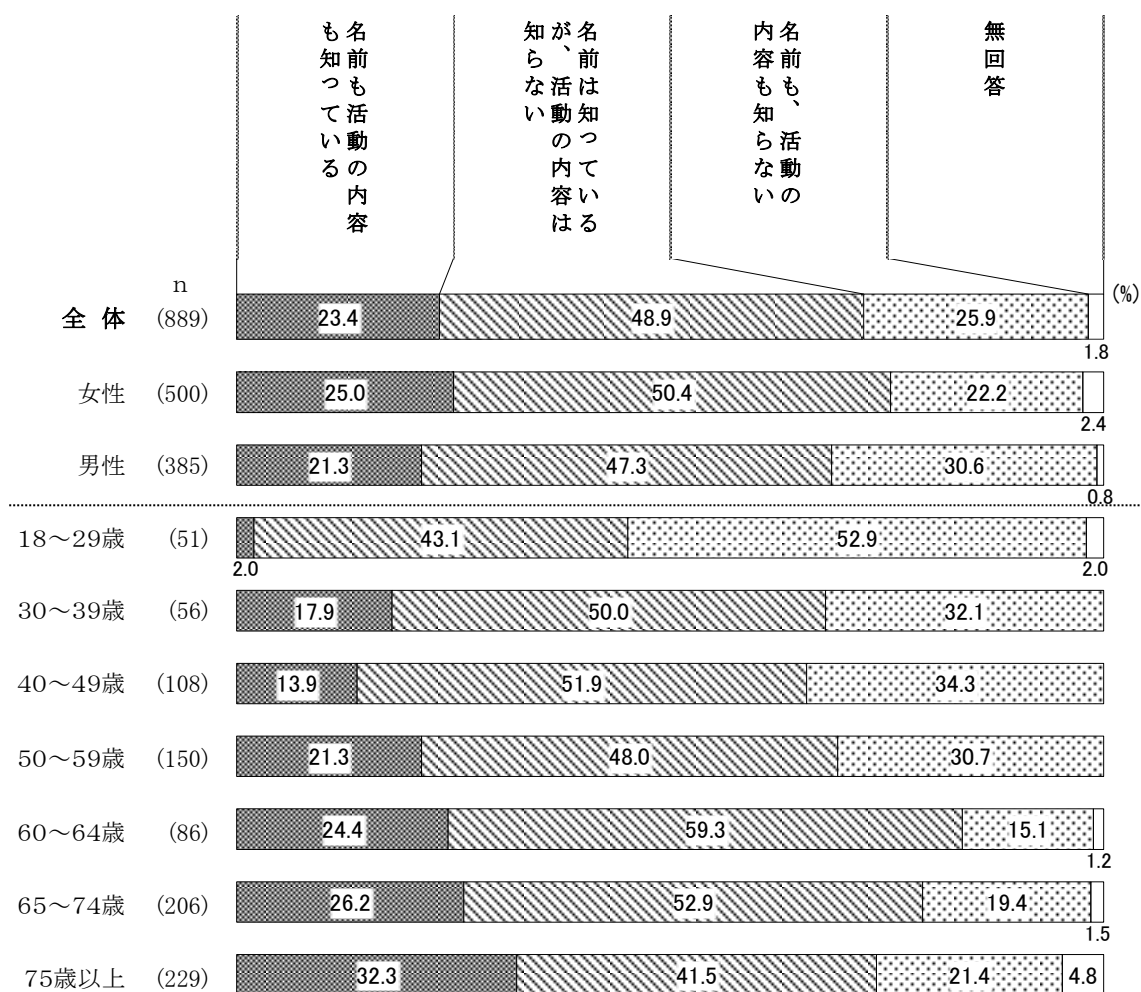
図3-2-1 桐生市社会福祉協議会の認知度 全体



桐生市社会福祉協議会の認知度について聞いたところ、「名前は知っているが、活動の内容は知らない」が48.9%と最も高かった。以下、「名前も、活動の内容も知らない」(25.9%)、「名前も活動の内容も知っている」(23.4%)の順になっている。(図3-2-1)

第3章 調査結果

図3-2-2 桐生市社会福祉協議会の認知度 性・年代別

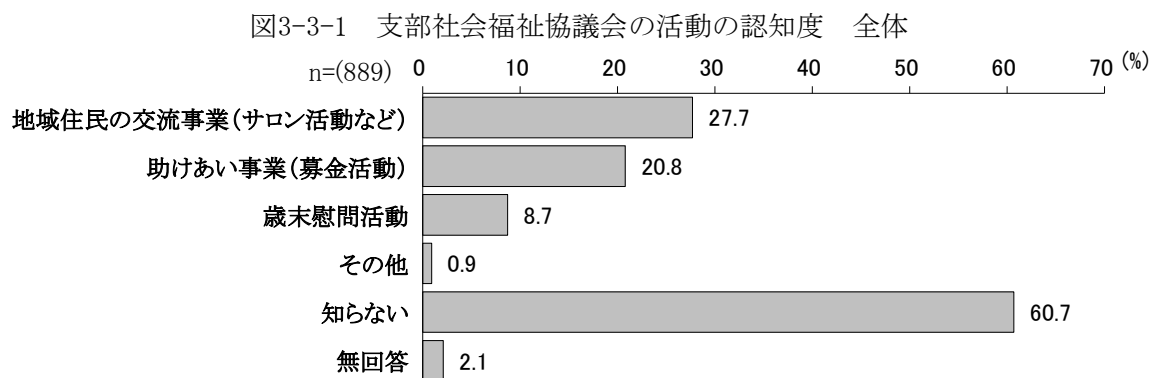


性別で見ると、「名前も、活動の内容も知らない」については男性（30.6%）が女性（22.2%）より8.4ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「名前は知っているが、活動の内容は知らない」については60～64歳（59.3%）が全体に比べて高かった。また、「名前も、活動の内容も知らない」については18～29歳（52.9%）が高くなっている。（図3-2-2）

(3) 支部社会福祉協議会の活動の認知度

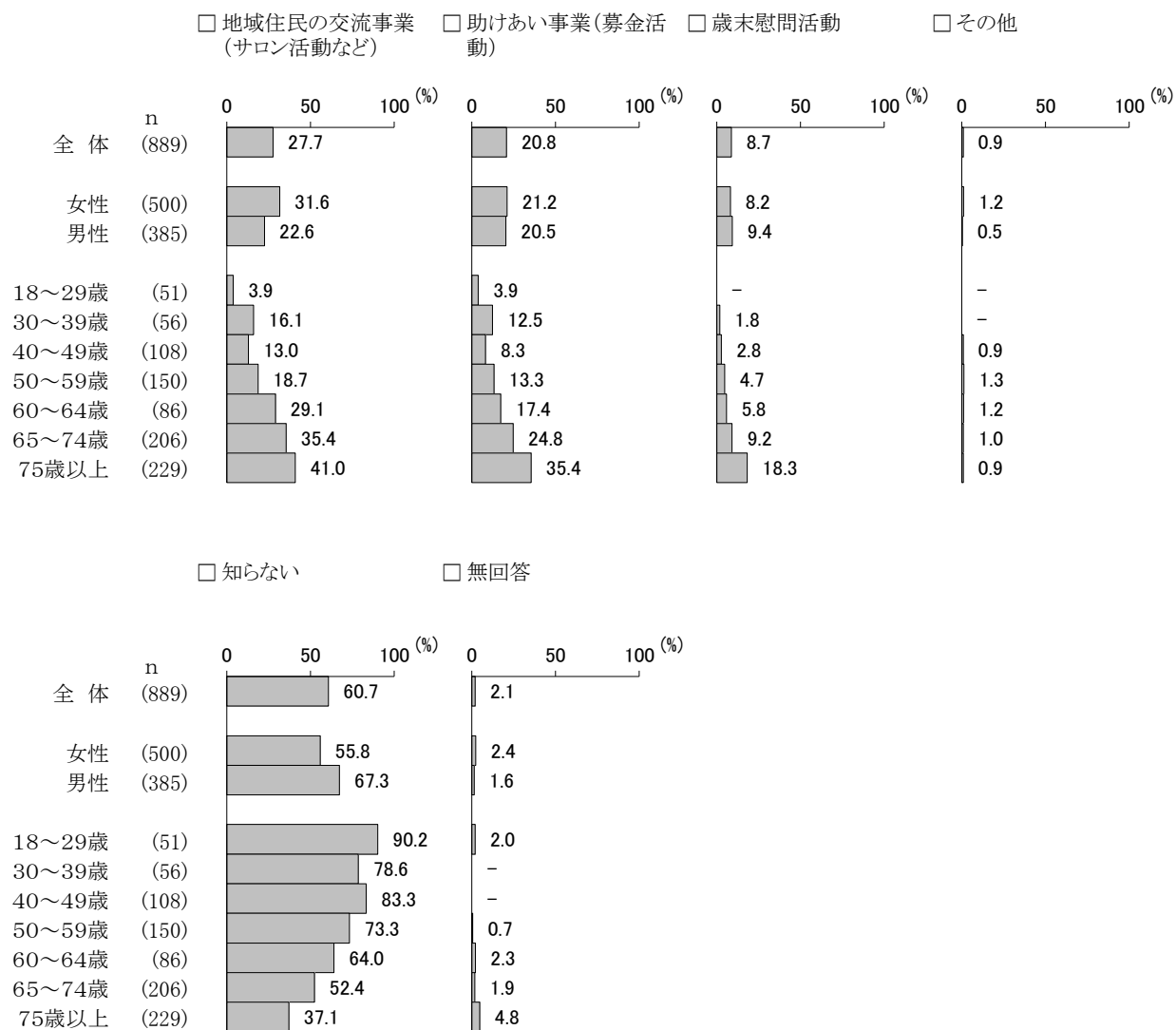
問17 支部社会福祉協議会は、「誰もが安心して共に暮らせる福祉のまちづくり」を目指す地域住民主体の活動組織団体で、区ごとに設置されています。「支部社会福祉協議会」は、どんな活動をしているか知っていますか。【あてはまるものすべてに○】



支部社会福祉協議会の活動の認知度について聞いたところ、「知らない」(60.7%)が最も高かった。一方、具体的な活動の認知度では「地域住民の交流事業(サロン活動など)」(27.7%)、「助けあい事業(募金活動)」(20.8%)、「歳末慰問活動」(8.7%)の順になっている。(図3-3-1)

第3章 調査結果

図3-3-2 支部社会福祉協議会の活動の認知度 性・年代別



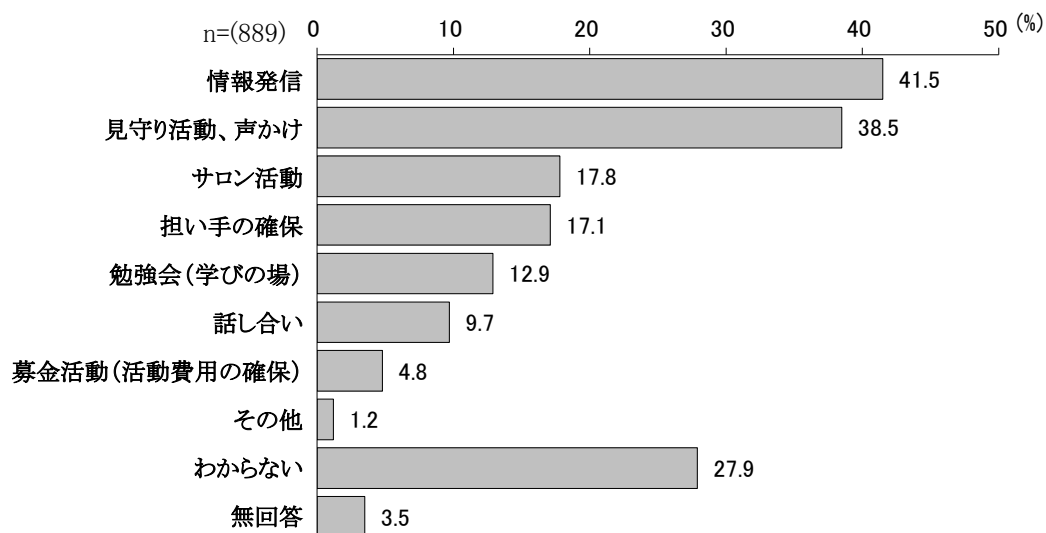
性別で見ると、「知らない」については男性（67.3%）が女性（55.8%）より11.5ポイント高くなっている。一方、「地域住民の交流事業（サロン活動など）」については女性（31.6%）が男性（22.6%）より9.0ポイント高くなっている。

年代別にみると、「地域住民の交流事業（サロン活動など）」については75歳以上（41.0%）が全体に比べて高かった。また、「助けあい事業（募金活動）」については75歳以上（35.4%）、「知らない」については18~29歳（90.2%）、30~39歳（78.6%）、40~49歳（83.3%）、50~59歳（73.3%）が高くなっている。（図3-3-2）

(4) 支部社会福祉協議会の活動を推進するために必要なこと

問18 支部社会福祉協議会の活動を推進するために特に必要なことは何だと思えますか。
【あてはまるものすべてに○】

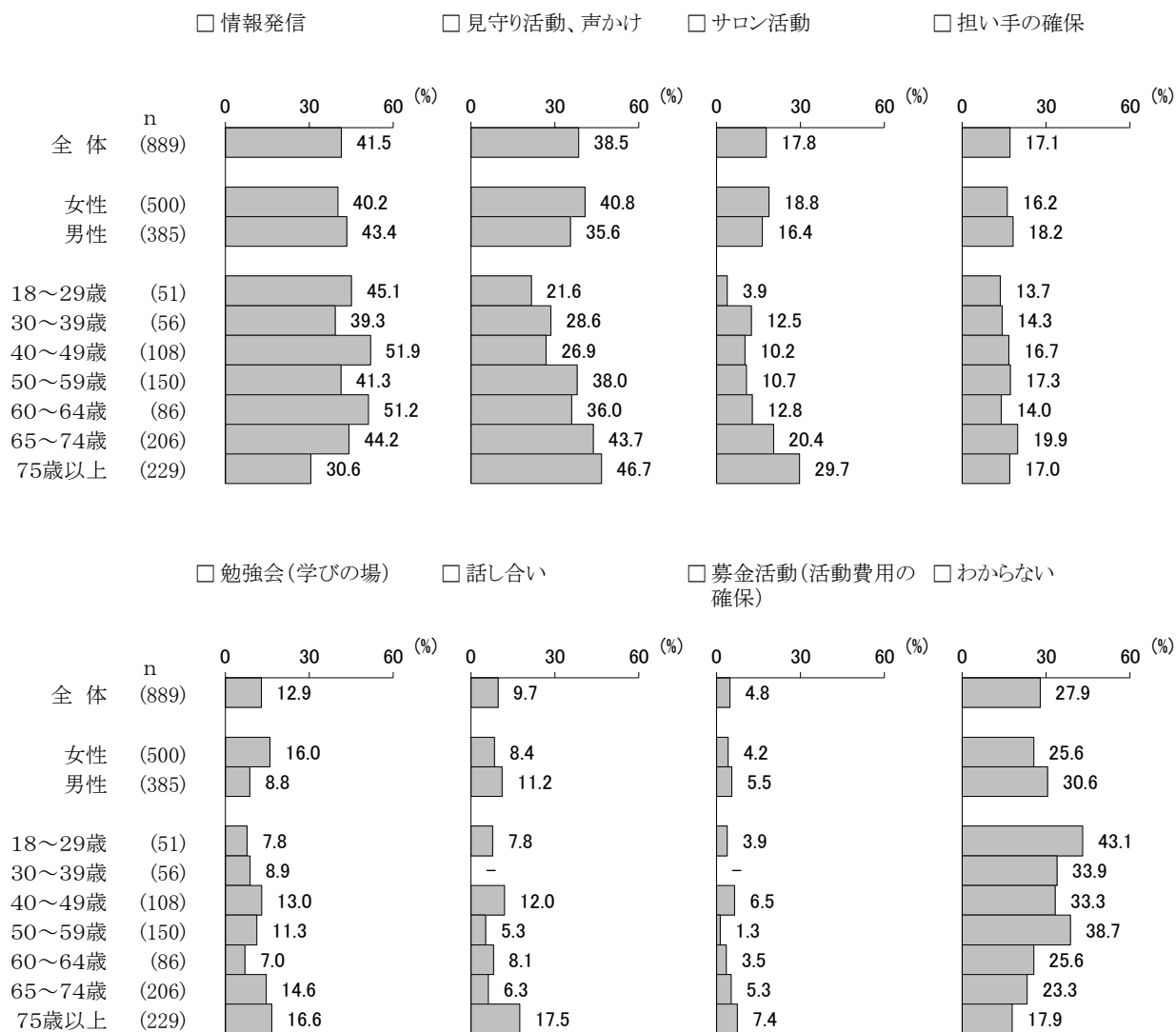
図3-4-1 支部社会福祉協議会の活動を推進するために必要なこと 全体



支部社会福祉協議会の活動を推進するために必要なことについて聞いたところ、「情報発信」(41.5%)と「見守り活動、声かけ」(38.5%)が特に高かった。以下、「サロン活動」(17.8%)、「担い手の確保」(17.1%)の順になっている。一方、「わからない」は27.9%となっている。(図3-4-1)

第3章 調査結果

図3-4-2 支部社会福祉協議会の活動を推進するために必要なこと 性・年代別

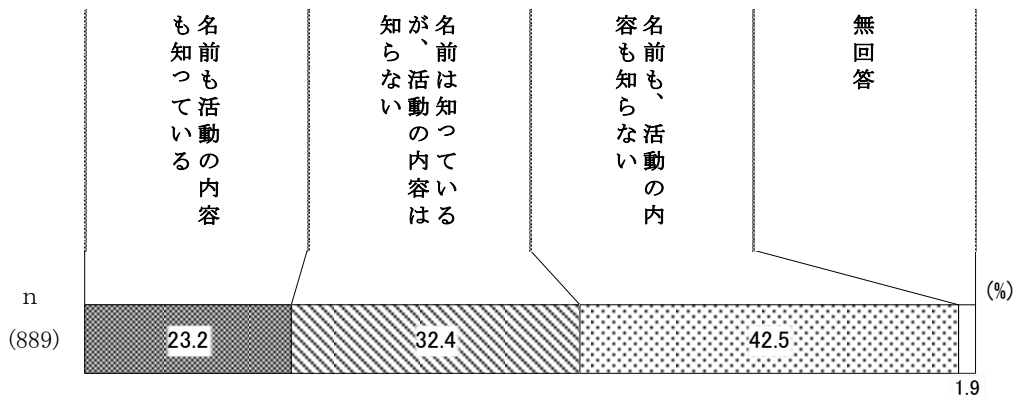


性別で見ると、「勉強会（学びの場）」については女性（16.0%）が男性（8.8%）より7.2ポイント、「見守り活動、声かけ」については女性（40.8%）が男性（35.6%）より5.2ポイント高くなっている。年代別で見ると、「情報発信」については40～49歳（51.9%）が全体に比べて高かった。また、「わからない」については18～29歳（43.1%）、50～59歳（38.7%）、「サロン活動」については75歳以上（29.7%）が高くなっている。（図3-4-2）

(5) 地域包括支援センターの認知度

問19 あなたは、「地域包括支援センター」を知っていますか。【1つに〇】

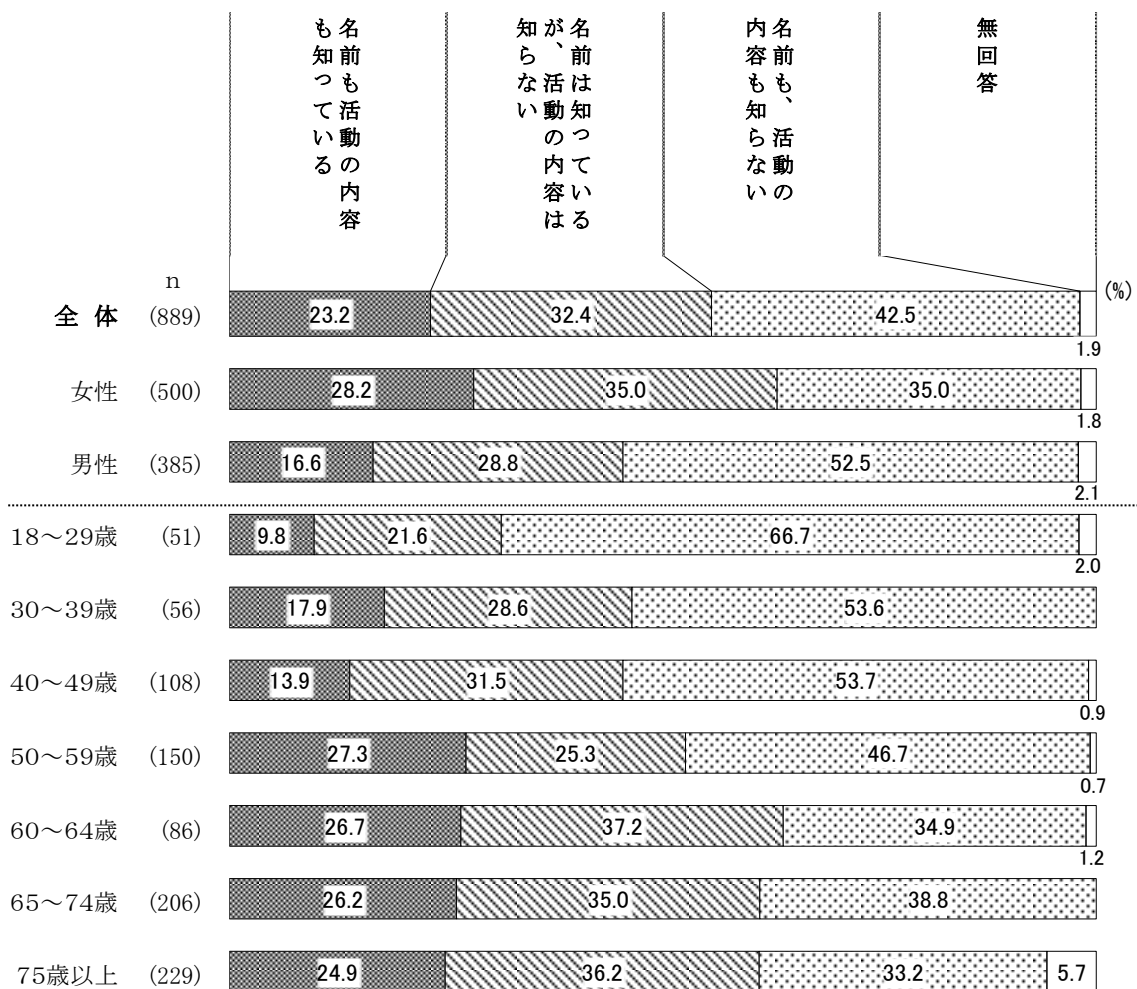
図3-5-1 地域包括支援センターの認知度 全体



地域包括支援センターの認知度について聞いたところ、「名前も、活動の内容も知らない」が42.5%と最も高かった。以下、「名前は知っているが、活動の内容は知らない」(32.4%)、「名前も活動の内容も知っている」(23.2%)の順になっている。(図3-5-1)

第3章 調査結果

図3-5-2 地域包括支援センターの認知度についての考え 性・年代別



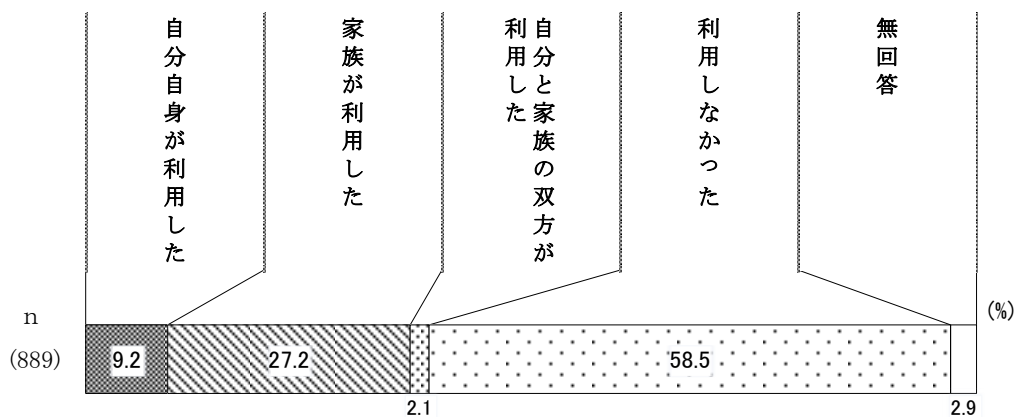
性別でみると、「名前も、活動の内容も知らない」については男性（52.5%）が女性（35.0%）より17.5ポイント高くなっている。一方、「名前も活動の内容も知っている」については女性（28.2%）が男性（16.6%）より11.6ポイント、「名前も活動の内容も知らない」については女性（35.0%）が男性（28.8%）より6.2ポイント高くなっている。

年代別でみると、「名前も、活動内容も知らない」については18～29歳（66.7%）、30～39歳（53.6%）、40～49歳（53.7%）が全体に比べて高かった。（図3-5-2）

(6) 福祉サービス利用経験の有無

問20 高齢者・障がい者・子育て支援などに関する福祉サービスについて、あなたを含め家族の中で、これまでに福祉サービスを利用したことがありますか。【1つに〇】

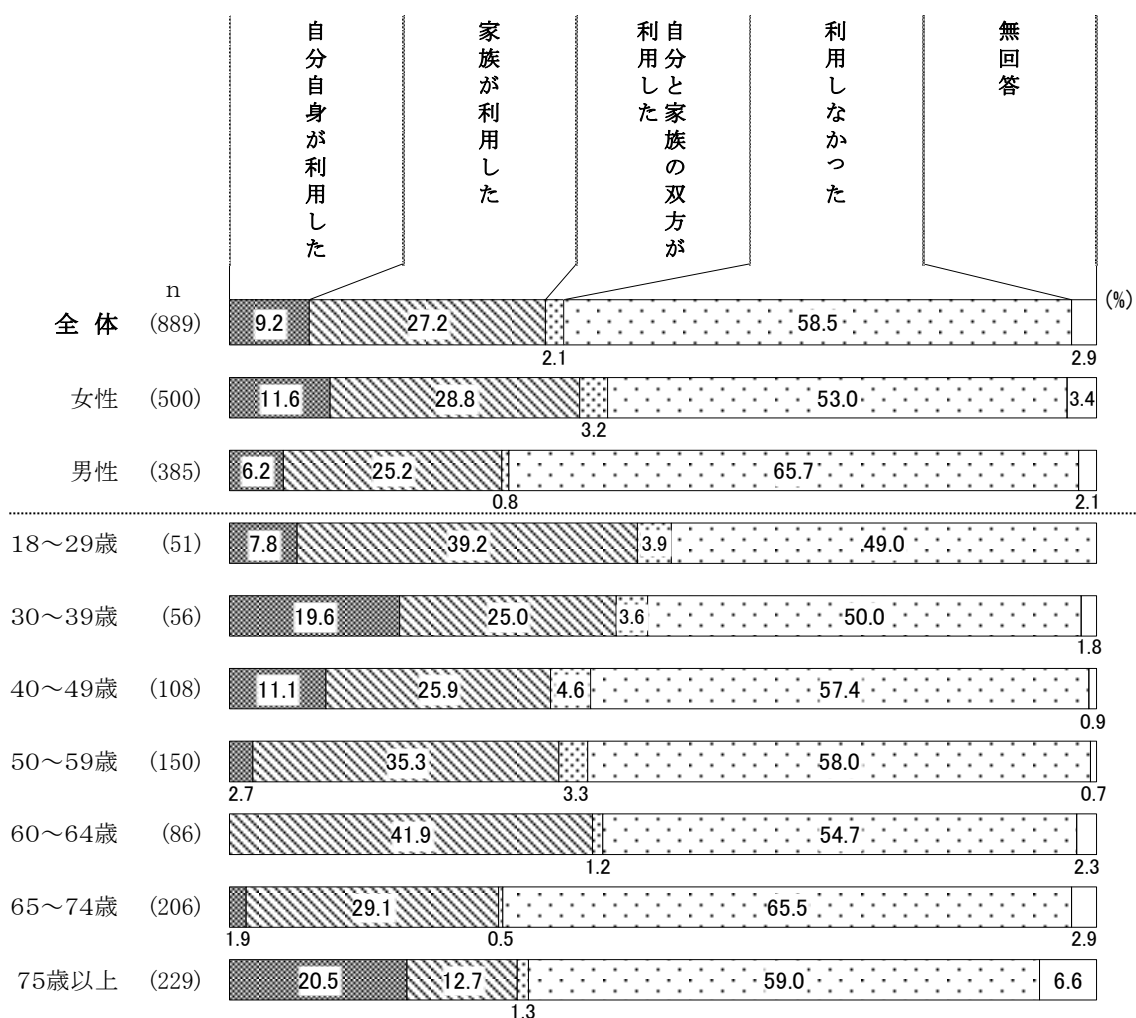
図3-6-1 福祉サービス利用経験の有無 全体



福祉サービス利用経験の有無について聞いたところ、「利用しなかった」が58.5%と最も高かった。以下、「家族が利用した」(27.2%)、「自分自身が利用した」(9.2%)、「自分と家族の双方が利用した」(2.1%)の順になっている。(図3-6-1)

第3章 調査結果

図3-6-2 福祉サービス利用経験の有無についての考え 性・年代別



性別でみると、「利用しなかった」については男性（65.7%）が女性（53.0%）より12.7ポイント高くなっている。一方、「自分自身が利用した」については女性（11.6%）が男性（6.2%）より5.4ポイント高くなっている。

年代別でみると、「家族が利用した」については18～29歳（39.2%）、60～64歳（41.9%）が全体に比べて高かった。また、「自分自身が利用した」については30～39歳（19.6%）、75歳以上（20.5%）が高くなっている。（図3-6-2）

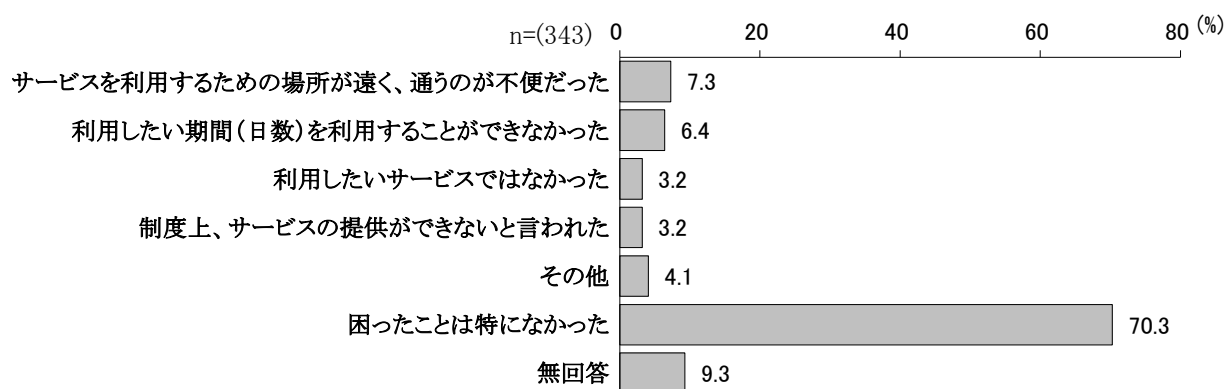
(7) 福祉サービスの利用にあたって困ったこと

問20で「1. 自分自身が利用した」、「2. 家族が利用した」、「3. 自分と家族の双方が利用した」と回答した方のみお答えください。

問21 福祉サービスの利用にあたって、困ったことは何ですか。

【あてはまるものすべてに○】

図3-7-1 福祉サービスの利用にあたって困ったこと 全体

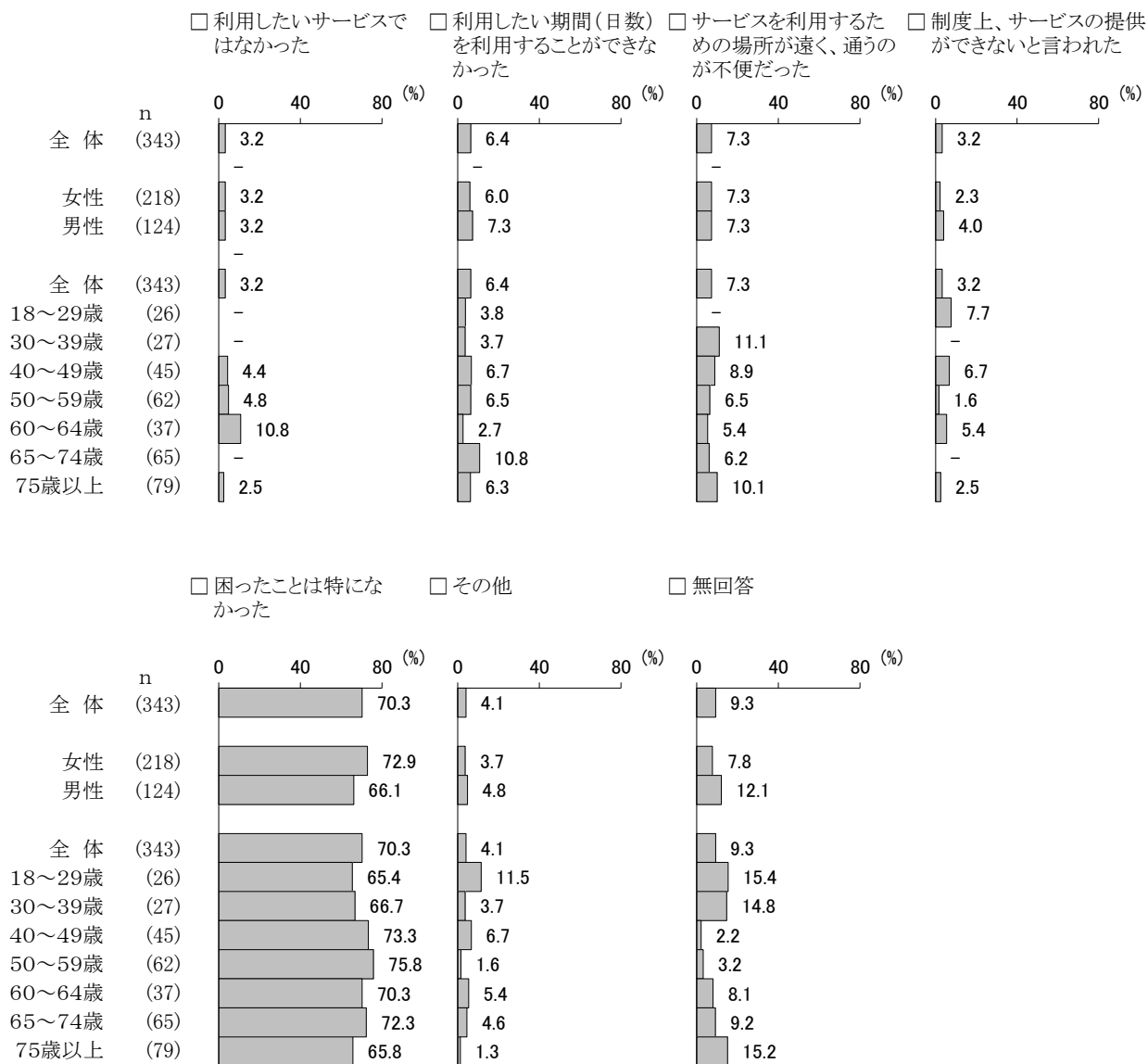


福祉サービスの利用にあたって困ったことについて聞いたところ、「困ったことは特になかった」が70.3%と最も高かった。

具体的な理由の中では、「サービスを利用するための場所が遠く、通うのが不便だった」(7.3%)、「利用したい期間(日数)を利用することができなかった」(6.4%)、「利用したいサービスではなかった」・「制度上、サービスの提供ができないと言われた」(ともに3.2%)の順になっている。(図3-7-1)

第3章 調査結果

図3-7-2 福祉サービスの利用にあたって困ったこと 性・年代別



性別で見ると、「困ったことは特になかった」については女性（72.9%）が男性（66.1%）より6.8ポイント高くなっている。

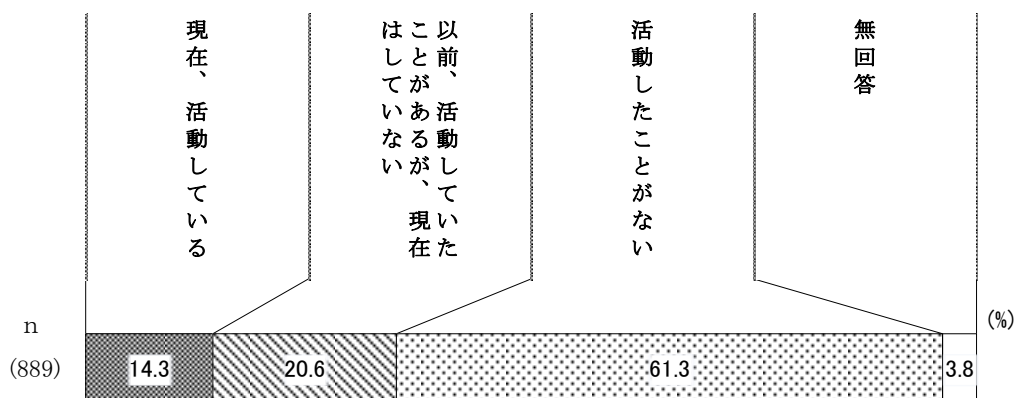
年代別で見ると、各年代に大きな差は見られなかった。（図3-7-2）

4. ボランティア・市民活動について

(1) ボランティア・市民活動経験の有無

問22 あなたは、これまでにボランティア・市民活動をしたことがありますか。【1つに○】

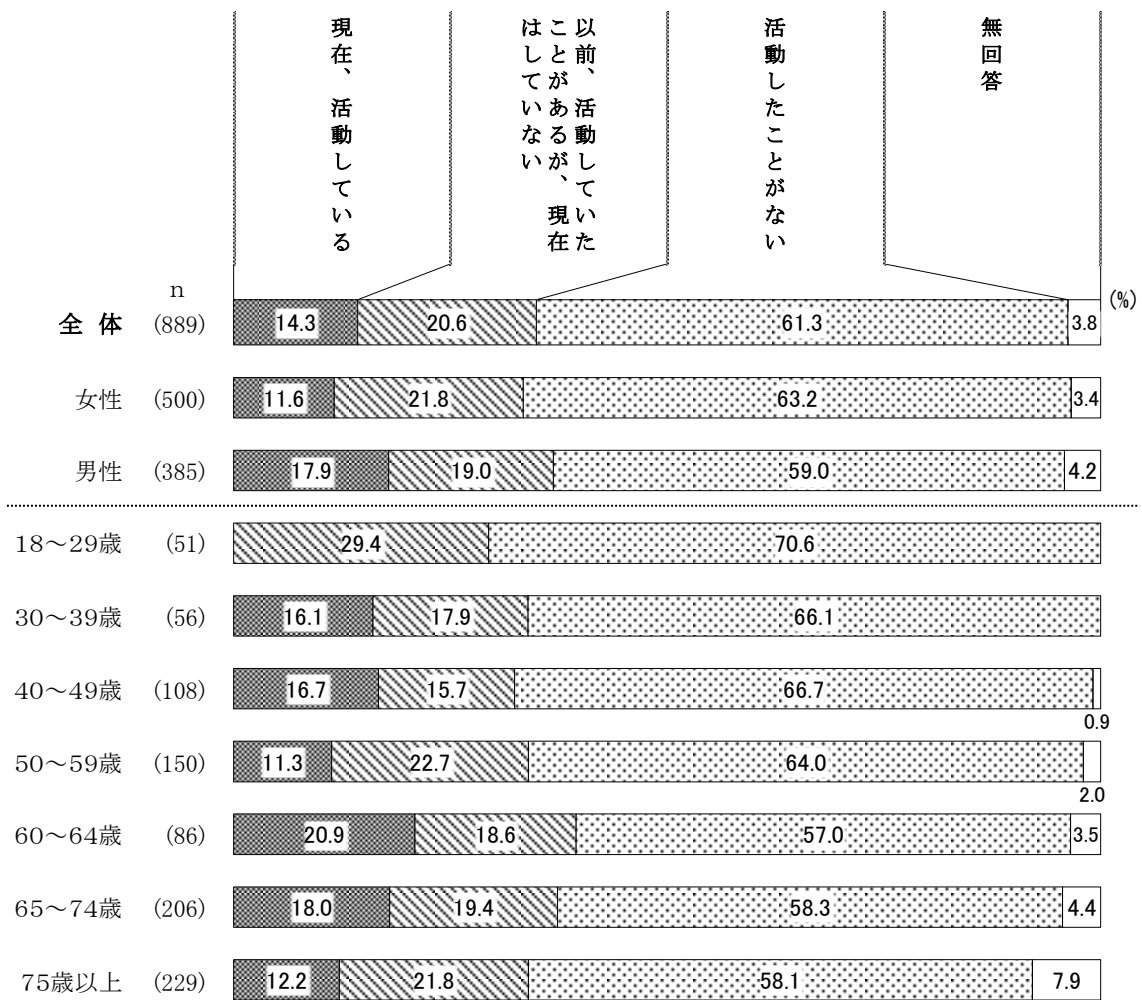
図4-1-1 ボランティア・市民活動経験の有無 全体



ボランティア・市民活動経験の有無について聞いたところ、「活動したことがない」が61.3%と最も高かった。以下、「以前、活動していたことがあるが、現在はしていない」(20.6%)、「現在、活動している」(14.3%)の順になっている。(図4-1-1)

第3章 調査結果

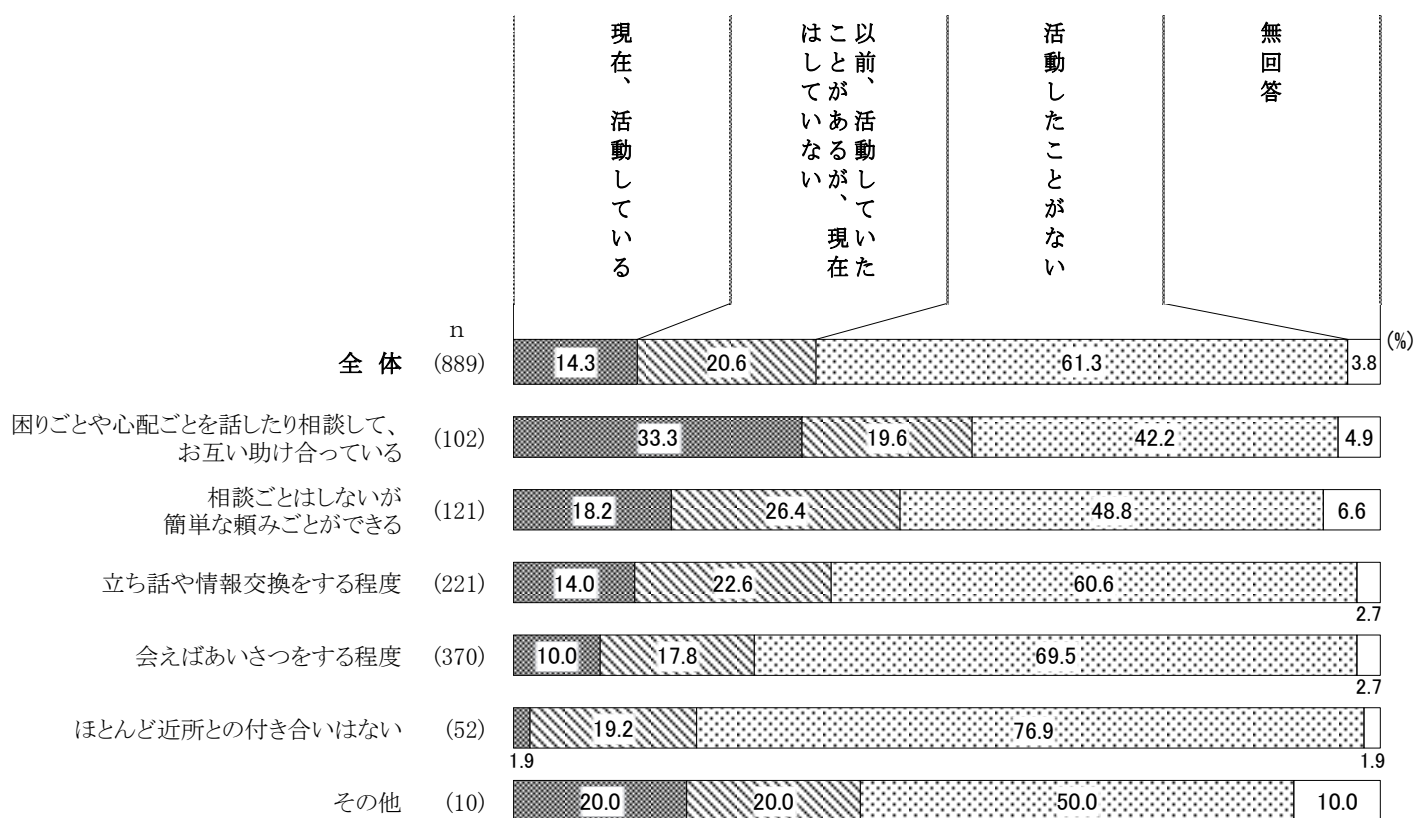
図4-1-2 ボランティア・市民活動経験の有無 性・年代別



性別で見ると、「現在、活動している」については男性（17.9%）が女性（11.6%）より6.3ポイント高くなっている。

年代別にみると、各年代に大きな差は見られなかった。（図4-1-2）

図4-1-3 ボランティア・市民活動経験の有無 近所付き合いの程度別

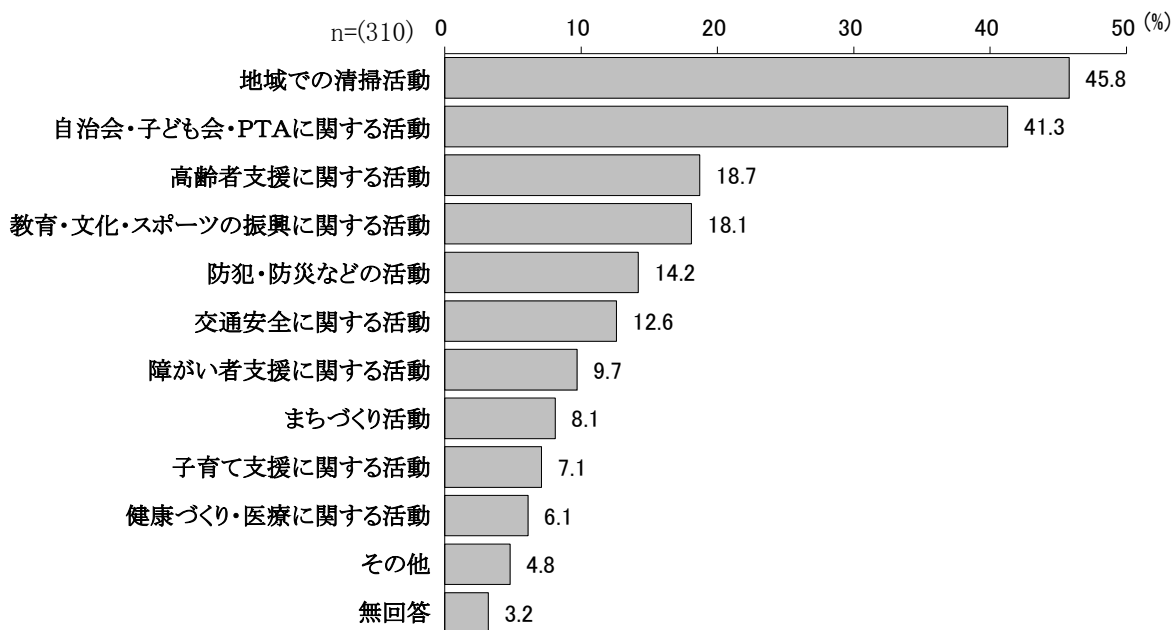


近所付き合いの頻度別でみると、「活動したことがない」については「ほとんど近所との付き合いはない」と回答した人（76.9%）が全体に比べて高かった。また、「現在、活動している」については「困りごとや心配ごとを話したり相談して、お互い助け合っている」（33.3%）が高く、近所付き合いの程度が密になるにつれて割合は高くなる傾向にある。（図4-1-3）

(2) 参加したボランティア・市民活動の内容

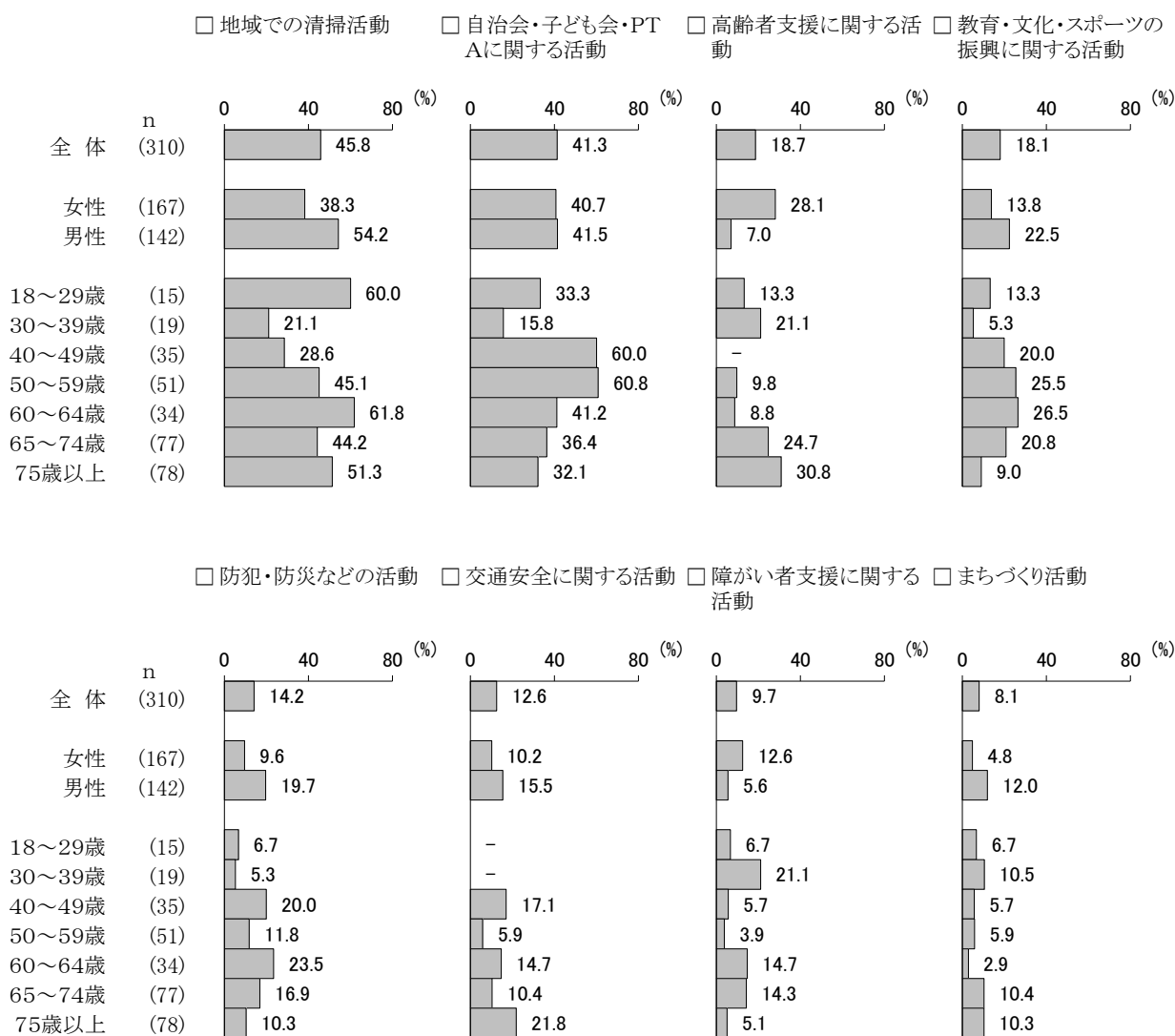
問22で「1. 現在、活動している」、「2. 以前、活動していたことがあるが、現在はしていない」と回答した方のみお答えください。
 問23 ①どのような活動をしていますか。(しましたか)【あてはまるものすべてに○】

図4-2-1 参加したボランティア・市民活動の内容 全体



参加したボランティア・市民活動の内容について聞いたところ、「地域での清掃活動」(45.8%)と「自治会・子ども会・PTAに関する活動」(41.3%)が特に高かった。以下、「高齢者支援に関する活動」(18.7%)、「教育・文化・スポーツの振興に関する活動」(18.1%)の順になっている。(図4-2-1)

図4-2-2 参加したボランティア・市民活動の内容 性・年代別（上位8項目）



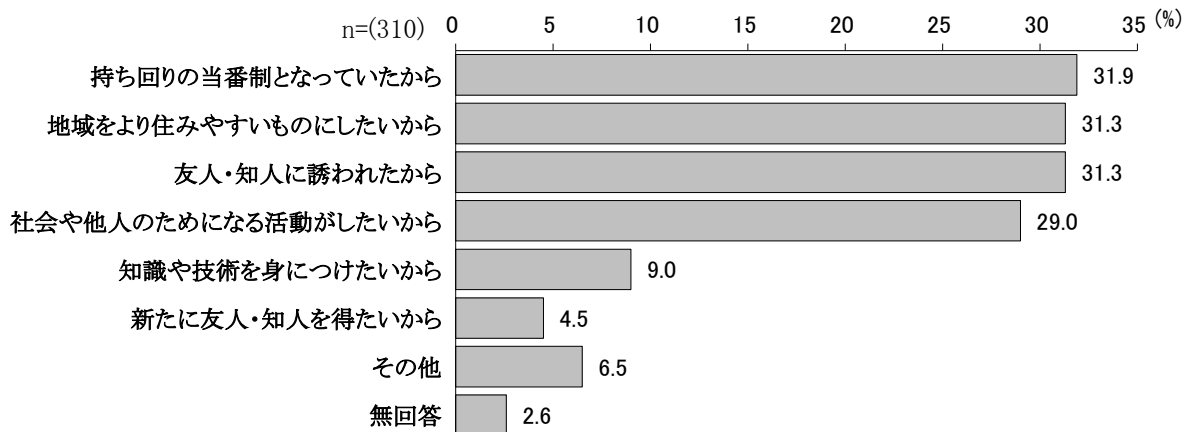
性別でみると、「高齢者支援に関する活動」については女性（28.1%）が男性（7.0%）より21.1ポイント、「障がい者支援に関する活動」については女性（12.6%）が男性（5.6%）より7.0ポイント高くなっている。一方、「地域での清掃活動」については男性（54.2%）が女性（38.3%）より15.9ポイント、「防犯・防災などの活動」については男性（19.7%）が女性（9.6%）より10.1ポイント、「教育・文化・スポーツの振興に関する活動」については男性（22.5%）が女性（13.8%）より8.7ポイント、「まちづくり活動」については男性（12.0%）が女性（4.8%）より7.2ポイント、「交通安全に関する活動」については男性（15.5%）が女性（10.2%）より5.3ポイント高くなっている。

年代別でみると、「地域での清掃活動」については60～64歳（61.8%）が全体に比べて高かった。また、「自治会・子ども会・PTAに関する活動」については40～49歳（60.0%）、50～59歳（60.8%）、「高齢者支援に関する活動」については75歳以上（30.8%）が高くなっている。（図4-2-2）

(3) ボランティア・市民活動に参加したきっかけ

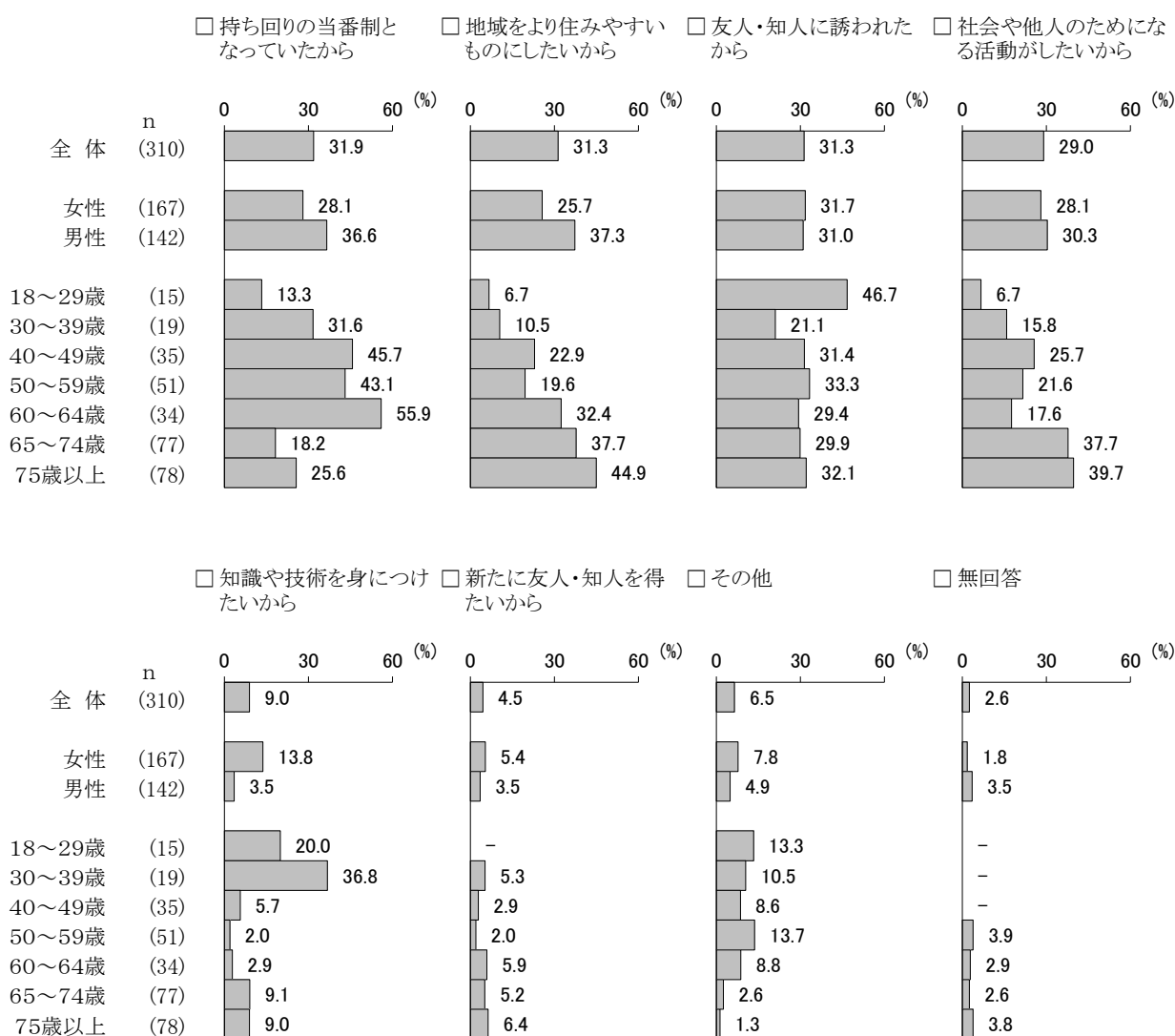
問22で「1. 現在、活動している」、「2. 以前、活動していたことがあるが、現在はしていない」と回答した方のみお答えください。
 問23 ②活動のきっかけはどのような理由ですか。【あてはまるものすべてに○】

図4-3-1 ボランティア・市民活動に参加したきっかけ 全体



ボランティア・市民活動に参加したきっかけについて聞いたところ、「持ち回りの当番制となっていたから」が31.9%と最も高かった。以下、「地域をより住みやすいものにしたいから」(31.3%)、「友人・知人に誘われたから」(31.3%)、「社会や他人のためになる活動がしたいから」(29.0%)の順になっている。(図4-3-1)

図4-3-2 ボランティア・市民活動に参加したきっかけ 性・年代別（上位8項目）



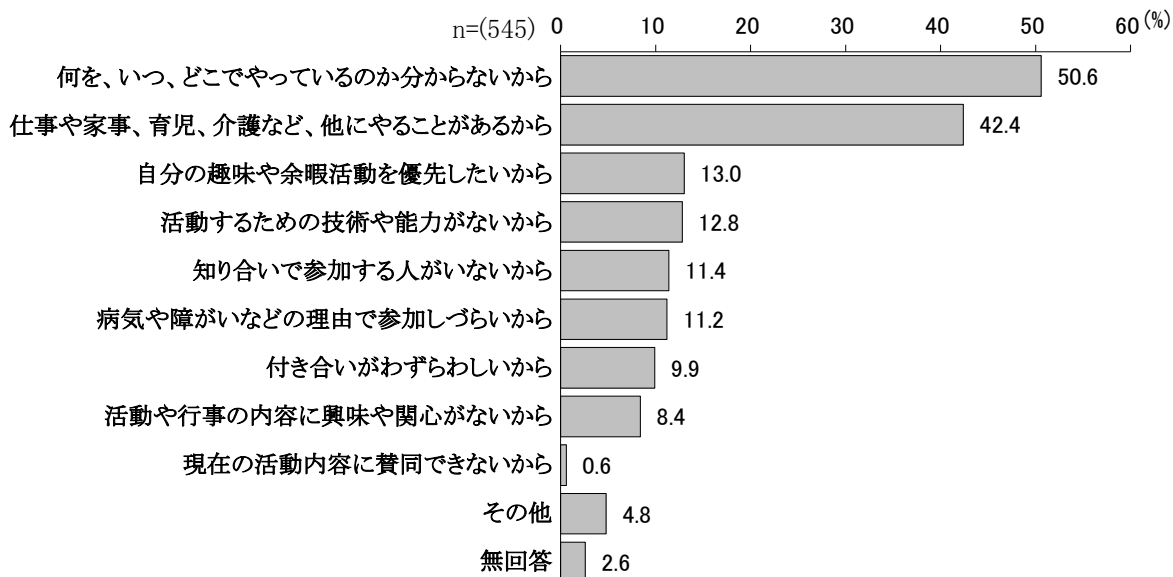
性別でみると、「地域をより住みやすいものにしたいから」については男性（37.3%）が女性（25.7%）より11.6ポイント、「持ち回りの当番制となっていたから」については男性（36.6%）が女性（28.1%）より8.5ポイント高くなっている。一方、「知識や技術を身につけたいから」については女性（13.8%）が男性（3.5%）より10.3ポイント高くなっている

年代別でみると、「持ち回りの当番制となっていたから」については40～49歳（45.7%）、50～59歳（43.1%）、60～64歳（55.9%）が全体に比べて高かった。また、「地域をより住みやすいものにしたいから」については75歳以上（44.9%）、「社会や他人のためになる活動がしたいから」については75歳以上（39.7%）が高くなっている。（図4-3-2）

(4) ボランティア・市民活動に参加したことがない理由

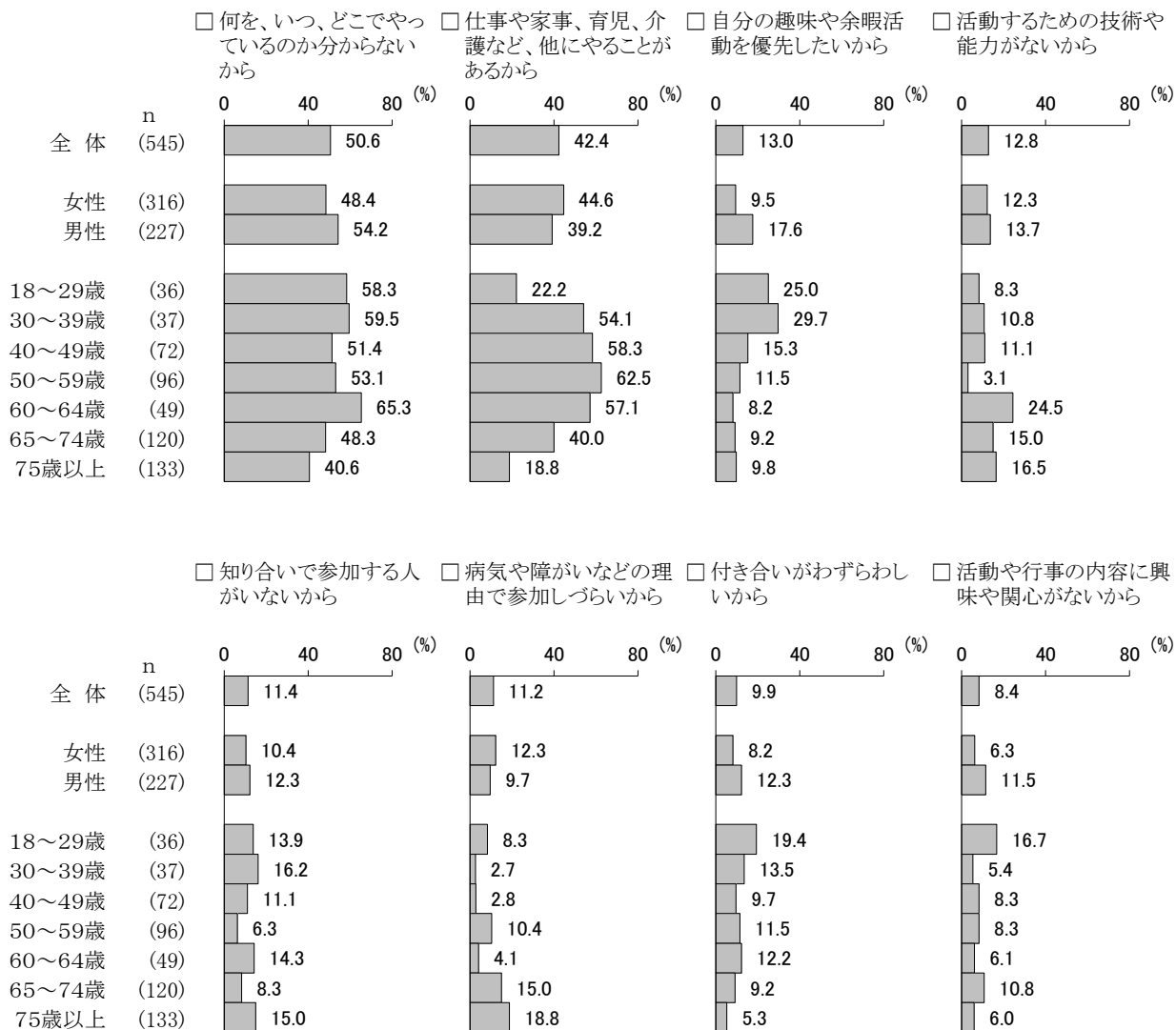
問22で「3. 活動したことがない」と回答した方のみお答えください。
 問24 あなたがボランティア・市民活動をしない理由は何ですか。
 【あてはまるものすべてに○】

図4-4-1 ボランティア・市民活動に参加したことがない理由 全体



ボランティア・市民活動に参加したことがない理由について聞いたところ、「何を、いつ、どこでやっているのか分からないから」が50.6%と最も高かった。以下、「仕事や家事、育児、介護など、他にやることがあるから」(42.4%)、「自分の趣味や余暇活動を優先したいから」(13.0%)、「活動するための技術や能力がないから」(12.8%)の順になっている。(図4-4-1)

図4-4-2 ボランティア・市民活動に参加したことがない理由 性・年代別（上位8項目）



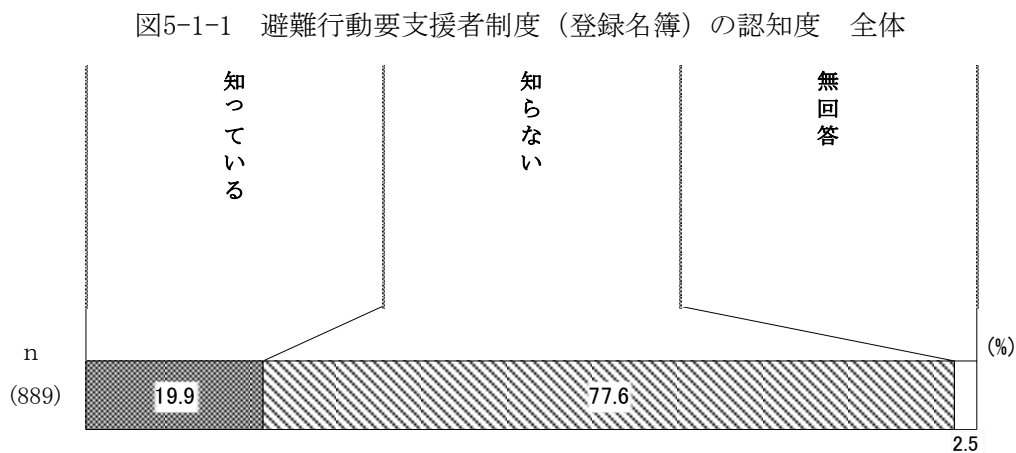
性別で見ると、「自分の趣味や余暇活動を優先したいから」については男性（17.6%）が女性（9.5%）より8.1ポイント、「何を、いつ、どこでやっているのか分からないから」については男性（54.2%）が女性（48.4%）より5.8ポイント、「活動や行事の内容に興味や関心がないから」については男性（11.5%）が女性（6.3%）より5.2ポイント高くなっている。一方、「仕事や家事、育児、介護など、他にやることがあるから」については女性（44.6%）が男性（39.2%）より5.4ポイント高くなっている

年代別で見ると、「何を、いつ、どこでやっているのか分からないから」については60～64歳（65.3%）が全体に比べて高かった。また、「仕事や家事、育児、介護など、他にやることがあるから」については40～49歳（58.3%）、50～59歳（62.5%）、60～64歳（57.1%）、「自分の趣味や余暇活動を優先したいから」については18～29歳（25.0%）、30～39歳（29.7%）が高くなっている。（図4-4-2）

5. 保健医療等の情報について

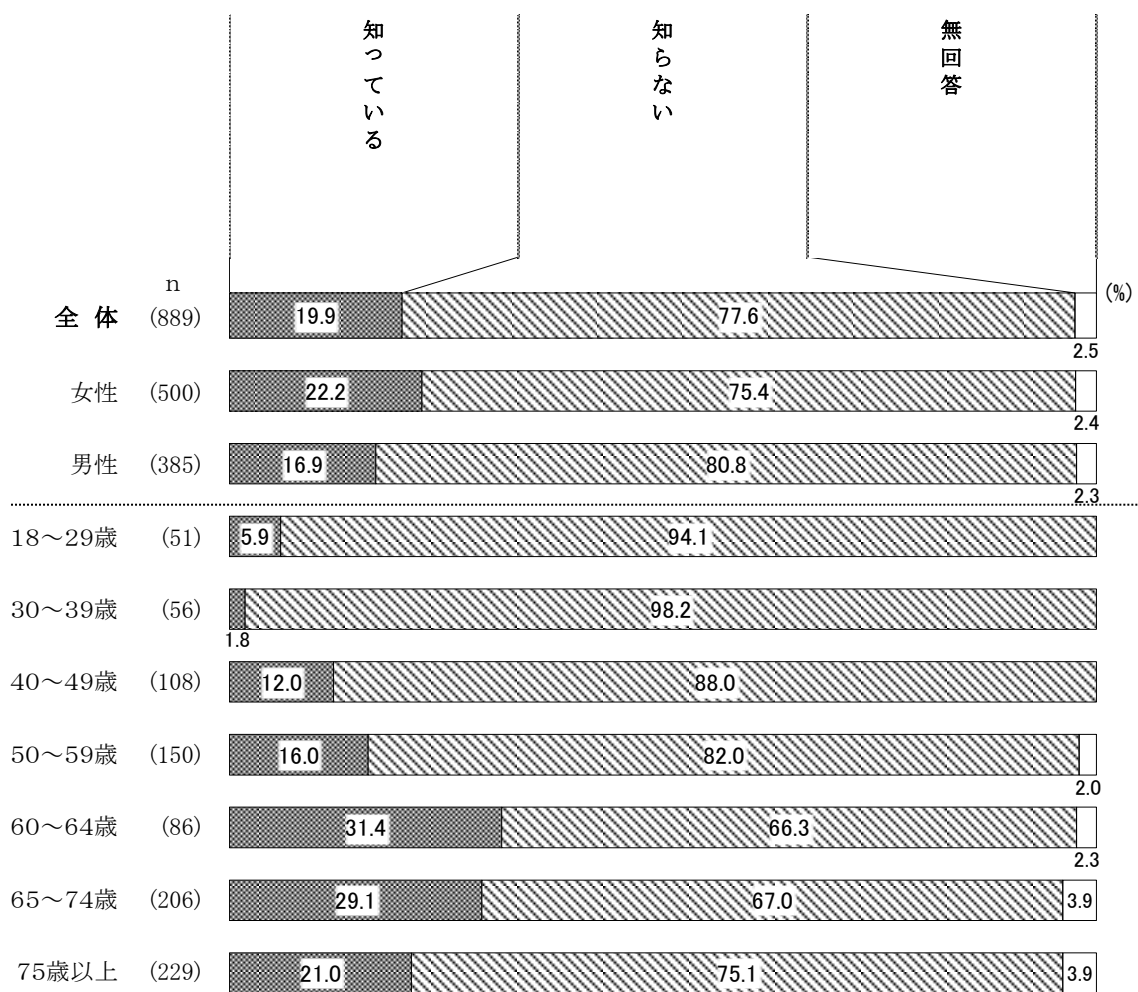
(1) 避難行動要支援者制度（登録名簿）の認知度

問25 あなたは、災害時に高齢者や障がいのある方が要援護の対象者として登録される避難行動要支援者制度（登録名簿）をご存じですか。【1つに〇】



避難行動要支援者制度（登録名簿）の認知度について聞いたところ、「知らない」が77.6%を占めていた。一方、「知っている」は19.9%となっている。（図5-1-1）

図5-1-2 避難行動要支援者制度（登録名簿）の認知度 性・年代別



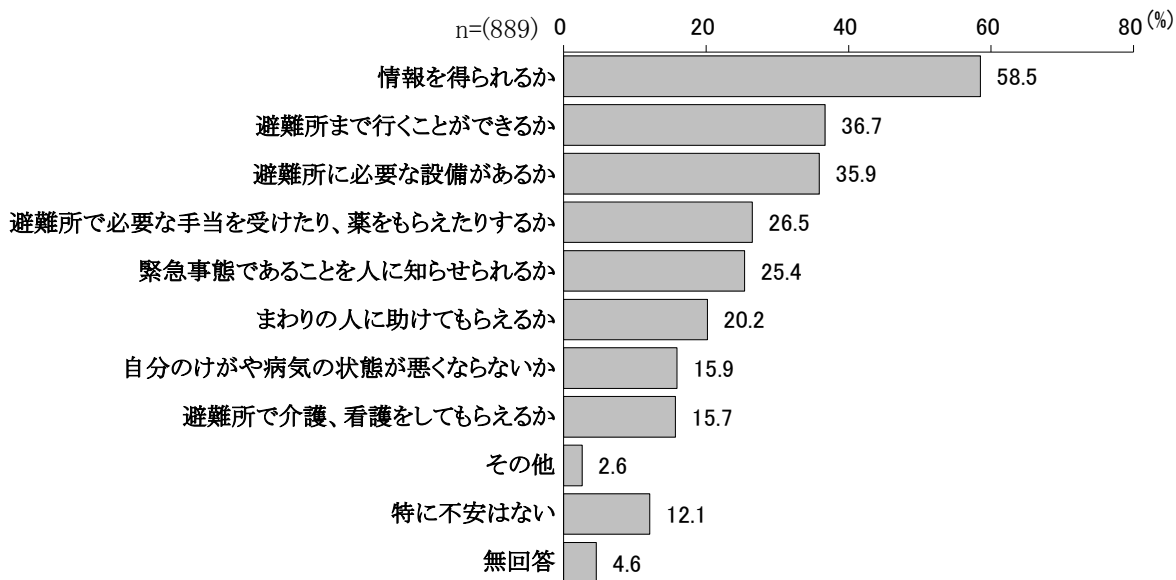
性別で見ると、「知っている」については女性（22.2%）が男性（16.9%）より5.3ポイント高くなっている。

年代別にみると、「知っている」については60～64歳（31.4%）が全体に比べて高かった。（図5-1-2）

(2) 災害時の避難や対応について不安に思うこと

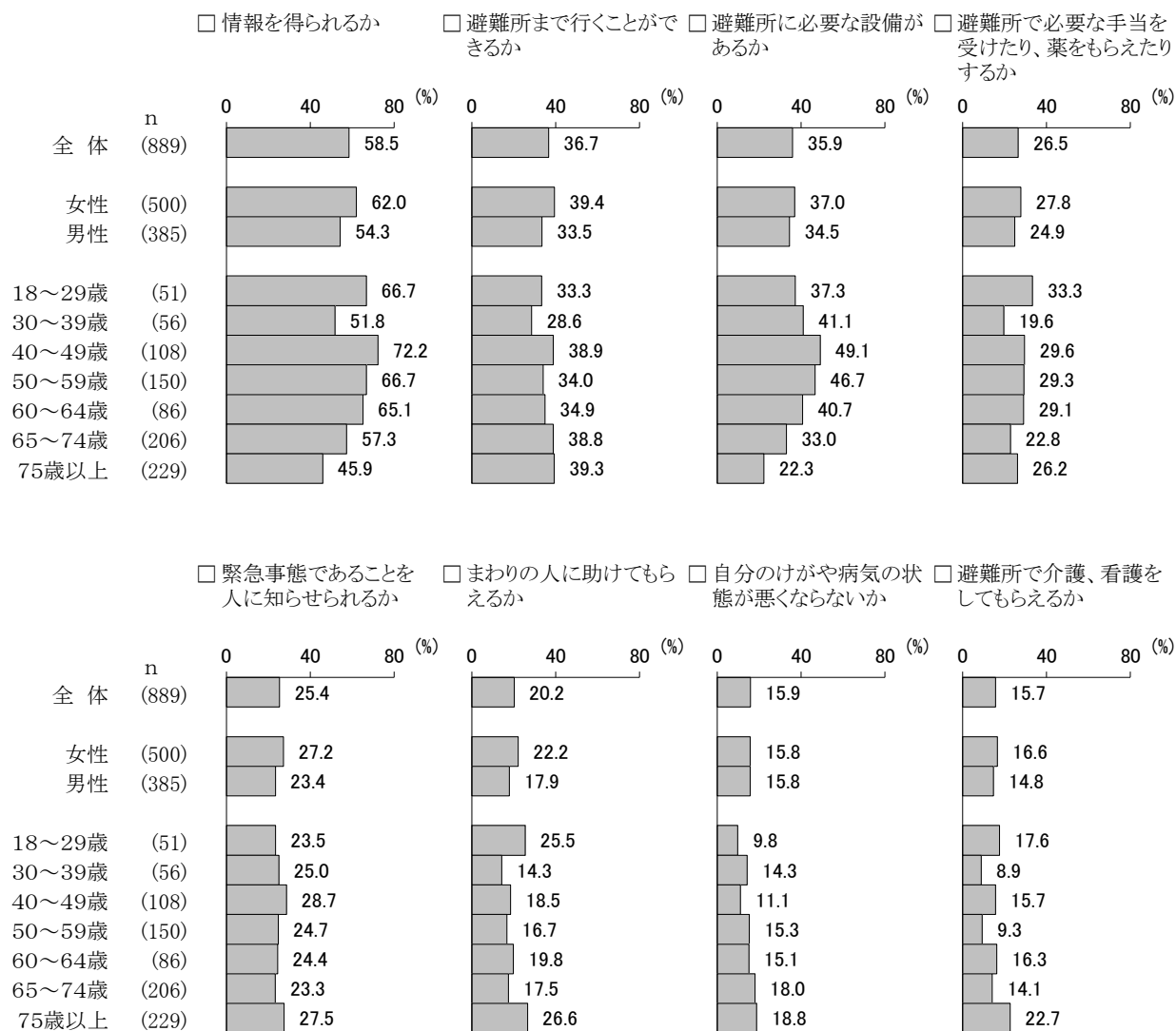
問26 災害時の避難や対応について不安に思うことはありますか。
【あてはまるものすべてに○】

図5-2-1 災害時の避難や対応について不安に思うこと 全体



災害時の避難や対応について不安に思うことについて聞いたところ、「情報を得られるか」が58.5%と最も高かった。以下、「避難所まで行くことができるか」(36.7%)、「避難所に必要な設備があるか」(35.9%)、「避難所で必要な手当を受けたり、薬をもらえたりするか」(26.5%)の順になっている。(図5-2-1)

図5-2-2 災害時の避難や対応について不安に思うこと 性・年代別（上位8項目）



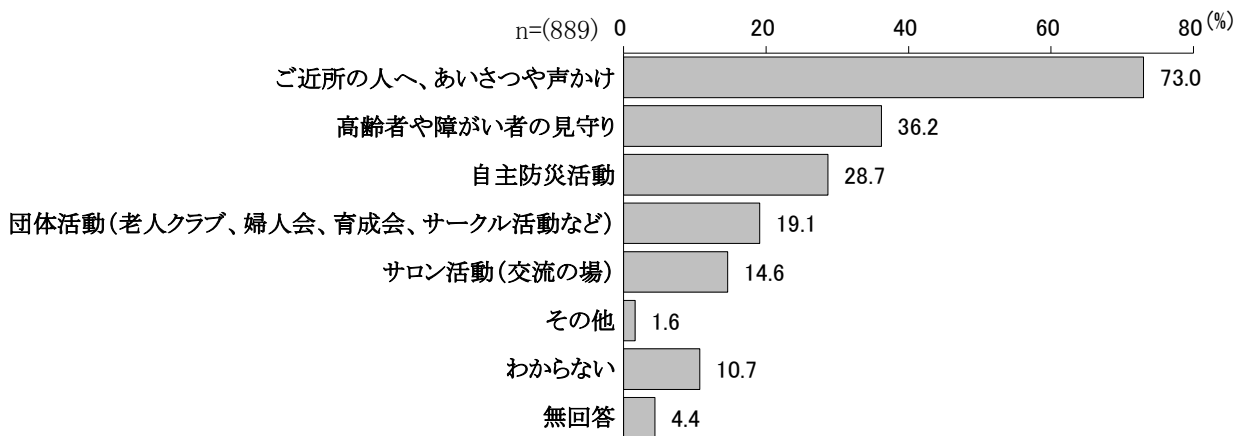
性別でみると、「情報を得られるか」については女性（62.0%）が男性（54.3%）より7.7ポイント、「避難所まで行くことができるか」については女性（39.4%）が男性（33.5%）より5.9ポイント高くなっている

年代別でみると、「情報を得られるか」については40～49歳（72.2%）が全体に比べて高かった。また、「避難場所に必要な設備があるか」については40～49歳（49.1%）、50～59歳（46.7%）が高くなっている。（図5-2-2）

(3) 関係づくりのために効果的な地域活動

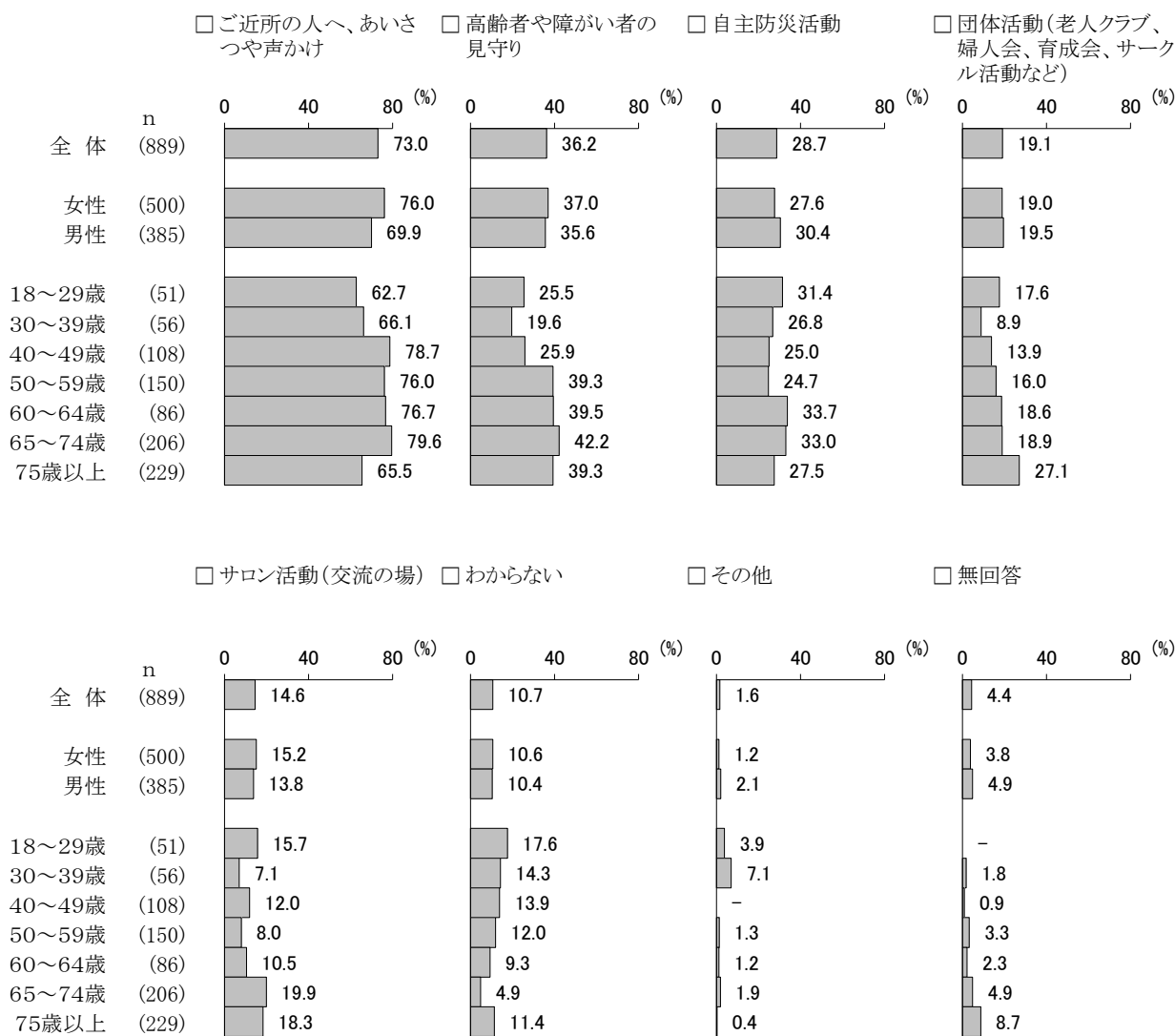
問27 先の東日本大震災では、要支援者を近所の人たちで支援して避難を行った事例や、隣組の見回りによって倒壊した自宅から救出された事例があり、コミュニティ内・コミュニティ同士の助け合いが、大きな役割を果たしたといわれています。万一の災害に備え、支え合う関係づくりのために日ごろから行う最も効果的な地域活動は何だと思いますか。【あてはまるものすべてに○】

図5-3-1 関係づくりのために効果的な地域活動 全体



関係づくりのために効果的な地域活動について聞いたところ、「ご近所の人へ、あいさつや声かけ」が73.0%と最も高かった。以下、「高齢者や障がい者の見守り」(36.2%)、「自主防災活動」(28.7%)、「団体活動(老人クラブ、婦人会、育成会、サークル活動など)」(19.1%)の順になっている。(図5-3-1)

図5-3-2 関係づくりのために効果的な地域活動 性・年代別（上位8項目）



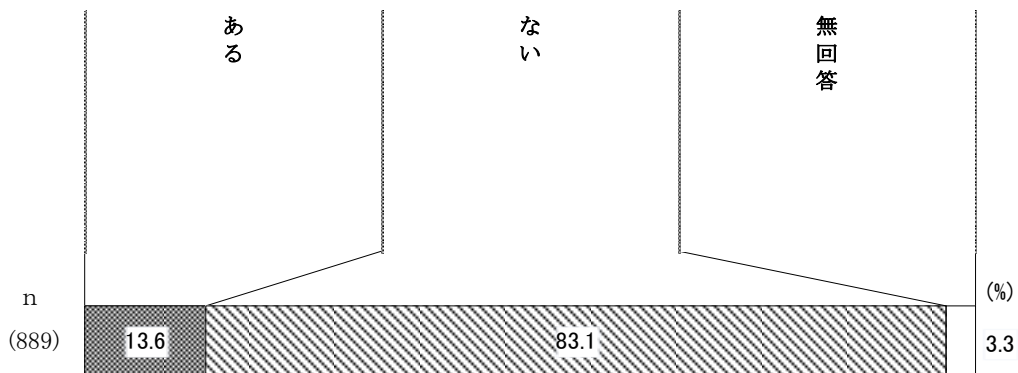
性別でみると、「ご近所の人へ、あいさつや声かけ」については女性（76.0%）が男性（69.9%）より6.1ポイント高くなっている

年代別でみると、各年代に大きな差は見られなかった。（図5-3-2）

(4) 虐待、家庭内暴力を見たり、聞いたりした経験の有無

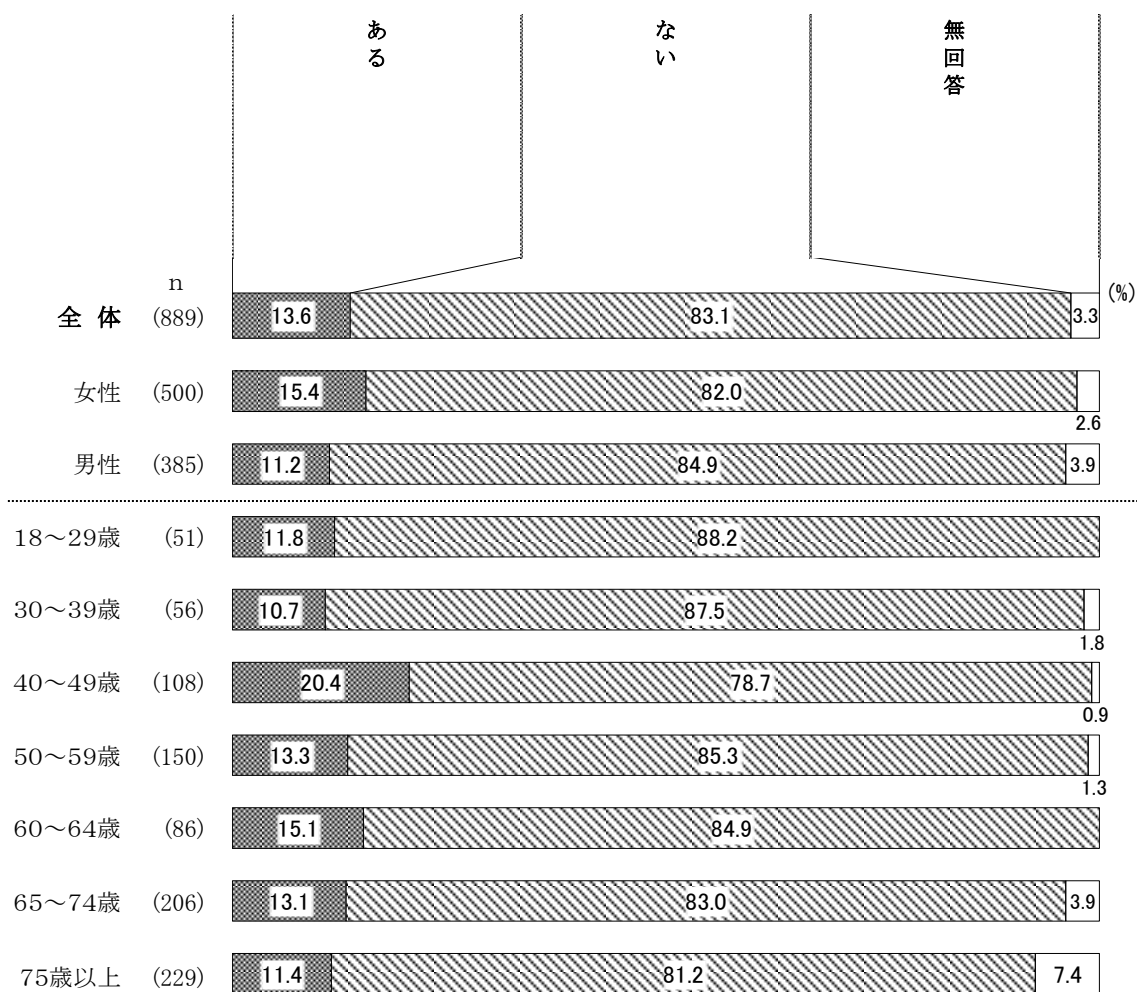
問28 あなたは、児童や高齢者、障がい者への虐待、家庭内暴力などを見たり、聞いたりしたことがありますか。【1つに○】

図5-4-1 虐待、家庭内暴力を見たり、聞いたりした経験の有無 全体



虐待、家庭内暴力を見たり、聞いたりした経験の有無について聞いたところ、「ある」が13.6%となっている。(図5-4-1)

図5-4-2 虐待、家庭内暴力を見たり、聞いたりした経験の有無 性・年代別

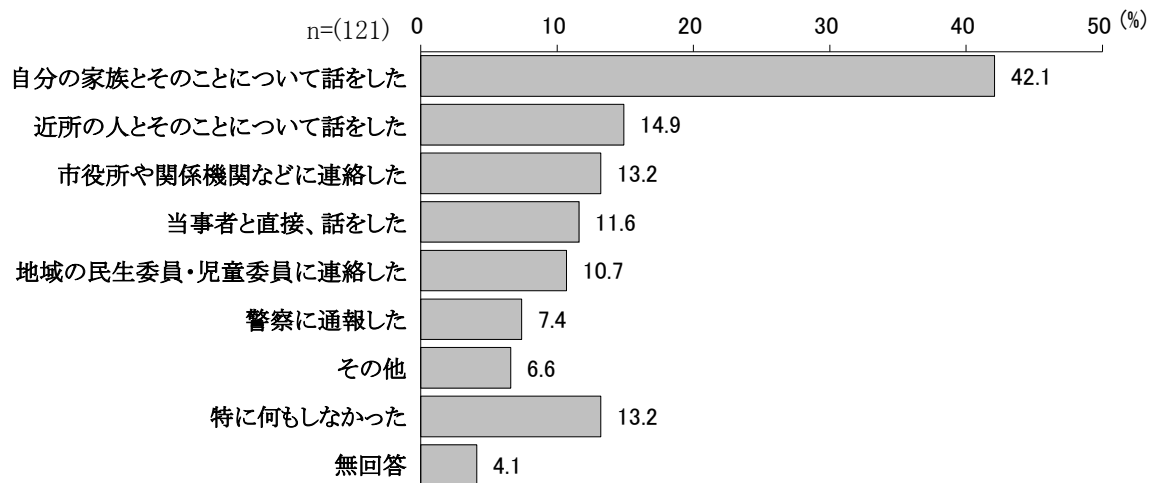


性別でみると、女性と男性の間に大きな差は見られなかった。
 年代別でみると、各年代に大きな差は見られなかった。(図5-4-2)

(5) 虐待、家庭内暴力を見たり、聞いたりした際の対応

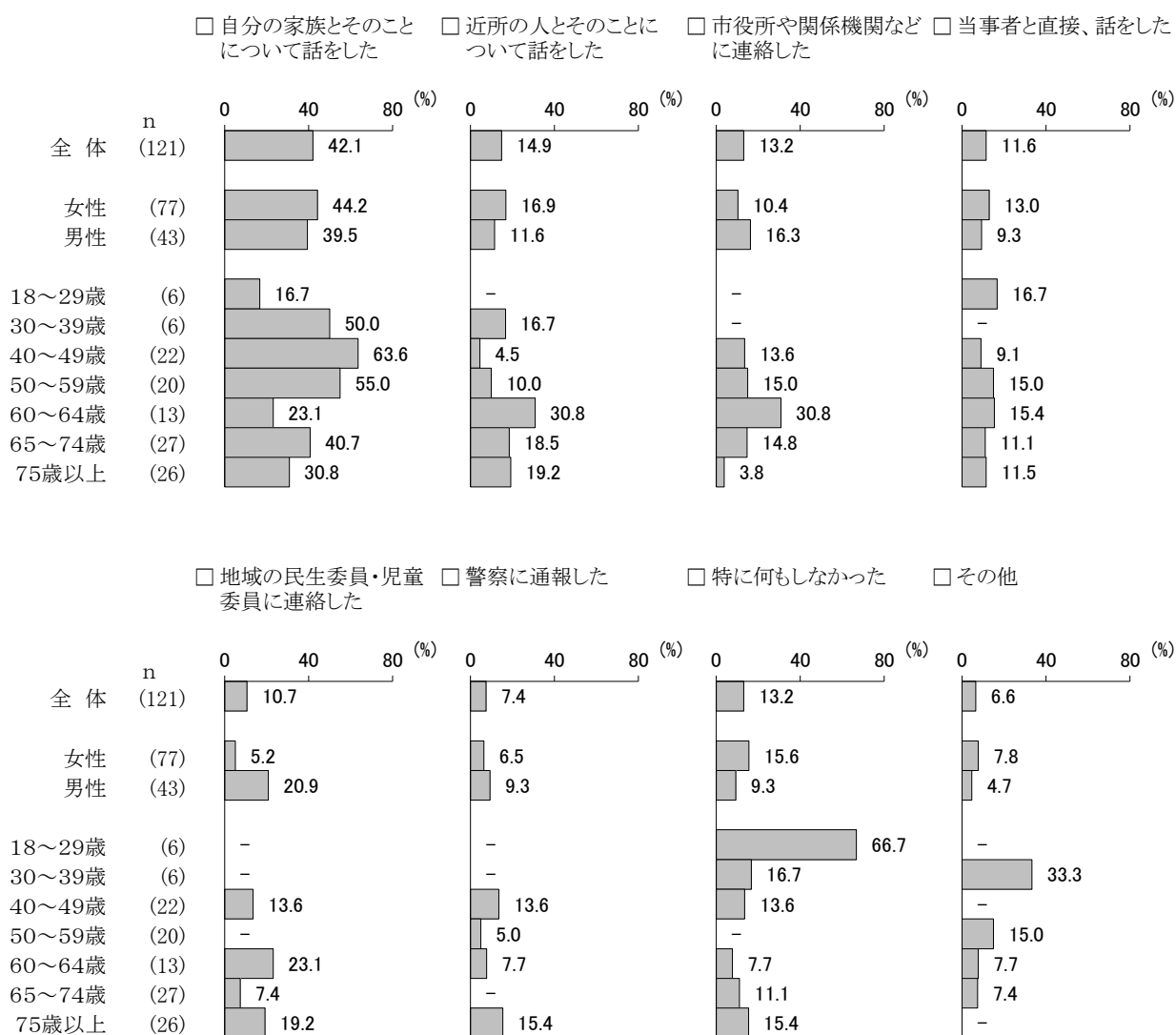
問28で「1. ある」と回答した方のみお答えください。
 問29 そのとき、あなたはどうしましたか。【あてはまるものすべてに○】

図5-5-1 虐待、家庭内暴力を見たり、聞いたりした際の対応 全体



虐待、家庭内暴力を見たり、聞いたりした際の対応について聞いたところ、「自分の家族とそのことについて話をした」が42.1%と最も高かった。以下、「近所の人とそのことについて話をした」(14.9%)、「市役所や関係機関などに連絡した」(13.2%)の順になっている。一方、「特に何もしなかった」は13.2%となっている。(図5-5-1)

図5-5-2 虐待、家庭内暴力を見たり、聞いたりした際の対応 性・年代別（上位8項目）



性別でみると、「地域の民生委員・児童委員に連絡した」については男性（20.9%）が女性（5.2%）より15.7ポイント、「市役所や関係機関などに連絡した」については男性（16.3%）が女性（10.4%）より5.9ポイント高くなっている。一方、「特に何もしなかった」については女性（15.6%）が男性（9.3%）より6.3ポイント、「近所の人とそのことについて話をした」については女性（16.9%）が男性（11.6%）より5.3ポイント高くなっている。

年代別は、それぞれnが少ないため参考値とする。（図5-5-2）

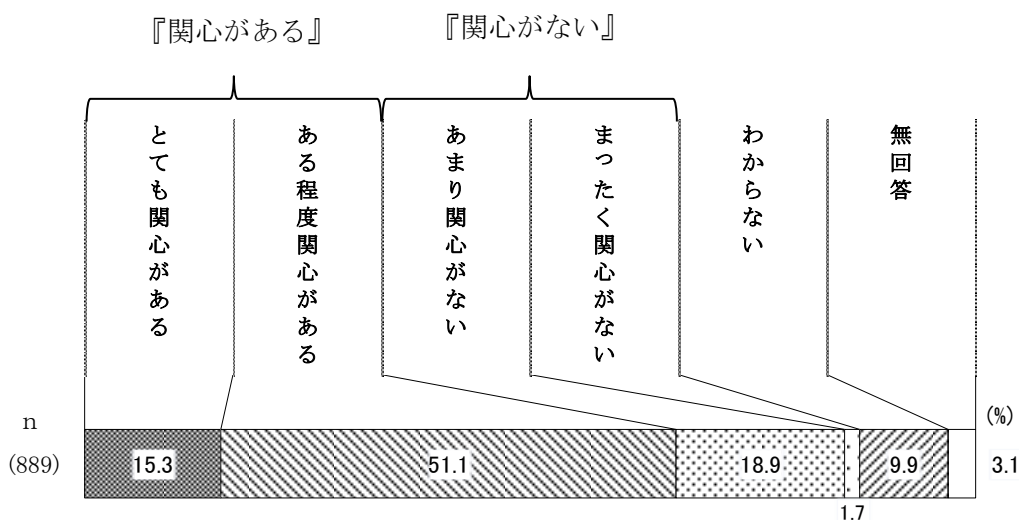
6. これからの地域福祉について

(1) 地域福祉への関心度

問30 地域福祉とは、それぞれの地域において人々が安心して暮らせるよう、地域住民や公私の社会福祉関係者がお互いに協力して地域社会の福祉課題の解決に取り組むという考え方です。「社会福祉法」は、地域住民、社会福祉関係者等が相互に協力して地域福祉の推進に努めるよう定めています。

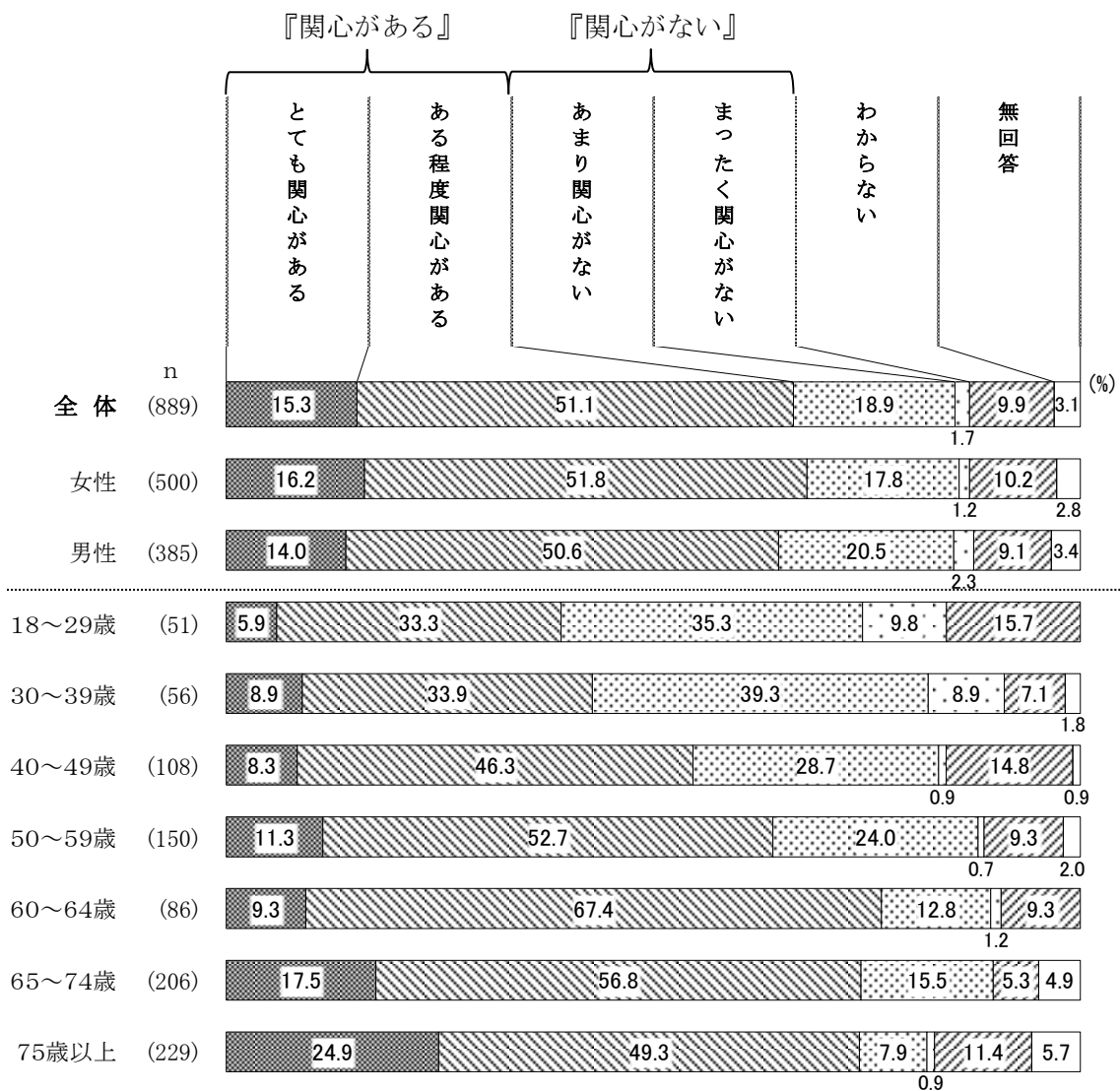
そこで、あなたは、「地域福祉」にどの程度の関心をお持ちですか。【1つに○】

図6-1-1 地域福祉への関心度 全体



地域福祉への関心度について聞いたところ、「とても関心がある」(15.3%)と「ある程度関心がある」(51.1%)を合わせた『関心がある』は66.4%であった。一方、「あまり関心がない」(18.9%)と「まったく関心がない」(1.7%)を合わせた『関心がない』は20.6%となっている。(図6-1-1)

図6-1-2 地域福祉への関心度 性・年代別

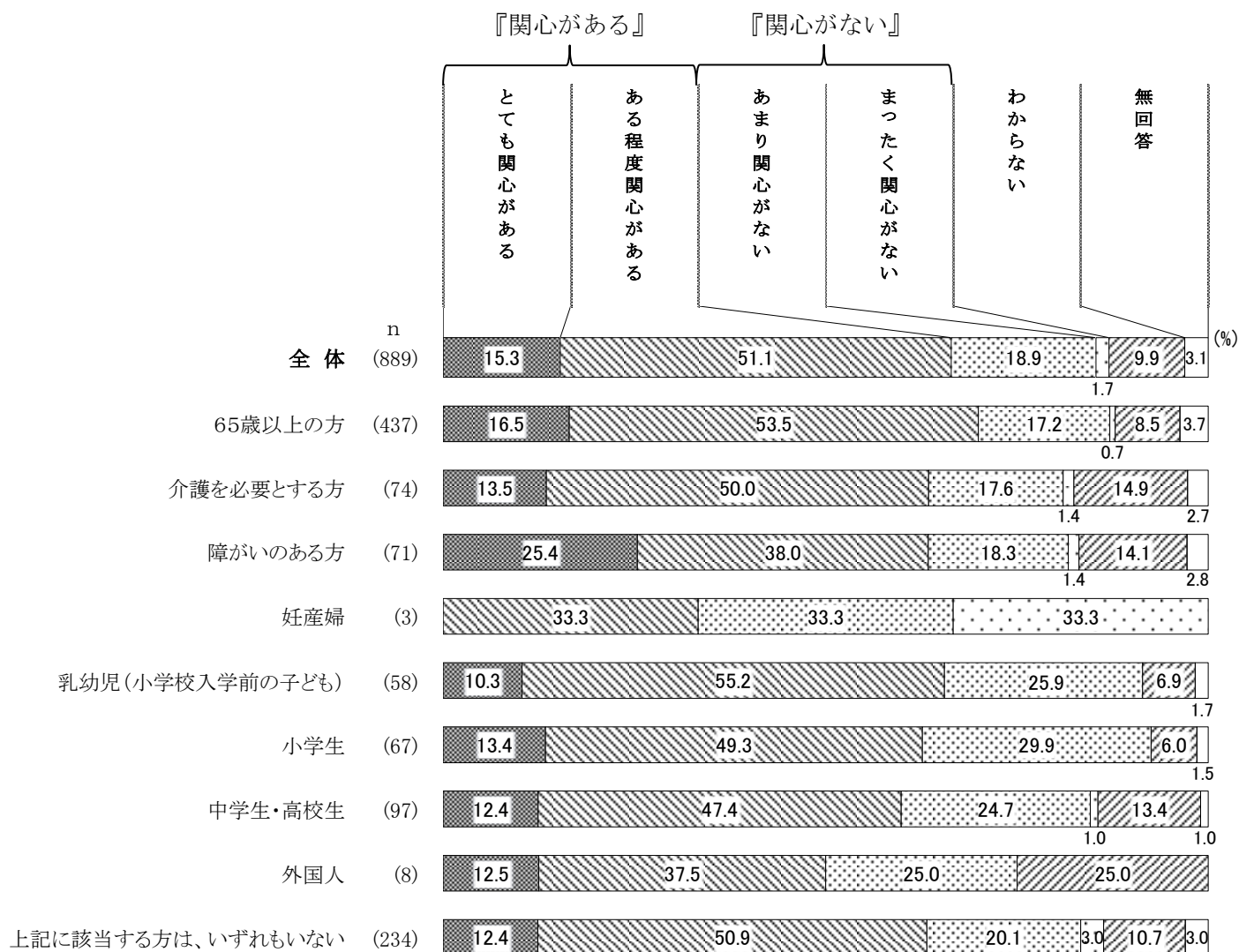


性別でみると、女性と男性の間に大きな差は見られなかった。

年代別にみると、『関心がある』については60歳～64歳（76.7%）が全体に比べて高かった。（図6-1-2）

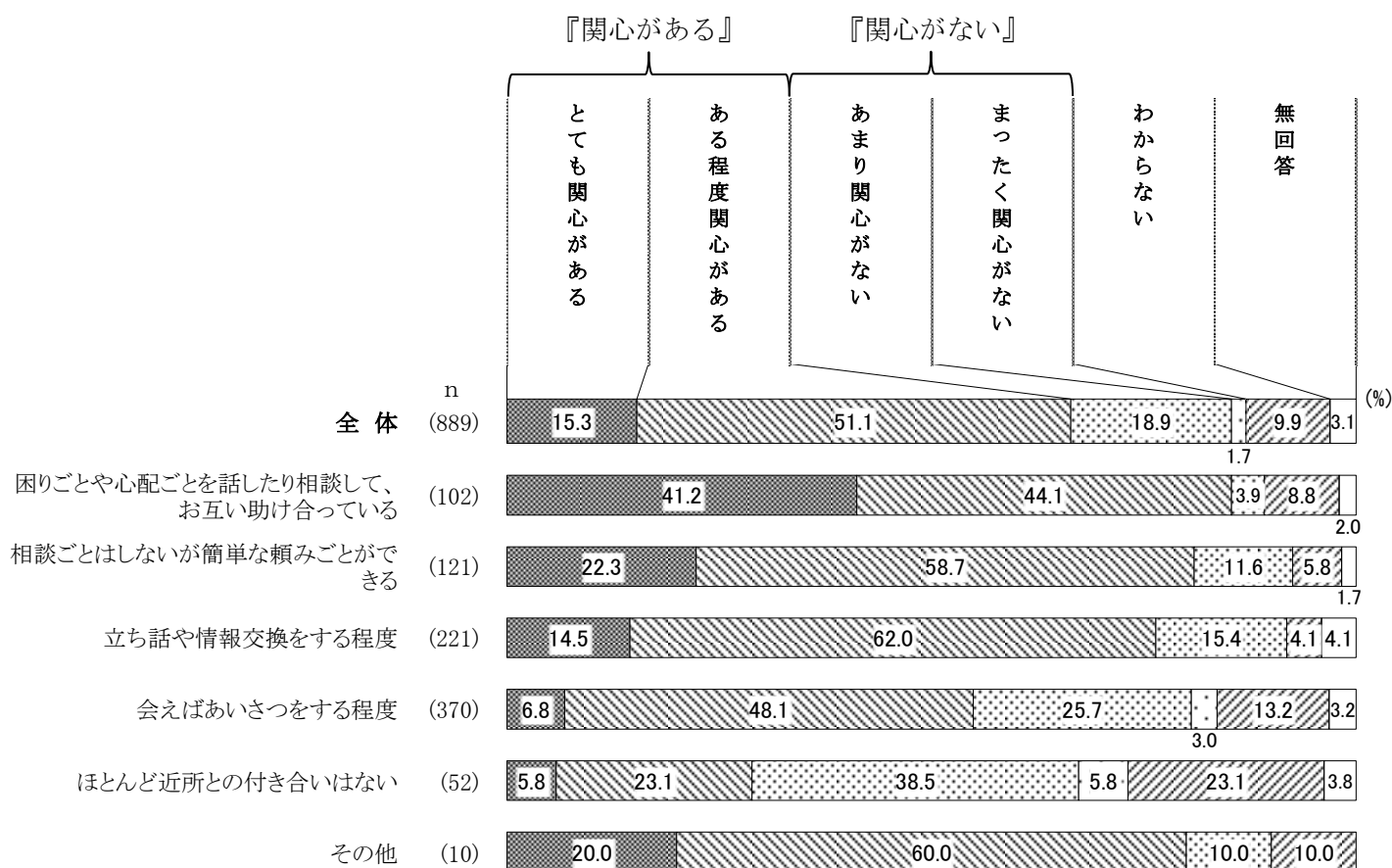
第3章 調査結果

図6-1-3 地域福祉への関心度 同居家族別



同居家族別でみると、「とても関心がある」については障がいのある方（25.4%）が全体に比べて高かった。（図6-1-3）

図6-1-4 地域福祉への関心度 近所付き合いの程度別

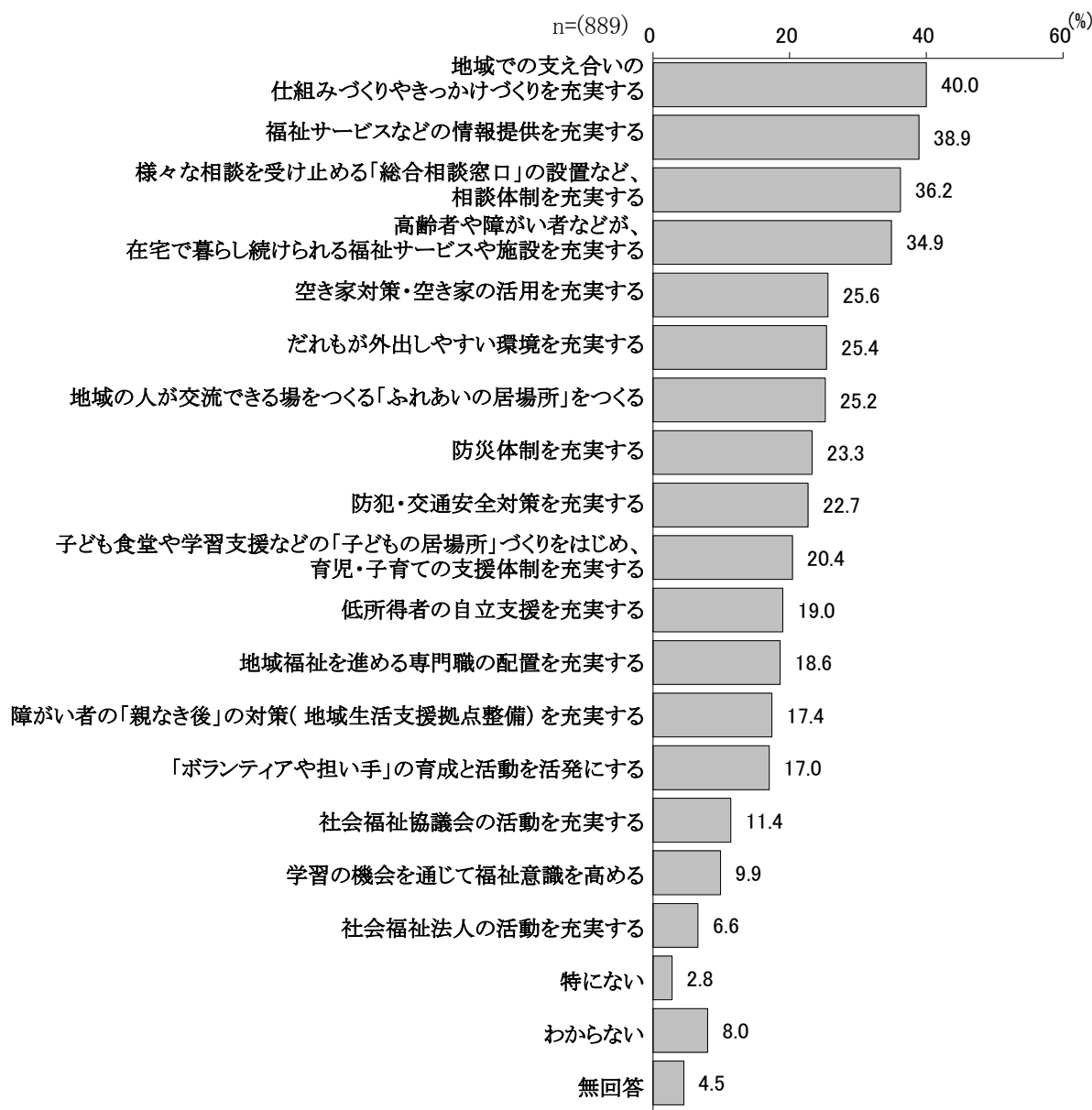


近所付き合いの程度別でみると、『関心がある』については「困りごとや心配ごとを話したり相談して、お互い助け合っている」と回答した人（85.3%）、「相談ごとはしないが簡単な頼みごとができる」と回答した人（81.0%）、「立ち話や情報交換をする程度」と回答した人（76.5%）が全体に比べて高く、近所付き合いの程度が密になるにつれて割合は高くなる傾向にある。（図6-1-4）

(2) 地域福祉を推進していくために重要なこと

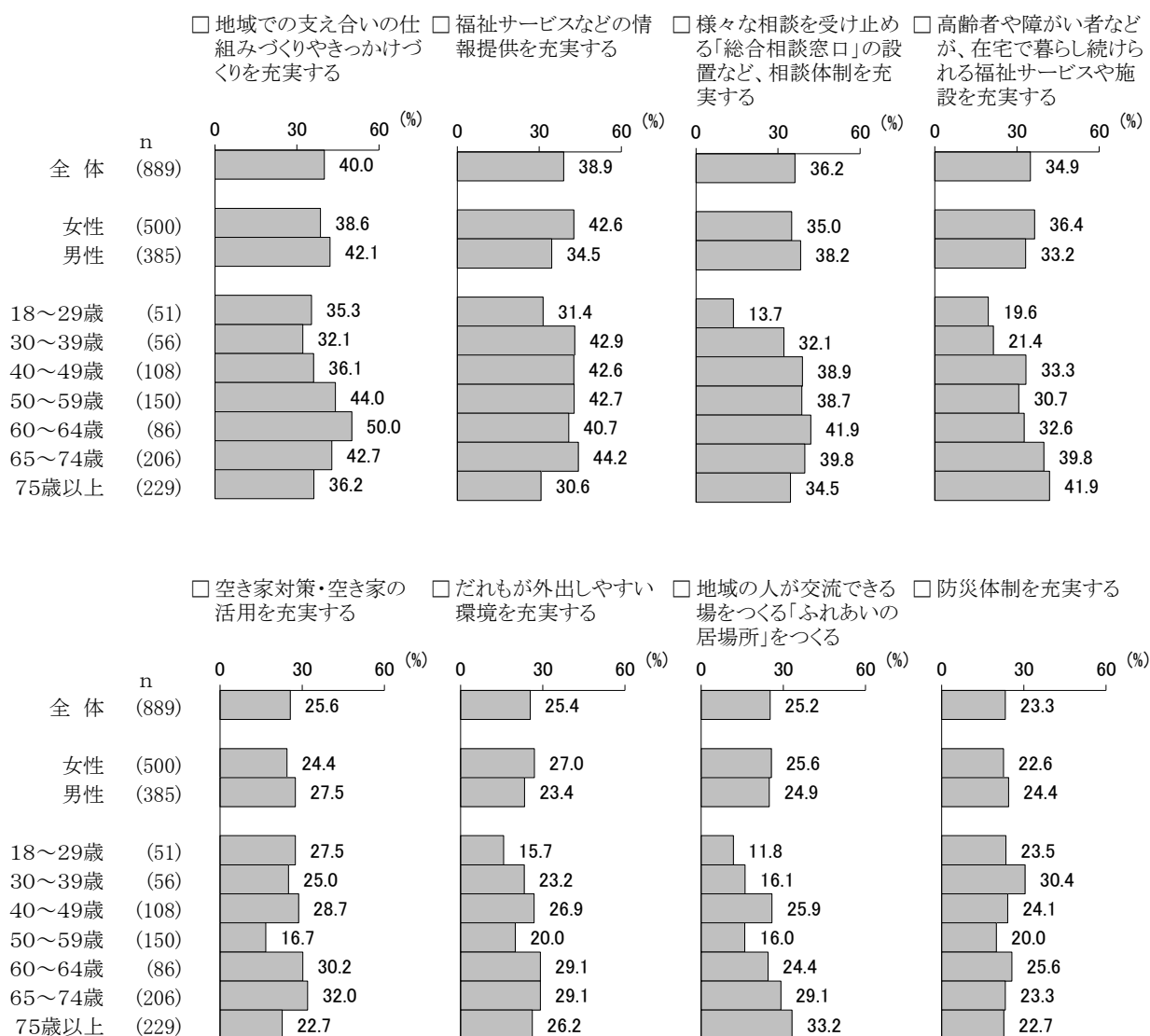
問31 今後、地域福祉を推進していくために重要なことは何だと思えますか。
【あてはまるものすべてに○】

図6-2-1 地域福祉を推進していくために重要なこと 全体



地域福祉を推進していくために重要なことについて聞いたところ、「地域での支え合いの仕組みづくりやきっかけづくりを充実する」が40.0%と最も高かった。以下、「福祉サービスなどの情報提供を充実する」(38.9%)、「様々な相談を受け止める「総合相談窓口」の設置など、相談体制を充実する」(36.2%)、「高齢者や障がい者などが、在宅で暮らし続けられる福祉サービスや施設を充実する」(34.9%)の順になっている。(図6-2-1)

図6-2-2 地域福祉を推進していくために重要なこと 性・年代別（上位8項目）

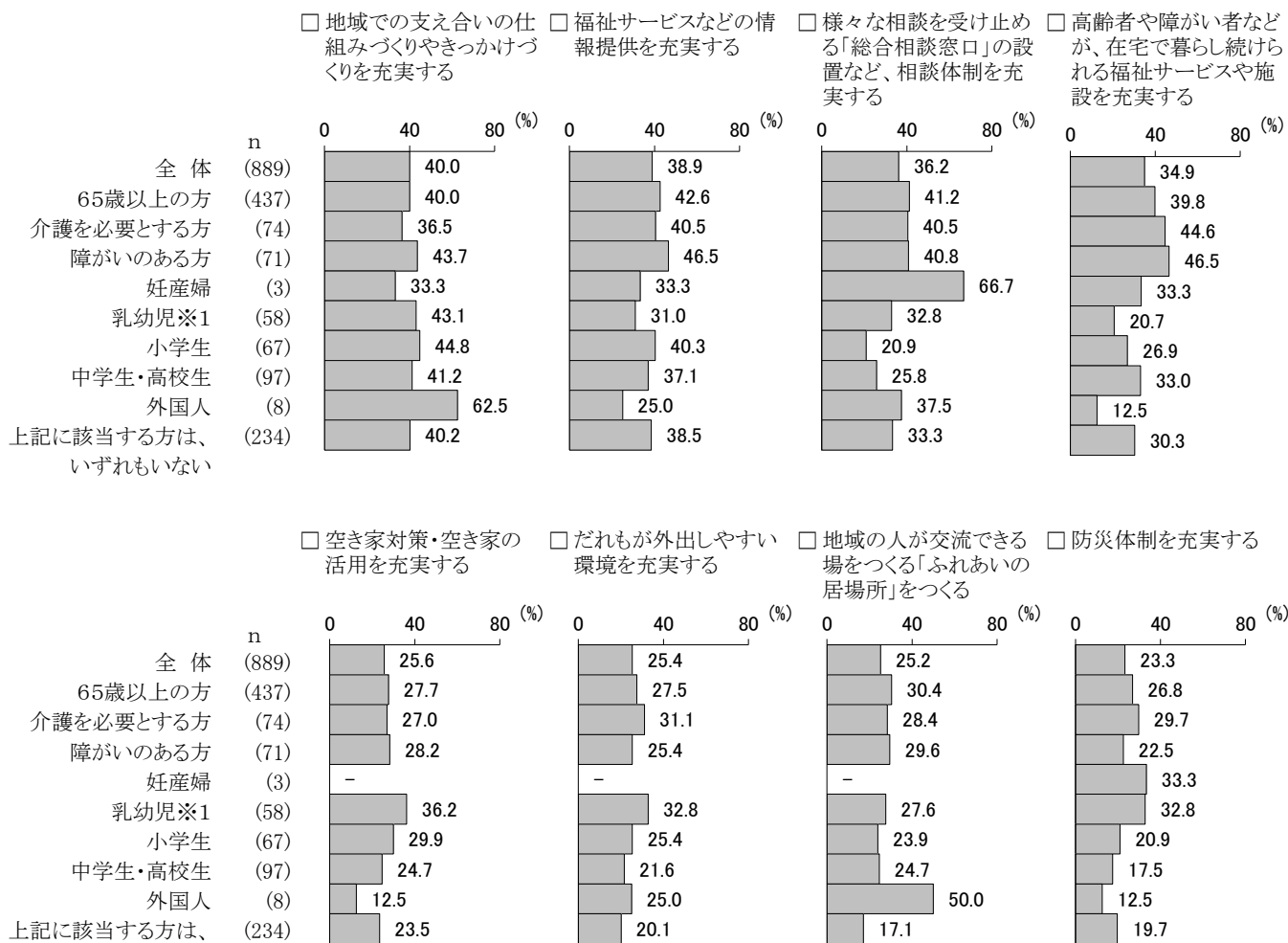


性別でみると、「福祉サービスなどの情報提供を充実する」については女性（42.6%）が男性（34.5%）より8.1ポイント高くなっている。

年代別でみると、「地域での支え合いの仕組みづくりやきっかけづくりを充実する」については、60～64歳（50.0%）が全体に比べて高かった。（図6-2-2）

第3章 調査結果

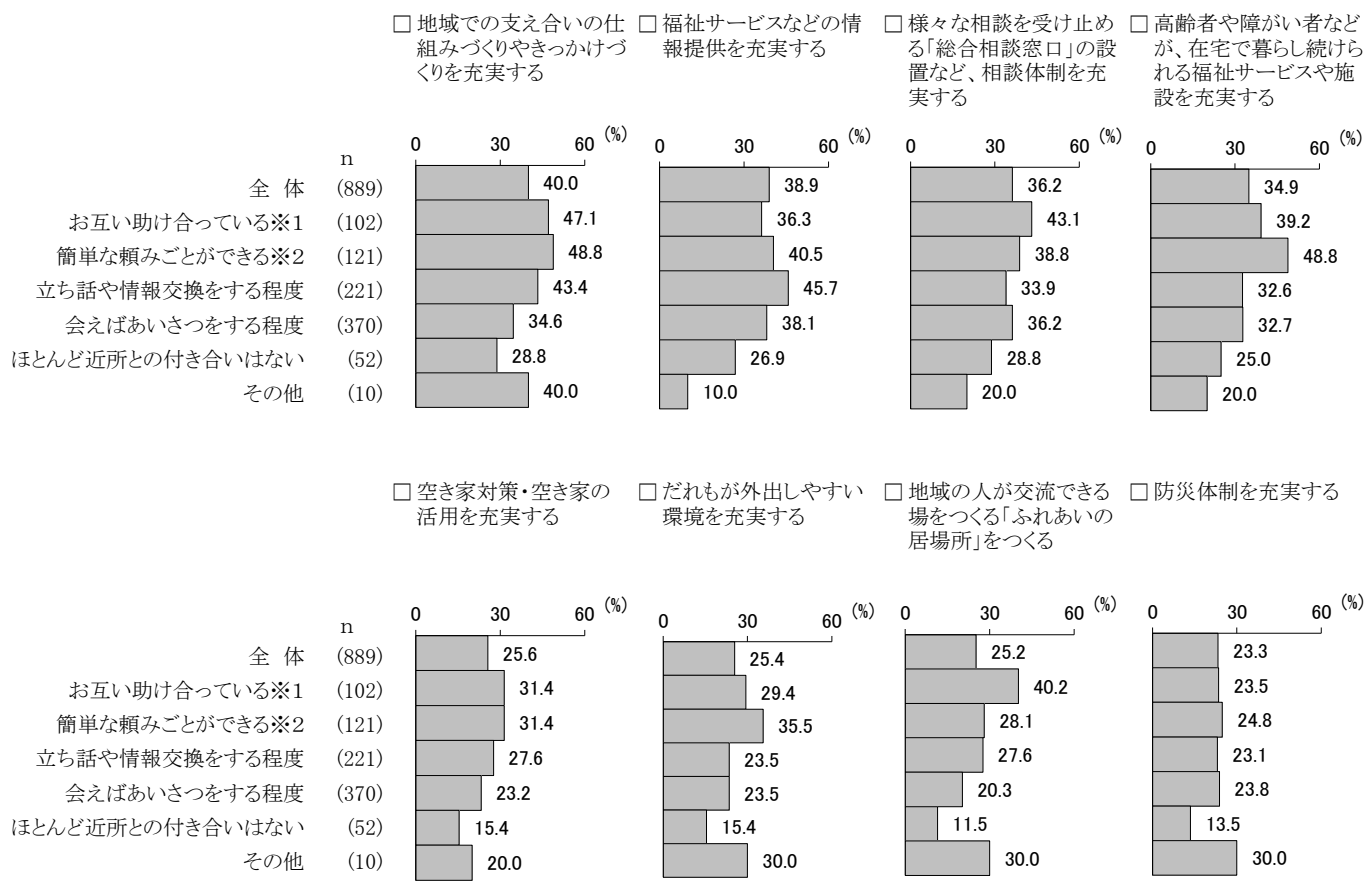
図6-2-3 地域福祉を推進していくために重要なこと 同居家族別（上位8項目）



※1：選択肢は「乳幼児（小学校入学前の子ども）」

同居家族別でみると、「高齢者や障がい者などが、在宅で暮らし続けられる福祉サービスや施設を充実する」については「障がいのある方」と回答した人（46.5%）が全体に比べて高かった。また、「空き家対策・空き家の活用を充実する」については「乳幼児（小学校入学前の子ども）」と回答した人が高くなっている。（図6-2-3）

図6-2-4 地域福祉を推進していくために重要なこと 近所付き合いの程度別（上位8項目）



※1：選択肢は「困りごとや心配ごとを話したり相談して、お互い助け合っている」

※2：選択肢は「相談ごとはしないが簡単な頼みごとができる」

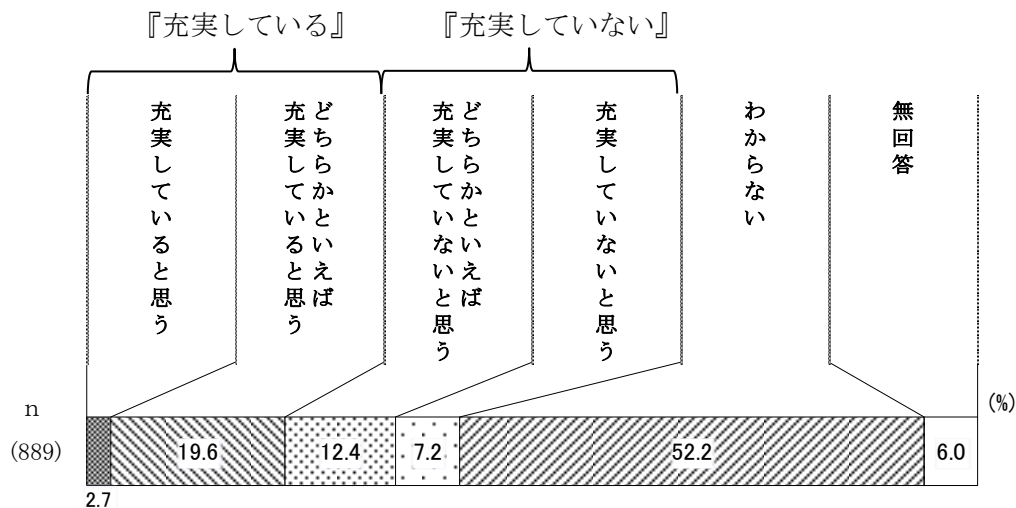
近所付き合いの程度別でみると、「高齢者や障がい者などが、在宅で暮らし続けられる福祉サービスや施設を充実する」については「相談ごとはしないが簡単な頼みごとができる」と回答した人

(48.8%)が全体に比べて高かった。また、「だれもが外出しやすい環境を充実する」については「相談ごとはしないが簡単な頼みごとができる」と回答した人(35.5%)、「地域の人が交流できる場をつくる「ふれあいの居場所」をつくる」については「困りごとや心配ごとを話したり相談して、お互い助け合っている」と回答した人(40.2%)が高くなっている。(図6-2-4)

(3) 現在の「地域福祉」の取り組みに対する充実度

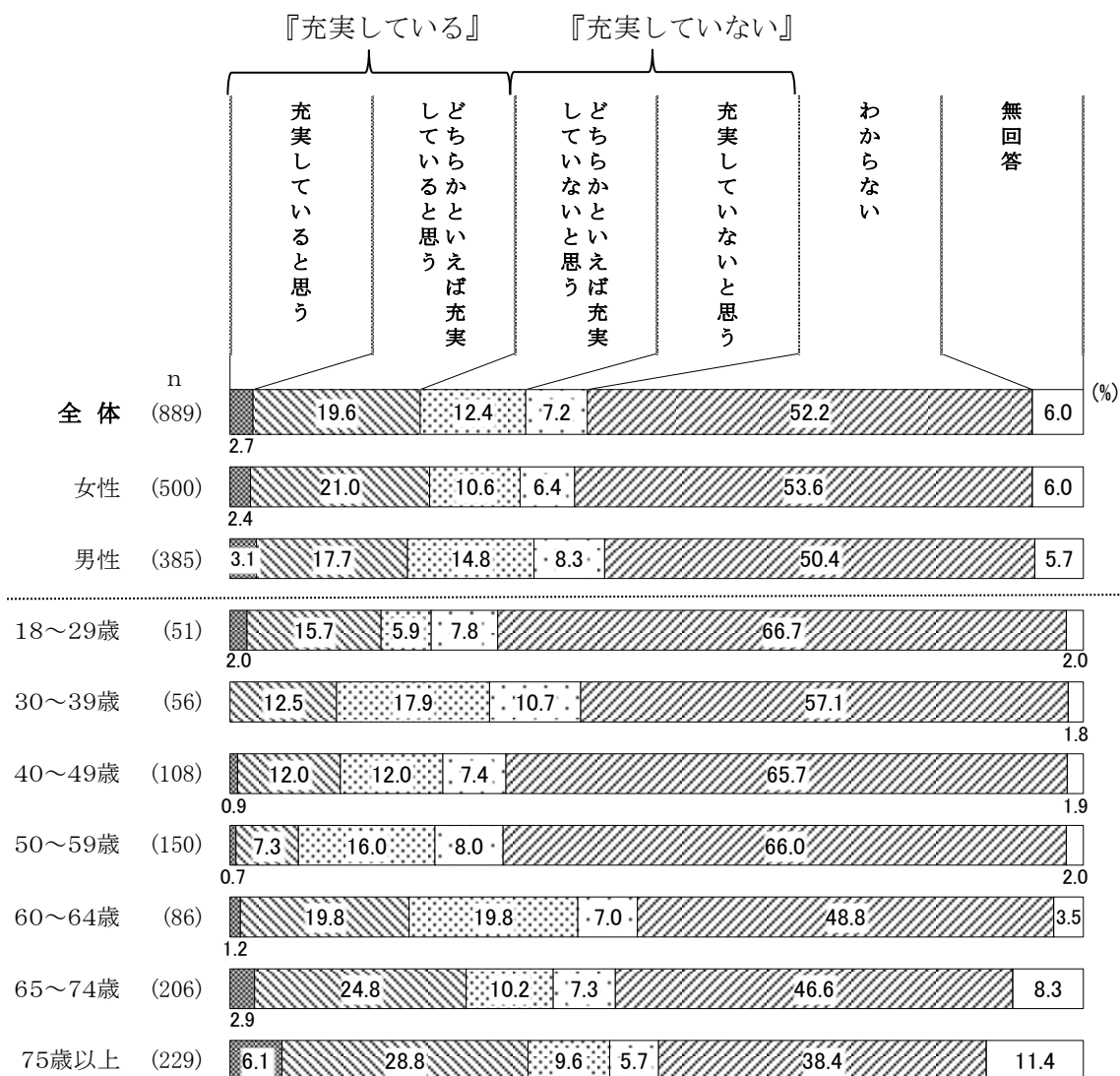
問32 桐生市及び桐生市社会福祉協議会で行っている現在の「地域福祉」の取り組みについて、充実度合をどのように感じていますか。【1つに〇】

図6-3-1 現在の「地域福祉」の取り組みに対する充実度 全体



現在の「地域福祉」の取り組みに対する充実度について聞いたところ、「充実していると思う」(2.7%)と「どちらかといえば充実していると思う」(19.6%)を合わせた『充実している』は22.3%であった。一方、「どちらかといえば充実していないと思う」(12.4%)と「充実していないと思う」(7.2%)を合わせた『充実していない』は19.6%となっている。また、「わからない」は52.2%を占めている。(図6-3-1)

図6-3-2 現在の「地域福祉」の取り組みに対する充実度 性・年代別

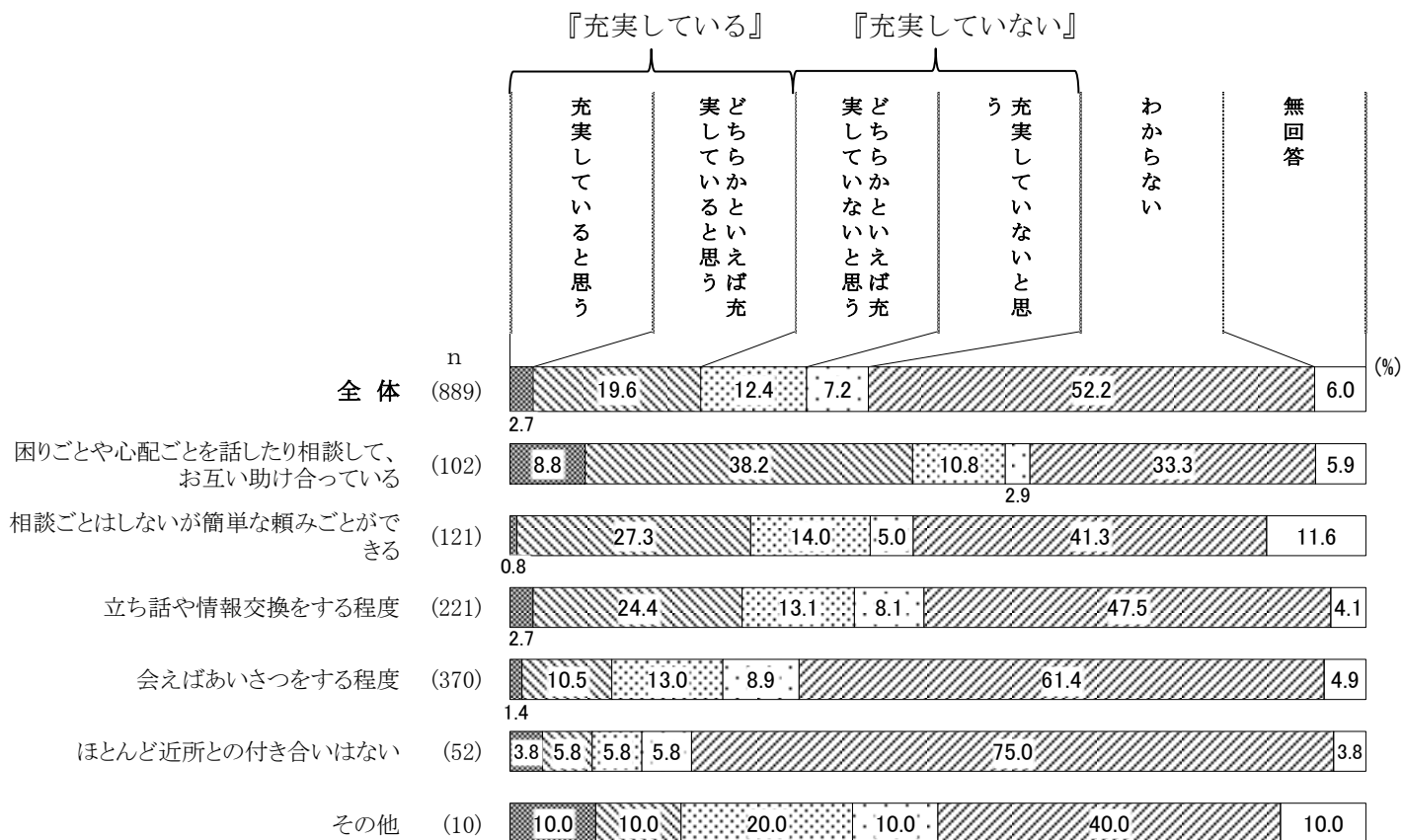


性別でみると、『充実していない』については男性（23.1%）が女性（17.0%）より6.1ポイント高くなっている。

年代別でみると、『充実している』については75歳以上（34.9%）が全体に比べて高かった。また、「わからない」については18～29歳（66.7%）、40～49歳（65.7%）、50～59歳（66.0%）が高くなっている。（図6-3-2）

第3章 調査結果

図6-3-3 現在の「地域福祉」の取り組みに対する充実度 近所付き合いの程度別



近所付き合いの程度別でみると、「困りごとや心配ごとを話したり相談して、お互い助け合っている」と回答した人（47.0%）が全体に比べて高く、近所付き合いの程度が密になるにつれて割合は高くなる傾向にある。また、「わからない」については「ほとんど近所との付き合いはない」と回答した人（75.0%）が高くなっている。（図6-3-3）

7. 自由回答

地域福祉について意見や要望を自由に記述していただいたところ、154票の様々な意見が寄せられた。1票に複数の意見が記入されている場合があるため、意見数の合計は215件となっている。その中から、抜粋した意見を分野ごとに記載した。内容については、意見の趣旨を損なわないよう、一部要約したのものもある。

分野	件数
市の福祉行政全般、市役所に関すること	78
社会福祉協議会、民生委員・児童委員に関すること	44
自治会・地域活動に関すること	31
自分自身や家族に関すること	29
アンケート調査に関すること	21
その他	12

○市の福祉行政全般、市役所に関すること（78件）

福祉に関わる人たちの給与を上げられるようにしてほしいです。今後増えていく高齢者を全てサポートするのは難しいうえ、休まず介護する人たちは、大変な思いをしています。給与が上がり、仕事の環境が上がれば、担いでも増えて良いと思います。これからの社会福祉は、主に高齢者の介護などに携わる人たちがキーマンであり、大切な存在になっていくと思われます。もう、ボランティアと現在の職員だけでは完全にサポートできなくなり、できたとしても、その方々の心身の方が心配です。

（女性 18～29歳）

高齢者の車両運転について、昨今ニュースで事故の話をよく聞きます。運転免許書の更新チェックを厳しく行なっていると思いますが車両をカメラ付きの自動ブレーキ車の乗り換え推進をお願いします。年収や預金の個人差があると思いますが、税金の投入で購入しやすくして免許更新時に自動ブレーキ車の所有チェックをして無ければ購入相談をして買い換えられるシステムをお願いしたいと思っています。

（男性 18～29歳）

誰もが住みやすい環境を作る為に「情報発信」がとても重要だと思います。その際、子供から高齢者の方が見て分かりやすい情報に変換して発信する事が必要です。又、情報をただ知るだけでなく知った情報を活用しやすい環境の整備も必要です。日本は現在超高齢化社会といわれ、これからどんどん高齢者の方が増えますがアクティブに活動する、出来る方も多くいます。その方達が今後楽しく自分らしい生活が少しでも長く出来る、そんな支援が今後もっと必要になると思います。

（女性 30～39歳）

第3章 調査結果

桐生武井西の工業団地への県道が拡幅され歩道等の利用がしやすくなったが、同時に交通量も増え、地域の高齢者や児童の安全性が向上しているかと言えば、そうでない部分もある。経済上の政策と福祉に関わることの両立はバランスが難しく、地域の方々の安全・防犯を優先させていても地域外からの人や物の流入が抑制されてしまうので、もう少し慎重な議論・複合的な政策が必要ではないか。学校への通学路の拡幅等は遅れたままである。伊勢崎市などでは、子供の下校時のアナウンスや、高齢者ボランティアによる通学路の見守りなどが盛んであり、桐生市も取り入れられないか。

(男性 30～39 歳)

新庁舎建設には、反対です！！地に足の着いた、税金の使い方に期待します。少子高齢化社会に、則した行政のありかたを知恵をしぼって、実行して行ってほしいです。

(女性 40～49 歳)

最近、桐生市の介護認定の厳しさについての話を耳にしました。予算等の問題もあると感じていますが、必要な人にとって切実な問題でありこのことが桐生市への評価を下げているなど感じました。自身や親にとっても関係してくる話なので、適正な判断と評価が必要としている人々に必要とされている物（サービス・支援等）が、きちんと行きわたる地域（桐生市）であってほしいと願います。

(男性 40～49 歳)

桐生市という土地にお世話になる事になり、とても楽しみです。人と人のつながりが、気持ちを明るくすると思います。住民票の移し等で市役所に行き、とても職員さんの対応が良く、気持ち良い思いをしました。お手本となるお役所となる方がやさしい対応をして頂く事で、あたたかさが頂けます。そういう所が桐生市の良さの源となっている気がします。とても期待しています。

(女性 50～59 歳)

高齢化が進む桐生なので若い方が少しでも住み易い生活環境が形成されればと思います。デイサービスの内容はぜひ、高齢者が参加したいと思うようなサービスが有ればとても難しいと思いますが、検討して下さい。

(女性 60～64 歳)

公民連携で地域福祉を拡充していくことが理想です。公が強よすぎると税投入が必要であり、民主体だと住民にわずらわしさがつきまとう。住みづらさが大きくなる。バランスを大事だ。戦前の地域社会を想定すると協働が強よすぎて個が失われる。生活しづらいつと感じる若者が増加すると考える。だれをターゲット（弱者）にするか、バランスを考えその弱者だけの救うことを考え、それ以外は自立、自己責任と分けて考えなければならない。

(男性 60～64 歳)

旧市街地住民ですが、現在沢山の空き家が有り屋根や壁が壊れたまま放置してあったり、その敷地内の木や枝がのびて道路や駐車場を塞いだり危険な箇所も見かけています。その様な、空地、空家の見守り、再活用力の支援をお願いしたいです。

(女性 65～74 歳)

総合相談窓口に設置など相談体制の充実をお願いしたい。特に高齢者、障がい者について。

(男性 65～74 歳)

赤字路線とありますがおりひめバスの本数を増して下さい。七十才を過ぎて来ると相手はもちろんですが買い物もままになりません。なりたけをお願いします。

(女性 75 歳以上)

広報活動の不足。

(男性 75 歳以上)

○社会福祉協議会、民生委員・児童委員に関すること (44件)

社協職員が直接対象者などに出向き相談に乗ったりしてほしい。社協が何をしているのか、この相談についてはどこに相談したら良いのかわからない人が多いと思う。活動内容などを皆にわかるようにしてほしい。

(女性 30～39 歳)

子育てなどで困った時に相談する相手がいなくて孤独でした。市外からきたため相談相手もいなく、民生委員の人は1度きただけでその後はこちらから発信しなければいけないのは、不満でしたし、心を病みました。今は治療中です。私のような人がこれから増えてしまわないようなサポート活動をしてほしいです。

(女性 30～39 歳)

「社会福祉協議会」をひらける場所にしてほしい。行きにくい場所というイメージ。もっと地域の為におたかく止まらずつくしてほしいと思う。

(女性 50～59 歳)

社会福祉協議会の会長は、宛て職の方でいいのでしょうか？しっかりと問題が発生した時に、責任を持って、はたしていただけるのでしょうか？職責を全うできる様に改革した方がよいと思います。

(男性 50～59 歳)

高齢化社会から超高齢化社会に向かっていくことから、社会福祉協議会の活動は増々忙しくなっていくことだと思います。具体的な活動内容や各地域ごとに活動している内容を広く広報して、情報発信して、市民にアピールすることで社会福祉協議会自体を身近に感じてもらえるようにすることが大切だと思います。市民に心から利用させてもらえるひらかれた団体になっていかれることを望みます。

(男性 60～64 歳)

第3章 調査結果

社会福祉協議会についてほとんど活動の内容を知らないで申し訳ないです。地域福祉の推進というのですが、私の住んでいる隣組では、若いカップルも子供もおりません。隣の家は1人暮らしなので、電気がついていないかとか、元気そうかなと私なりに心配はしています。私はまだ仕事をしているので、あまり近所の人と話をすることもないのですが、自分にできることはしていこうと思っています。

(女性 65～74歳)

地域福祉職員さんをもっと、増やしてほしいと思います。

(男性 65～74歳)

もっと活動をPRして下さい。市や社協がどういった活動をしているのか、どういう時（市民が）どういうサービスをうけられるのか、市・社協・包括センター、等のすみ分け…わからないことだらけです。知っている人は利用できるけれど、知らない人は利用できない、という印象です。

(女性 75歳以上)

黒保根地域で特に感じているのは、支所、社協、公民館が各々の立場で業務にあたっているとは思いますが、もっと共働して、情報なり役割なり共有することで、次への目標を市民サービス向上につなげてほしいと思っています。

(男性 75歳以上)

○自治会・地域活動に関すること（31件）

（個人情報保護にも務めながらも）地域とのつながりをつくり出すため市などが強制的なルール作りを進め、又、時間にしばられない活動を実施するのが良いと思う。又、市民に対しての負担を減らす事で、地域住民間でのあつれきを生じさせず、活動を持続的に行えるようにする。負担を減らすための策として、一つは、その活動が直接福祉に結び付くような物だと良い。

(男性 18～29歳)

助けられる人が手助けの必要な人を支える事は必要だと思うが近所とはいえその関係は様々なので、地域ごとに役員の配置をして誰が誰の手助けをするということを決めておいたほうが良いと思う。状況は変わるので半年ごとの見直しをするとか制度化が必要。

(女性 50～59歳)

黒保村の荒神山の整備（登山ブームを活用して集客とボランティア）水沼温泉と道の駅のPR。子ども会活動の充実。子どもは地域で育てる事を全面に出し、予算面、指導者育成に力を入れて、活発な活動を。しいては子どものチャンスを増やす、地域の宝である子どもの育成に力を入れるべき。

(男性 50～59歳)

地域社会と云っても。子供の通う学区と桐生市が区切る「区」が異なる為、不便である。長い年月、通学区内のボランティアをしているが、住所のある区は普段交流のない「区」にあるので、双方の情報が中途半端である。従って、「地域住民主体の活動組織団体で、区ごとに設置…」と言われても、どこのどなたがどんな活動をされているのか分かりません。

(女性 60～64 歳)

自治会の活動が町内住民が高齢となっており公園の清掃等が難しくなっている。

(男性 60～64 歳)

介護予防体操、各公民館でやらしてもらえたら近くなら参加出来ると思います。少しでも健康寿命を伸ばしたいと思っています。

(女性 65～74 歳)

回覧板をなくしてほしい。

(男性 65～74 歳)

要支援者や、ひとり暮らし高齢者の見守りを定期的に行ったり、支援活動を行うため、民生・児童委員、老人クラブの役員、自主防災組織の役員などが話し合う必要があるのではないかと思います。役所は、個人情報保護を理由に、要支援者名などを教えたがらないが、例えば、老人クラブの代表に教えて、見守り活動の対象にすることを考えるべきではないか。

(男性 75 歳以上)

地域の有能な人材を、福祉をはじめとした各種の社会活動に活かす方策を。

(男性 75 歳以上)

○自分自身や家族に関すること (29件)

精神障害者手帳2級の当事者です。医師からは実家を離れて療養した方が良いとの意見を受けたことがありますが、経済的に無理だったので諦めました（その際、市の福祉課がグループホーム等に相談しました）また、市内の作業所へ通うことも検討しましたが、交通費や通所距離の問題でマイナス面が多く、諦めました。現状、私は月に一度の通院日以外は全く外出できない、引きこもり状態にあります。以前はリハビリの為に近所を散歩することをしていましたが、すれちがう人々のほぼ全てが顔見知りの為、仕事のことを聞かれたり、障害のことを隠すことが苦痛で止めてしまいました。上記の様に、私は地元に住まい続けている限り、救われることなく、その状態にあることがますます症状の悪化につながり、悪循環から抜け出すことができません。かといって、実家を離れ一人暮らしを行なう生活力も経済力も無く、絶望感でいっぱいです。自分が居る限り、家族も不幸になっていくと考えています。また、症状が改善したとしても、この年齢からどんな希望を見出せば良いのか分かりません。まっとうな仕事にもありつけず、まっとうでない仕事に就けたとしても、再発のリスクが大きいです。やはり絶望しか感じません。

第3章 調査結果

(男性 30～39 歳)

“遠くの親せきより近くの人”と言われるよういざという時にお互い助け合うためには日頃から良い関係を築かなくては…と思うが…なかなか、それがどうしたらよいかわからないし平日は仕事で1日が終わり、休日は休養しないと体がもたないし、難しいですね。

(女性 40～49 歳)

会社にて仕事をしていますので、高齢の父が昼間一人でいますので心配です。近所の方も父と同じ位の方で、何かあっても連絡（至急の場合）がつかない。家族で話し合い週に何日か父の様子を見に来ています。

(女性 50～59 歳)

あまり福祉に関してわからないので勉強したい思います。

(男性 50～59 歳)

私は、60 才代で自分の健康管理で精一杯です。両親は、90 才代（父）80 才代（母）で介護認定を受けているようです。別居していて、行くこともあまりできないので、デイサービスの人には感謝しています。どんなサービスを受けているかは、わかりません。が、両親は老老介護で、痛れ切っています。分かっているても、親を看護できない自分がなさけない思いです。

(女性 60～64 歳)

昨年母が96才で亡くなりました。1年前くらいから介護を始めました。そして自分自身で癌となり病気と介護でどうにもならなくなりました。その時に役所や福祉協会に相談したけど相談にならなくて自分で全部決めました。いろいろ一年介護の事を自分で知べました。在宅介護が良い事だと思っている役所の方は、そんな人たちはいない。ボランティアで介護など出来ません。本当の介護を知っている人が役所や福祉会には必要だと思います。仕事で介護は出来ません。本気で介護を考えてほしいです。相談に乗ってほしいです。これから介護が必要な人たちが気楽相談出来る用にいろいろ考えてほしいです。

(男性 60～64 歳)

私も妻を亡くして1年に成ります。自分では気が付かないが外出する事が非常に少なり心配しています。私も後期高齢者に近くなりました。積極的に団体活動に参加したいと思います。先日も民生委員の方に1人に成って「こまった事はないですか」と聞かれ書類を渡され悩み事が有ったら相談して下さいと言われ、大分気持ち楽になりました。民生委員の方が自分の事を気付かせてくれている事で大変うれしく成りました。

(男性 65～74 歳)

私ども桐生に来て18年目です。今は主人が高齢者になり福祉にお世話になり今日は幸いいに手続きがスムーズにいっています。大変良いと思います。皆さんで支えあって桐生も元気に明るい町にしたいですね。よろしく願います。

(女性 75 歳以上)

妻が2年前に他界し、現在は1人暮らしの為、健康には気を付けているが少し心配。昨年11月に群大病院に高所から落ちた肩腱板断裂で手術、40日間入院、現在桐生厚生病院でリハビリ中、近くに子供は住んでいるから多少は安心でいる。何もかも1人で気は楽だけど大変。

(男性 75歳以上)

○アンケート自体に関すること (21件)

地域福祉について分からない事が多くあり、このアンケートで知った内容がたくさんありました。このようなアンケートを引き続き行っていただきたいと思います。

(男性 30~39歳)

「第2次の計画期間が31年度に終了する」ということは、かなり長い時間をかけて活動していたということですか？もしそうならばあまり活動が浸透していないと思います。実際私自身知りませんでした。このアンケート結果を今後どのように活かすのか知りたいです。18才の意見と、高齢者の方の意見と、全てをまとめてしまっているのですか？あと、これまでの活動の成果みたいな資料を一緒に入れてもらえると参考になります

(女性 40~49歳)

何がしたいのか、どうしたいのか全くみえてきません。地域のことは地域でというのであれば市行政は何の用があるのかわかりません。予算をつけて行動をするのであれば何をいつ、いつまでにどうするを目に見える形で示してほしい。(このアンケートばかりでなくすべての市行政について)他市に比べ、質がわるい。

(男性 40~49歳)

どう書いていいかわかりません！

(女性 50~59歳)

問31の選択肢1が大切だと感じています。きっかけづくりを充実して、現在仕事にいそがしい若い人達の感心を高めて、『福祉を受ける人の地域福祉』でなく、桐生市に生活している全員すべての人が毎日の生活の中でちょとづつ参加できる長つづきできる仕組みづくりをめざして協力したいと思っています。

(女性 60~64歳)

“地域福祉に関するアンケート”に答えながら、いろいろ考える時間がもてました。そして“いくつかのボランティア活動をさせていただくなかで日々学ぶことの大きさを”だれもが安心してらせる地域づくりの大切さを”そして”一人一人が福祉意識を高めていくことを”など痛感しています。これからも大好きな桐生市がさらに住やすく、くらしやすい福祉の街になってほしいと期待しています。小さな小さな一歩ですが私も住人の一人として日々学んでいこうと考えています。

(女性 65~74歳)

第3章 調査結果

アンケート調査で得られた情報を確実に実施して下さい。

(男性 65～74 歳)

87 歳と高齢者なので良くわからない所も有ります。ごめんなさい。

(女性 75 歳以上)

地域福祉と言われても漠然としすぎているように感じ、アンケートにどう答えるか迷いました。安全・安心な災害、DV もさることながら、通常的生活の中でのもの（e x. 街灯等）もあるのでは？他の行政分野（e x. 防犯）に福祉としてどう関わるのでしょうか？

(男性 75 歳以上)

○その他（12件）

地域福祉とは？どのような事をしてどのような人が利用できてどのような人が働くのかよくわかりません。

(女性 40～49 歳)

自己責任という考え方を無くした方がいいと思います。

(男性 50～59 歳)

どのように、かかわって、よいか？よくわからない。そのことを知る場がない。

(男性 60～64 歳)

諸々の掛け声はあるが、実状にはズレがある。お金、人手。

(男性 65～74 歳)

人口減少が心配です。

(女性 75 歳)

第4章 調査票

地域福祉に関するアンケート調査

〔調査ご協力のお願い〕

市民の皆様には、日ごろから市政にご理解とご協力をいただき、心から深く感謝申し上げます。

現在、桐生市と桐生市社会福祉協議会が協働で策定した「第2次桐生市地域福祉計画・地域福祉活動計画」により、市民の誰もが住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らすことのできる地域づくりを目指すために、市民や関係機関・団体、行政などが連携し、地域の住民同士が互いに助け合い、支え合う仕組みづくりを推進しているところです。

この度、第2次の計画期間が平成31年度に終了することから、本市の地域福祉をめぐる現状や市民意識の状況を把握し、次期計画の基礎資料とするため、市民の皆様を対象にアンケート調査を実施することとなりました。

今回の調査は、本市在住の18歳以上の方の中から、無作為に2,000人を選ばせていただきました。調査票は無記名で、統計的に処理します。ご記入いただいた調査票を公表したり、調査の目的以外に使用したりすることは一切ございません。

大変お忙しい中、恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成31年 4月

桐生市
桐生市社会福祉協議会

■ご記入にあたっての注意事項■

1. あて名の方ご本人がお答えください（ご家族と相談していただいても結構です）。また、本人が記入できない場合は、ご家族の方が本人のお考えを聞きながらご記入ください。ご記入は平成31年4月1日現在の内容でお願いいたします。
2. 回答は、あてはまる答えの番号を○で囲むか、回答欄に回答を記入してください。「その他」を選んだ場合は、その具体的な内容を()のなかに記入してください。
3. 選択する答えの数は「1つに○」「あてはまるものすべてに○」などの記述にしたがってください。
4. ご記入後は、回答用紙を同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、5月15日（水）までにご投函ください。
5. ご不明な点は、下記までお問い合わせください。

担当：桐生市保健福祉部福祉課 社会福祉係

電話 0277-46-1111（内線）285 F A X 0277-45-2940

1. 調査にご協力いただいている、あなたご自身のことについて

問1 あなた（対象者ご本人）の性別を教えてください。【1つに〇】

1. 女性 2. 男性 3. その他 4. 無回答

問2 あなたの年齢を教えてください。【1つに〇】

1. 18～29歳 2. 30～39歳 3. 40～49歳
4. 50～59歳 5. 60～64歳 6. 65～74歳
7. 75歳以上

問3 あなたの現在の職業を教えてください。【1つに〇】

1. 会社員・団体職員 2. 公務員
3. 会社経営・自営業主 4. 家族従業者
5. パート・アルバイト 6. 家事専業
7. 学生 8. 無職（家事専業・学生を除く）
9. その他（ ）

問4 あなたは今の地域に住んで何年になりますか。【1つに〇】

※新里町、黒保根町にお住まいの方は、桐生市と合併する前の居住年数を含めて回答してください。

1. 1年未満 2. 1～5年未満
3. 5～10年未満 4. 10～20年未満
5. 20～30年未満 6. 30年以上

問5 あなたが現在一緒に住んでいる家族構成を教えてください。【1つに○】

1. ひとり暮らし	2. あなたと配偶者	3. 2世代家族
4. 3世代家族	5. その他（	）

問6 あなた自身、またはあなたが同居している家族のなかに、次のような方はいますか。
【あてはまるものすべてに○】

1. 65歳以上の方	2. 介護を必要とする方
3. 障がいのある方	4. 妊産婦
5. 乳幼児（小学校入学前の子ども）	6. 小学生
7. 中学生・高校生	8. 外国人
9. 1～8に該当する方は、いずれもない	

2. 地域とのかかわりについて

問7 あなたは、日頃、近所の方との関係は以下のどれに最も近いですか。
【1つに○】

1. 困りごとや心配ごとを話したり相談して、お互い助け合っている
2. 相談ごとはしないが簡単な頼みごとができる
3. 立ち話や情報交換をする程度
4. 会えばあいさつをする程度
5. ほとんど近所との付き合いはない
6. その他（
）

問8 今後、ご近所とのお付き合いについて、どのように感じていますか。

【1つに○】

1. 日ごろから行き来があるくらいに親しくしたい
2. いざという時に、助け合えるくらいに親しくしたい
3. 会えば立ち話をする程度に親しくしたい
4. あいさつを交わす程度がよい
5. 生活時間帯が違うので、近所付き合いは難しい
6. 近所付き合いはしたくない
7. わからない

問9 あなたは、となり近所の助け合いとして、何ができるとおもいますか。

【あてはまるものすべてに○】

1. ごみを出す
2. 買い物
3. 趣味や世間話などの話し相手
4. 通院や施設への送迎や診察の予約など
5. 散歩や外出の同行
6. 草むしりや庭の清掃
7. 玄関前の掃除や除雪
8. 部屋の掃除や片付け
9. 雨戸の開け閉め
10. 短時間の子どもの預かり
11. 保育園・認定こども園・幼稚園の送迎
12. ペットの世話・あずかり
13. 図書・DVD等の借用代行
14. 子育てや介護などの相談にのる
15. 安否確認の声かけ
16. 災害時の避難の手助け
17. 何もしたくない
18. その他()

問10 あなたは、となり近所の人に手助けしてもらおうとしたら、どんなことをしてほしいですか。

【あてはまるものすべてに○】

<ol style="list-style-type: none"> 1. ごみを出す 2. 買い物 3. 趣味や世間話などの話し相手 4. 通院や施設への送迎や診察の予約など 5. 散歩や外出の同行 6. 草むしりや庭の清掃 7. 玄関前の掃除や除雪 8. 部屋の掃除や片付け 9. 雨戸の開け閉め 10. 短時間の子どもの預かり 11. 保育園・認定こども園・幼稚園の送迎 12. ペットの世話・あずかり 13. 図書・DVD等の借用代行 14. 子育てや介護などの相談にのる 15. 安否確認の声かけ 16. 災害時の避難の手助け 17. 何もしてほしくない 18. その他()

問11 あなたは、どのような地域活動に参加していますか。

【あてはまるものすべてに○】

<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者、障がい者、子育て支援など福祉に関する活動 2. 地域の祭り、運動会、文化祭といった交流・文化活動 3. 子ども会や青少年健全育成に関する活動 4. 地域の交通安全や防災、防犯に関する活動 5. 清掃活動、公園管理など環境美化に関する活動 6. その他()
--

3. あなたの困りごとや悩みごとについて

問12 あなたは現在、日常生活においてどのような困りごとや悩みごとに不安を感じていますか。【あてはまるもの3つまでに○】

1. 自分や家族の健康のこと
2. 自分や家族の老後のこと
3. 自分や家族の生きがいに関すること
4. 自分や家族の介護のこと
5. 自分や家族の経済的な問題
6. 子育てに関すること
7. 隣近所との関係
8. 住宅のこと
9. 買い物や通院における移動手段
10. 地域の安全(防犯)に関すること
11. 災害時の備えに関すること
12. 人権問題(差別や偏見)に関すること
13. 特に不安を感じていない
14. その他 ()

問13 あなた自身は、福祉に関する困りごとや悩みごとが生じた場合、主にどこから情報を入手していますか。【あてはまるもの3つまでに○】

1. 同居している家族
2. 離れて暮らしている家族・親せき
3. 友人・知人
4. 近所の人
5. 民生委員・児童委員
6. 自治会・町会
7. 学校・園
8. 職場
9. 社会福祉協議会
10. 行政機関(市役所・公民館など)
11. 地域包括支援センター
12. 福祉サービスの事業者(高齢者施設、障害者施設、保育園など)
13. 医療機関(医師、歯科医師、薬剤師、看護師など)や薬局
14. NPO やその他の民間団体
15. インターネット(ホームページなど)の情報
16. 機関紙(社協だよりや広報きりゅう)・パンフレット
17. 特に情報を入手しない
18. その他 ()

問14 あなたはふだんの暮らしのなかで困ったことがあるときに、誰に相談したい
 と思いますか。【あてはまるもの3つまでに○】

1. 家族や親せき	2. 民生委員・児童委員
3. 友人・知人	4. 自治会役員
5. 近所の人	6. 医師・歯科医師・薬剤師・保健師等
7. 市役所・公民館	8. 社会福祉協議会
9. 福祉サービスの事業者（高齢者施設、障害者施設、保育園など）	
10. 地域包括支援センター	11. 学校や園の先生・職員・恩師
12. 職場の人	13. 警察
14. インターネットの相談サイト等	
15. その他（	）

4. 福祉サービスについて

問15 あなたは、地区の民生委員・児童委員を知っていますか。
 【1つに○】

1. 委員(名前や顔)も、活動の内容も知っている
2. 委員(名前や顔)は知っているが、活動の内容は知らない
3. 委員(名前や顔)は知らないが、活動の内容は知っている
4. 委員(名前や顔)も、活動の内容も知らない

問16 あなたは、「桐生市社会福祉協議会」を知っていますか。
 【1つに○】

1. 名前も活動の内容も知っている
2. 名前は知っているが、活動の内容は知らない
3. 名前も、活動の内容も知らない

第4章 調査票

問17 支部社会福祉協議会は、「誰もが安心して共に暮らせる福祉のまちづくり」を目指す地域住民主体の活動組織団体で、区ごとに設置されています。

「支部社会福祉協議会」は、どんな活動をしているか知っていますか。

【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|-----------------------|---|
| 1. 地域住民の交流事業（サロン活動など） | |
| 2. 助けあい事業（募金活動） | |
| 3. 歳末慰問活動 | |
| 4. その他（ | ） |
| 5. 知らない | |

問18 支部社会福祉協議会の活動を推進するために特に必要なことは何だと思えますか。

【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|------------------|--------------|
| 1. サロン活動 | 2. 見守り活動、声かけ |
| 3. 勉強会（学びの場） | 4. 話し合い |
| 5. 担い手の確保 | 6. 情報発信 |
| 7. 募金活動（活動費用の確保） | 8. わからない |
| 9. その他（ | ） |

問19 あなたは、「地域包括支援センター」を知っていますか。

【1つに○】

- | |
|-------------------------|
| 1. 名前も活動の内容も知っている |
| 2. 名前は知っているが、活動の内容は知らない |
| 3. 名前も、活動の内容も知らない |

問20 高齢者・障がい者・子育て支援などに関する福祉サービスについて、あなたを含め家族の中で、これまでに福祉サービスを利用したことがありますか。

【1つに○】

- | |
|------------------|
| 1. 自分自身が利用した |
| 2. 家族が利用した |
| 3. 自分と家族の双方が利用した |
| 4. 利用しなかった |

問26 災害時の避難や対応について不安に思うことはありますか。

【あてはまるものすべてに○】

1. 情報を得られるか 2. 緊急事態であることを人に知らせられるか 3. まわりの人に助けてもらえるか 4. 避難所まで行くことができるか 5. 避難所で介護、看護をしてもらえるか 6. 避難所で必要な手当を受けたり、薬をもらえたりするか 7. 避難所に必要な設備があるか 8. 自分のけがや病気の状態が悪くならないか 9. 特に不安はない 10. その他 ()
--

問27 先の東日本大震災では、要支援者を近所の人たちで支援して避難を行った事例や、隣組の見回りによって倒壊した自宅から救出された事例があり、コミュニティ内・コミュニティ同士の助け合いが、大きな役割を果たしたといわれています。万一の災害に備え、支え合う関係づくりのために日ごろから行う最も効果的な地域活動は何だと思えますか。【あてはまるものすべてに○】

1. ご近所の人へ、あいさつや声かけ 2. 高齢者や障がい者の見守り 3. サロン活動（交流の場） 4. 自主防災活動 5. 団体活動（老人クラブ、婦人会、育成会、サークル活動など） 6. わからない 7. その他 ()

問28 あなたは、児童や高齢者、障がい者への虐待、家庭内暴力などを見たり、聞いたりしたことがありますか。【1つに○】

1. ある 2. ない

問31 今後、地域福祉を推進していくために重要なことは何だと思えますか。

【あてはまるものすべてに○】

1. 地域での支え合いの仕組みづくりやきっかけづくりを充実する
2. 地域の人が交流できる場をつくる「ふれあいの居場所」をつくる
3. 様々な相談を受け止める「総合相談窓口」の設置など、相談体制を充実する
4. 地域福祉を進める専門職の配置を充実する
5. 福祉サービスなどの情報提供を充実する
6. 学習の機会を通じて福祉意識を高める
7. 「ボランティアや担い手」の育成と活動を活発にする
8. 社会福祉協議会の活動を充実する
9. 社会福祉法人の活動を充実する
10. 高齢者や障がい者などが、在宅で暮らし続けられる福祉サービスや施設を充実する
11. 障がい者の「親なき後」の対策(地域生活支援拠点整備)を充実する
12. 子ども食堂や学習支援などの「子どもの居場所」づくりをはじめ、育児・子育ての支援体制を充実する
13. 低所得者の自立支援を充実する
14. だれもが外出しやすい環境を充実する
15. 防災体制を充実する
16. 防犯・交通安全対策を充実する
17. 空き家対策・空き家の活用を充実する
18. 特にない
19. わからない

問32 桐生市及び桐生市社会福祉協議会で行っている現在の「地域福祉」の取り組みについて、充実度合をどのように感じていますか。【1つに○】

1. 充実していると思う
2. どちらかといえば充実していると思う
3. どちらかといえば充実していないと思う
4. 充実していないと思う
5. わからない

第4章 調査票

問33 その他ご意見、ご要望等がありましたら、ご自由にお書きください。

以上で質問は終わりです。お忙しいところ、たくさんの質問に答えていただきまして本当にありがとうございました。

この回答用紙を **返信用封筒に入れ、切手を貼らずに、5月15日(水)までに、**
ご投函ください。

ご協力ありがとうございました。

桐生市 地域福祉に関するアンケート調査 報告書
令和元年7月

発行：保健福祉部 福祉課 社会福祉係

〒376-8501 群馬県桐生市織姫町1番1号

TEL：0277-46-1111 FAX：0277-45-2940

調査実施：株式会社サーベイリサーチセンター
